B5FK-8951-01 Z0

FUJITSU Notebook LIFEBOOK

LIFEBOOK S937/P

製品ガイド

本書をお読みになる前に
1 各部名称
2 取り扱い
3 周辺機器
4 ソフトウェア
5 BIOS
6 お手入れ
7 トラブルシューティング
8 仕様

目次

本書をお読みになる前に 7
安全にお使いいただくために 7
本書の表記 7
Windowsの操作 9
BIOSやドライバーのアップデートについて 10
商標および著作権について 11

第1章　各部名称

1.1 パソコン本体前面 13
1.2 パソコン本体右側面 15
1.3 パソコン本体左側面 16
1.4 パソコン本体下面 17
1.5 キーボード 18
1.6 状態表示LED 20
1.7 ポートリプリケータ 21

第2章　取り扱い

2.1 フラットポイント 23
2.1.1 注意事項 23
2.1.2 基本操作 24
2.1.3 高度な操作 25
2.1.4 フラットポイントの設定を変更する 27
2.1.5 マウスとフラットポイントを同時に使用する 28
2.1.6 フラットポイントの有効／無効を切り替える 28
2.2 マウス 29
2.2.1 注意事項 29
2.2.2 マウスの基本設定を変更する 29
2.3 タッチパネル 30
2.3.1 注意事項 30
2.3.2 基本操作 31
2.3.3 文字を入力する 32
2.3.4 キャリブレーション 33
2.4 ディスプレイ 34
2.4.1 注意事項 34
2.4.2 明るさを調整する 34
2.4.3 解像度を変更する 35
2.4.4 拡大表示設定を変更する 36
2.4.5 ディスプレイ省電テクノロジー 37

2.5 マルチディスプレイ機能 38
2.5.1 マルチディスプレイ機能とは 38
2.5.2 注意事項 38
2.5.3 マルチディスプレイ機能を設定する 39
2.6 サウンド 40
2.6.1 全体の再生音量を調節する 40
2.6.2 ソフトウェアごとの再生音量を調節する 41
2.6.3 機器や項目ごとの音量を調節する 41
2.6.4 オーディオ端子の機能を切り替える 43
2.6.5 既定のオーディオ機器を選択する 43
2.6.6 スピーカーの音質を調節する 44
2.7 省電力 46
2.7.1 省電力状態 46
2.7.2 電源を切る 48
2.7.3 本パソコンの節電機能 50
2.7.4 省電力設定 50
2.7.5 ピークシフト 51
2.7.6 ECO Sleep 52
2.8 バッテリ 53
2.8.1 注意事項 53
2.8.2 バッテリを充電する 54
2.8.3 バッテリの残量を確認する 55
2.8.4 バッテリを交換する 56
2.8.5 バッテリの充電モードを変更する 58
2.8.6 バッテリの放電動作 58
2.8.7 バッテリの状態を確認する 58
2.9 光学ドライブ 59
2.9.1 注意事項 59
2.9.2 使用できるディスク 59
2.9.3 ディスクをセットする 61
2.9.4 ディスクを取り出す 62
2.9.5 ディスクに書き込む 63
2.9.6 DVD-Videoを再生する 64
2.10 モバイルマルチベイ 66
2.10.1 注意事項 66
2.10.2 モバイルマルチベイユニットを交換する 67
2.11 通信 68
2.11.1 有線LAN 68
2.11.2 無線LAN 69
2.11.3 無線WAN 70
2.11.4 Bluetoothワイヤレステクノロジー 70
2.11.5 無線通信機能の電波を発信する／停止する 70
2.12 ステータスパネルスイッチ 73
2.12.1 注意事項 73

2.12.2 ステータスパネルスイッチを起動する 73
2.12.3 ステータスパネルスイッチでモードを切り替える 74
2.12.4 各モードの設定を変更する 75
2.13 ダイレクト・メモリースロット 76
2.13.1 注意事項 76
2.13.2 使用できるメモリーカード 77
2.13.3 メモリーカードをセットする 77
2.13.4 メモリーカードを取り出す 78
2.14 暗号化機能付フラッシュメモリディスク 79
2.15 セキュリティチップ（TPM） 80
2.16 電源オフUSB充電機能 81
2.16.1 注意事項 81
2.16.2 電源オフUSB充電機能の設定を変更する 82

第3章 周辺機器

3.1 周辺機器を取り付ける前に 84
3.1.1 注意事項 84
3.2 メモリ 85
3.2.1 注意事項 85
3.2.2 取り付けられるメモリ 85
3.2.3 メモリを取り付ける 86
3.2.4 メモリを取り外す 87
3.3 ポートリプリケータ 88
3.3.1 注意事項 88
3.3.2 ポートリプリケータを取り付ける 89
3.3.3 ポートリプリケータを取り外す 89
3.4 ドコモUIMカード 90
3.4.1 注意事項 90
3.4.2 ドコモUIMカードを取り付ける 91
3.4.3 ドコモUIMカードを取り外す 92
3.5 コネクタの接続／取り外し 93
3.5.1 注意事項 93
3.5.2 ディスプレイコネクタ 94
3.5.3 USBコネクタ 95
3.5.4 オーディオ端子 96
3.5.5 LANコネクタ 96

第4章 ソフトウェア

4.1 ソフトウェアの紹介 98
4.1.1 一覧表の見かた 98
4.1.2 セキュリティ関連のソフトウェア 99
4.1.3 サポート関連のソフトウェア 100
4.1.4 ユーティリティ 101

4.1.5 CD/DVD関連のソフトウェア 102
4.1.6 Office製品 103
4.2 インストール 104
4.2.1 「ドライバーズディスク検索」からのインストール 104
4.2.2 「マカフィー リブセーフ」のインストール 106
4.2.3 「i-フィルター」のインストール 106
4.2.4 「SMARTACCESS/Basic」のインストール 106
4.2.5 「WinDVD」のインストール 106
4.2.6 Office製品のインストール 107
4.3 アンインストール 108
4.3.1 注意事項 108
4.3.2 アンインストール方法 108

第5章 BIOS

5.1 BIOSセットアップ 110
5.2 BIOSセットアップの操作のしかた 111
5.2.1 BIOSセットアップを起動する 111
5.2.2 BIOSセットアップ画面 111
5.2.3 BIOSセットアップメニュー 112
5.2.4 BIOSセットアップを終了する 112
5.2.5 起動メニューを使用する 113
5.3 設定事例集 114
5.3.1 BIOSのパスワード機能を使う 114
5.3.2 起動デバイスを変更する 117
5.3.3 セキュリティチップの設定を変更する 118
5.3.4 パスワードの代わりに指紋認証を使う 119
5.3.5 パスワードの代わりに手のひら静脈認証を使う 120
5.3.6 Wakeup on LANを有効にする 121
5.3.7 イベントログを確認する 121
5.3.8 イベントログを消去する 122
5.3.9 ご購入時の設定に戻す 122
5.4 ME BIOS Extension 123
5.4.1 初期パスワードを変更する 124
5.4.2 MEセットアップを起動する 126
5.4.3 MEセットアップを終了する 127
5.4.4 メニュー詳細 128

第6章 お手入れ

6.1 日常のお手入れ 130
6.1.1 パソコン本体、キーボード、マウス、ポートリプリケータの表面の汚れ 130
6.1.2 手のひら静脈センサー 130
6.1.3 液晶ディスプレイ 131

第7章　トラブルシューティング

7.1 トラブル発生時の基本操作 133
7.1.1 状況を確認する 133
7.1.2 以前の状態に戻す 134
7.1.3 トラブルシューティングで調べる 134
7.1.4 インターネットで調べる 134
7.1.5 診断プログラムを使用する 134
7.1.6 サポートの窓口に相談する 136
7.2 よくあるトラブルと解決方法 137
7.2.1 トラブル一覧 137
7.2.2 起動・終了時のトラブル 139
7.2.3 Windows・ソフトウェア関連のトラブル 142
7.2.4 ハードウェア関連のトラブル 143
7.2.5 エラーメッセージ一覧 155
7.3 それでも解決できないときは 158
7.3.1 お問い合わせ先 158

第8章　仕様

8.1 本体仕様 160
8.1.1 LIFEBOOK S937/P 160
8.2 CPU 168
8.3 ディスプレイ 170
8.3.1 シングル表示／拡張デスクトップ表示の解像度 170
8.3.2 クローン表示の解像度 172
8.4 光学ドライブ 173
8.5 無線LAN 174

廃棄・リサイクル 176

付録1 パソコン本体の廃棄・譲渡時の注意 177
パソコンの廃棄・譲渡時の
フラッシュメモリディスク上のデータ消去に関する注意 177
フラッシュメモリディスクデータ消去 178

付録2 Windowsの新規インストールについて 180
注意事項 180
新規インストールの準備 181
新規インストール手順 181

付録3 認定および準拠について 183

本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくために

本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が『取扱説明書』に記載されています。特に、「安全上のご注意」をよくお読みになり、理解されたうえで本製品をお使いください。

本書の表記

本書の内容は2017年3月現在のものです。お問い合わせ先やURLなどが変更されている場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」へお問い合わせください。詳しくは、『取扱説明書』をご覧ください。

■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
重要	お使いになるときの注意点や、してはいけないことを記述しています。 必ずお読みください。
POINT	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
→	参照ページを示しています。

■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】＋【F3】キー、【Shift】＋【↑】キーなど

■ 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例：コントロールパネルの「システムとセキュリティ」をクリックし、「システム」をクリックし、「デバイスマネージャー」をクリックする操作

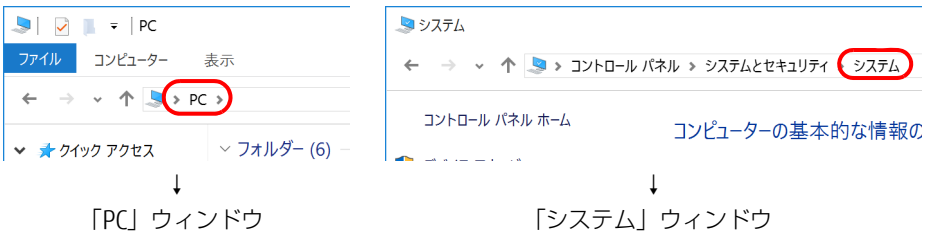
↓

「システムとセキュリティ」→「システム」の「デバイスマネージャー」の順にクリックします。

■ ウィンドウ名の表記

本文中のウィンドウ名は、アドレスバーの最後に表示されている名称を表記しています。

例：



↓ 「PC」ウィンドウ

↓ 「システム」ウィンドウ

■ 画面例およびイラスト

本文中の画面およびイラストは一例です。お使いの機種やモデルによって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、イラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略したり形状を簡略化したりしていることがあります。

■ 周辺機器の使用

本文中の操作手順において、DVDなどを使用することがあります。
操作に必要なドライブなどが搭載されていないモデルをお使いの場合は、必要に応じて別売の周辺機器を用意してください。
使用できる周辺機器については、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」（http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syskou/）をご覧ください。
また、使用方法については、周辺機器のマニュアルをご覧ください。

■ 本文に記載しているディスク

ディスク名称
リカバリデータディスク
リカバリ起動ディスク
ドライバーズディスク
Corel® WinDVD®

ご購入時の構成によっては、これらのディスクは添付されていません。
本パソコンに格納されているイメージからディスクを作成する必要があります。作成方法については『リカバリガイド』をご覧ください。

■ 本文に記載している仕様とお使いの機種との相違

ご購入時の構成によっては、本文中の説明がお使いの機種の仕様と異なる場合があります。あらかじめご了承ください。
なお、本文内において、機種やOS別の書き分けがある箇所については、お使いの機種の情報をお読みください。

■ 製品名の表記

本文中では、製品名称を次のように略して表記します。

製品名称	本文中の表記		
Windows 10 Pro 64ビット版	Windows 10（64ビット版）	Windows 10	Windows
Windows Internet Explorer 11	Internet Explorer		
Microsoft Office Professional 2016	Office Professional 2016	Office	
Microsoft Office Home & Business 2016	Office Home & Business 2016		
Microsoft Office Personal 2016	Office Personal 2016		
Windows Media® Player 12	Windows Media Player		
Bluetooth®	Bluetooth		
Corel® WinDVD®	WinDVD		
FUJITSU Software Portshutter Premium	Portshutter Premium		
FUJITSU Software パソコン乗換ガイド	パソコン乗換ガイド		
i-フィルター® for マルチデバイス	i-フィルター		
Roxio Creator LJ	Roxio Creator		
マカフィー® リブセーフ™	マカフィー リブセーフ		

Windowsの操作

■ アクションセンター

アプリからの通知を表示する他、クリックすることで画面の明るさ設定や通信機能の状態などを設定できるアイコンが表示されます。

1 画面右下の通知領域にある をクリックします。
画面右側に「アクションセンター」が表示されます。

■ 「コントロールパネル」 ウィンドウ

次の手順で「コントロールパネル」ウィンドウを表示させてください。

1 「スタート」ボタン→「Windows システム ツール」→「コントロールパネル」の順にクリックします。

■ ユーザーアカウント制御

本書で説明しているWindowsの操作の途中で、「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示される場合があります。これは、重要な操作や管理者の権限が必要な操作の前にWindowsが表示しているものです。表示されるメッセージに従って操作してください。

■ 通知領域のアイコン

デスクトップ画面右下の通知領域にすべてのアイコンが表示されていない場合があります。表示されていないアイコンを一時的に表示するには、通知領域の をクリックします。

■ Windowsモビリティセンター

本パソコンのいくつかの機能は、「Windowsモビリティセンター」で操作できます。
「Windowsモビリティセンター」は次の操作で起動します。

1 デスクトップ画面右下の通知領域にある「電源」アイコン（ ）を右クリックし、「Windowsモビリティセンター」をクリックします。

POINT

- 次の操作でも「Windowsモビリティセンター」を表示できます。
  ・【】＋【X】キーを押す
  ・「スタート」ボタンを右クリックする
  表示されたメニューから「モビリティセンター」をクリックします。

BIOSやドライバーのアップデートについて

本パソコンには、さまざまなソフトウェアや周辺機器の接続／制御に必要なBIOS、ドライバーなどが搭載されています。
これらのソフトウェア、BIOS、ドライバーに対して、アップデートプログラムが提供されることがあります。
アップデートプログラムには、次のような内容が含まれています。

- 機能の向上、追加
- 操作性の向上
- 品質改善

本パソコンをより快適にお使いいただくために、常に最新版のBIOSやドライバーを適用してください。
アップデート方法については、弊社アップデートサイト（http://www.fmworld.net/biz/fmv/index_down.html）をご覧ください。

商標および著作権について

Intel、インテル、Intel ロゴ、Intel Core、Intel SpeedStep、Intel vPro、Celeronは、アメリカ合衆国および / またはその他の国における Intel Corporation の商標です。

Bluetooth® のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG,Inc. が所有する登録商標であり、富士通株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。

Corel、Corelバルーンロゴ、Roxio、Roxioのロゴ、Roxio Creator、WinDVDは、カナダ、アメリカ合衆国および/またはその他の国のCorel Corporationおよび/またはその関連会社の商標または登録商標です。

FeliCaは、ソニー株式会社の登録商標です。
FeliCaは、ソニー株式会社が開発した非接触ICカードの技術方式です。

HDMI、High-Definition Multimedia Interface、およびHDMIロゴは、米国およびその他の国におけるHDMI Licensing, LLCの商標または、登録商標です。

デジタルアーツ/DIGITAL ARTS、ZBRAIN、アイフィルター /i-フィルターはデジタルアーツ株式会社の登録商標です。

InsydeH20はInsyde Softwareの登録商標です。

MaxxAudioは、Waves Audio Ltd.の米国およびその他の国における登録商標です。

McAfee、マカフィー、McAfee のロゴ、LiveSafe、リブセーフは、米国法人 Intel Corporation またはMcAfee, Inc.、もしくは米国またはその他の国の関係会社における商標です。

SDXCロゴは SD-3C, LLC. の商標です。

Xi、FOMAはNTTドコモの商標または登録商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

その他のすべての商標は、それぞれの所有者に帰属します。

Copyright FUJITSU LIMITED 2017

本パソコンは、VCCI 自主規制措置運用規程に基づく技術基準に適合した文言、またはマークを画面に電子的に表示しています。
表示の操作方法は、「付録3 認定および準拠について」（→P.183）をご覧ください。

本パソコンは、電波法ならびに電気通信事業法に基づく技術基準に適合し、技適マーク を画面に表示することができます。
表示の操作方法は、「付録3 認定および準拠について」（→P.183）をご覧ください。

1

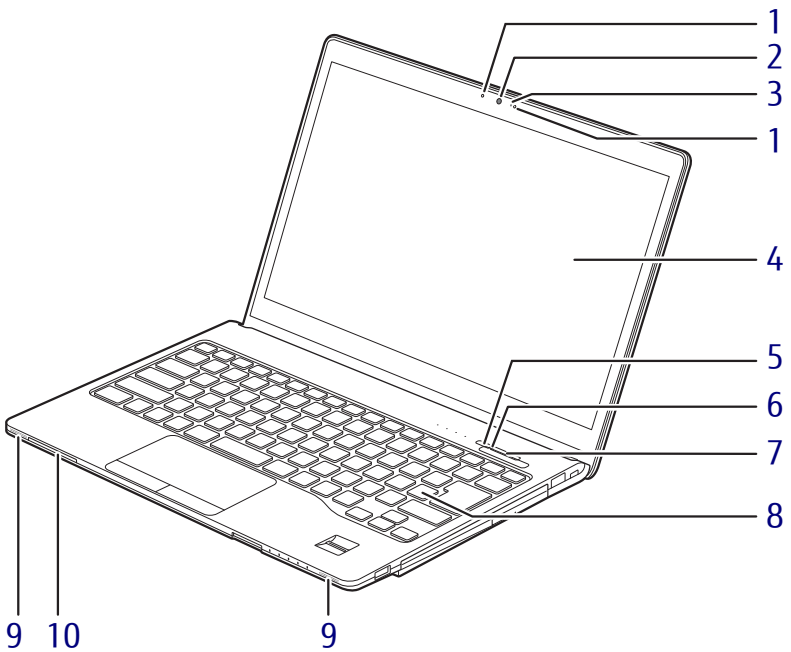
第1章

各部名称

各部の名称と働きについて説明しています。

1.1 パソコン本体前面 13
1.2 パソコン本体右側面 15
1.3 パソコン本体左側面 16
1.4 パソコン本体下面 17
1.5 キーボード 18
1.6 状態表示LED 20
1.7 ポートリプリケータ 21

1.1　パソコン本体前面



1 内蔵マイク
（Webカメラ搭載機種）
音声通話や録音ができます。

2 Webカメラ
（Webカメラ搭載機種）

3 Webカメラ状態表示LED
（Webカメラ搭載機種）
Webカメラが動作しているときに点灯します。

4 液晶ディスプレイ
（→P.34）
タッチパネル搭載機種の場合は、タッチ操作に対応します。（→P.30）

5 ECOボタン
省電力モードのオン／オフを切り替えます。（→P.73）

6 電源ランプ
本パソコンの状態を表示します。

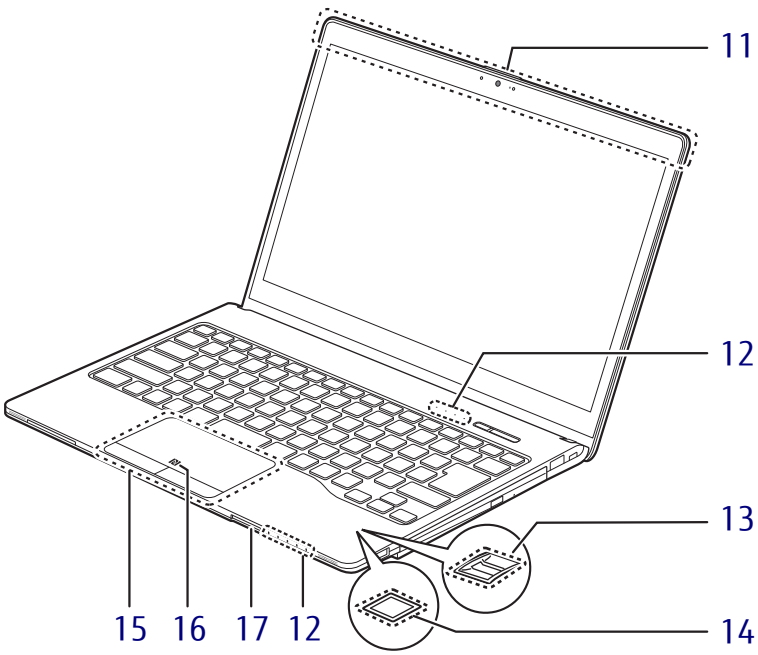
LEDランプ	本パソコンの状態
点灯	動作状態
点滅	スリープ状態
消灯	電源オフまたは休止状態

7 ⏻ 電源ボタン
パソコン本体の電源を入れたり、省電力状態（→P.46）にしたりします。

8 キーボード
（→P.18）

9 スピーカー
（→P.40）

10 スマートカードスロット
（スマートカード搭載機種）
Windowsの起動や、ソフトウェアのサインイン時のセキュリティ認証用に使えるスマートカードをセットします。
スマートカードのICチップのある方を下側にして挿入してください。
詳しくは、『SMARTACCESSファーストステップガイド』をご覧ください。



11 ワイヤレスアンテナ
（無線LAN、無線WAN、Bluetoothワイヤレステクノロジー搭載機種）

12 状態表示LED
（→P.20）

13 指紋センサー
（指紋センサー搭載機種）
コンピューターやWindowsの起動時などに指紋認証によるセキュリティを設定できます。
詳しくは、『SMARTACCESSファーストステップガイド』をご覧ください。

14 手のひら静脈センサー
（手のひら静脈センサー搭載機種）
コンピューターやWindowsの起動時などに静脈認証によるセキュリティを設定できます。詳しくは、『SMARTACCESSファーストステップガイド』をご覧ください。
お手入れ方法については、「6.1.2 手のひら静脈センサー」（→P.130）をご覧ください。

15 フラットポイント
（→P.23）

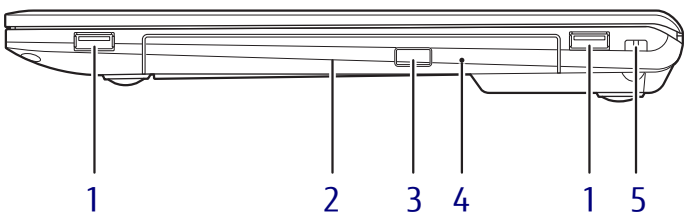
16 NFCポート
（NFCポート搭載機種）
Windowsの起動、ソフトウェアのサインイン時に非接触ICカード技術方式FeliCaに対応したICカードによるセキュリティを設定できます。IDやパスワードなどのセキュリティ情報はICカードに格納します。詳しくは、『SMARTACCESSファーストステップガイド』をご覧ください。

POINT

- NFCを使用する場合は、Nマークの付近にかざしてください。
- ICカードはパソコン本体から3mm以下にかざし、Nマークを中心に前後左右10mmの範囲内で動かしてください。
- NFCポートの読み取り時は、フラットポイントによる操作は行わないでください。

17 ダイレクト・メモリースロット
（→P.76）

1.2 パソコン本体右側面



1 USB3.0コネクタ
（→P.95）

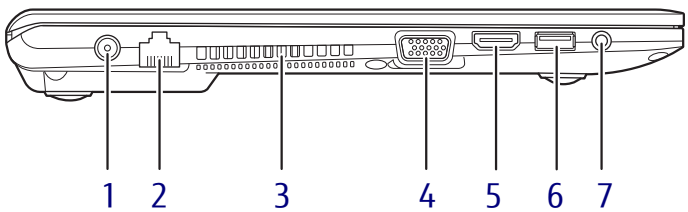
2 モバイルマルチベイ
次のいずれかのユニットを搭載することができます。
・内蔵スーパーマルチドライブユニット
（→P.59）
・内蔵DVD-ROMドライブユニット
（→P.59）
・増設用内蔵バッテリユニット
・モバイルマルチベイ用カバー
ユニットは交換することができます。
（→P.67）

3 ディスク取り出しボタン
（光学ドライブ搭載機種）

4 強制取り出し穴
（光学ドライブ搭載機種）
光学ドライブのトレーが開かなくなったときに使用します。（→P.63）

5 盗難防止用ロック取り付け穴
盗難防止用ケーブルを取り付けます。
弊社がお勧めするワイヤーロック／盗難防止用品については、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」（http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syskou/）をご覧ください。

1.3 パソコン本体左側面



1 DC-INコネクタ
添付のACアダプタを接続します。

重要

- 本DC-INコネクタには、必ずパソコン専用のACアダプタを接続してください。

2 LANコネクタ
（→P.96）

3 排気孔
パソコン本体内部の熱を外部に逃がします。

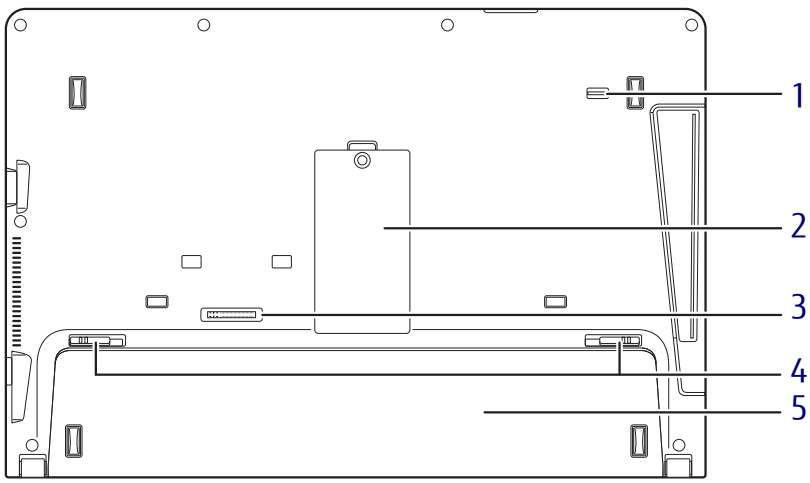
4 アナログディスプレイコネクタ
（→P.94）

5 HDMI出力端子
（→P.94）

6 USB3.0コネクタ
（電源オフUSB充電機能対応）
（→P.95）
電源オフUSB充電機能については、「2.16 電源オフUSB充電機能」（→P.81）をご覧ください。

7 マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子
（→P.96）

1.4 パソコン本体下面



1 モバイルマルチベイロック
（→P.67）

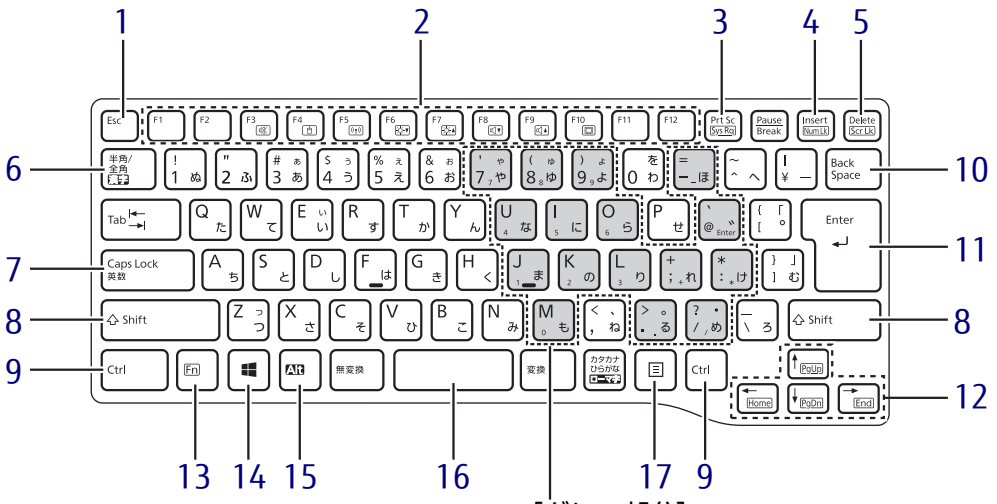
2 メモリスロットカバー
（→P.85）

3 ポートリプリケータ接続コネクタ
（→P.89）

4 内蔵バッテリカバーロック
内蔵バッテリパックを取り外すときにスライドさせます。（→P.56）

5 内蔵バッテリカバー
（→P.56）

1.5 キーボード



1 【Esc】キー

2 ファンクションキー（【F1】～【F12】）

3 【Prt Sc】キー
画面に表示されている内容を画像としてコピーできます。

4 【Insert】キー／【Num Lk】キー

【Insert】キー	入力する文字の挿入／上書きを切り替える
【Num Lk】キー	【Fn】キーを押しながらこのキーを押し、テンキーモードに切り替える（→P.19）

5 【Delete】キー／【Scr Lk】キー

【Delete】キー	カーソルの右側にある1文字を削除する
【Scr Lk】キー	【Fn】キーと組み合わせて使う

6 【半角／全角】キー
日本語入力のオン／オフを切り替えます。

7 【Caps Lock】キー
【Shift】キーを押しながらこのキーを押して、アルファベットの大文字／小文字を切り替えます。

8 【Shift】キー

9 【Ctrl】キー

10 【Back Space】キー

11 【Enter】キー

12 カーソルキー

13 【Fn】キー
【Fn】キーを押しながら、枠で囲われている刻印のあるキーを押すと、それぞれのキーに割り当てられた機能を使用できます。

【Fn】＋【F3/🔇】	スピーカーやヘッドホンのオン／オフを切り替える（→P.40）
【Fn】＋【F4/🖱】	フラットポイントの有効と無効を切り替える（→P.28）
【Fn】＋【F5/((↑))】	無線通信の電波の発信／停止を切り替える（→P.71）
【Fn】＋【F6/☼▼】	液晶ディスプレイを暗くする（→P.34）
【Fn】＋【F7/☼▲】	液晶ディスプレイを明るくする（→P.34）
【Fn】＋【F8/🔉▼】	音量を小さくする（→P.40）
【Fn】＋【F9/🔊▲】	音量を大きくする（→P.40）
【Fn】＋【F10/▣】	外部ディスプレイを接続した場合に、液晶ディスプレイと外部ディスプレイで表示先を切り替える
【Fn】＋【←/Home】	カーソルを行の最初に移動する

【Fn】＋【Ctrl】＋【←/Home】	文章の最初に移動する
【Fn】＋【↑/Pg Up】	前の画面に切り替える
【Fn】＋【↓/Pg Dn】	次の画面に切り替える

14 【⊞】（Windows）キー
「スタート」メニューを表示します。

15 【Alt】キー

16 【Space】キー

17 【☰】（アプリケーション）キー
選択した項目のショートカットメニューを表示します。
マウスなどの右クリックと同じ役割をします。

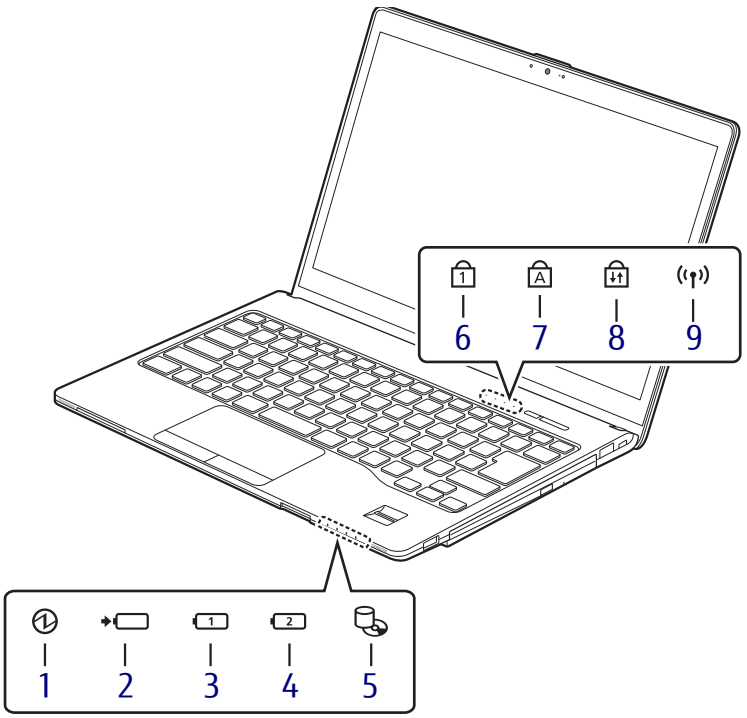
■ テンキーモード

文字キーの一部をテンキー（数字の入力を容易にするキー配列）として使えるように切り替えた状態のことを「テンキーモード」といいます。【Num Lk】キーを押すと、テンキーモードになります。テンキーモードのときは、状態表示LEDのNum Lockランプが点灯します。
テンキーモードで入力できる文字は、各キーの下段に小さく刻印されています。

POINT

- 別売のテンキーボードをパソコン本体に接続して【Num Lk】キーを押すと、テンキーボードのテンキーが有効になり、パソコン本体のテンキーは無効になります。
- BIOSセットアップの「キーボード／マウス設定」で、「起動時のNumlock設定」を「オン（Fnキー）」に設定すると、【Fn】キーを押しながらパソコン本体のテンキーが使用できるようになります。

1.6 状態表示LED



1 ⏻ 電源ランプ
本パソコンの状態を表示します。

LEDランプ	本パソコンの状態
点灯	動作状態
点滅	スリープ状態
消灯	電源オフまたは休止状態

2 バッテリ充電ランプ
（→P.54）

3 バッテリ残量ランプ
（→P.55）

4 増設用内蔵バッテリ残量ランプ
（→P.55）

5 ディスクアクセスランプ
フラッシュメモリディスクやCD、DVDなどにアクセスしているときに点灯します。

6 Num Lockランプ
キーボードがテンキーモード（→P.19）のときに点灯します。

7 Caps Lockランプ
アルファベットの大文字入力モードのときに点灯します。

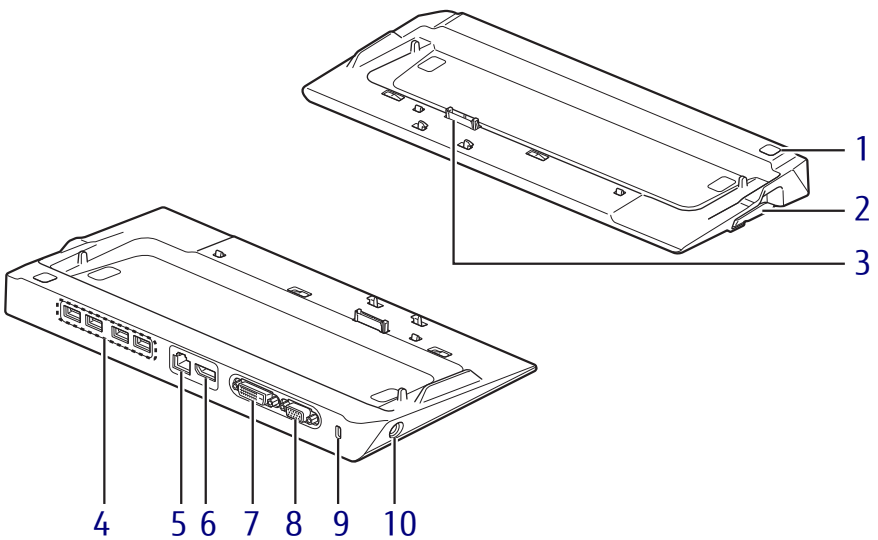
8 Scroll Lockランプ
【Fn】＋【Scr Lk】キーを押して、スクロールロックの設定と解除を切り替えます。点灯中の動作は、ソフトウェアに依存します。

9 ワイヤレス通信ランプ
本パソコンの無線の状態を表示します。

LEDランプ	無線通信状態
点灯	可 （機内モード（→P.72）オフ時）
点滅	可 （インテル® AMT機能が有効で、省電力状態および電源オフ時）
消灯	不可 （機内モード（→P.72）オン時）

1.7 ポートリプリケータ

対 象　ポートリプリケータ使用時



1 ⏻ 電源ボタン
パソコン本体の電源を入れたり、省電力状態（→P.46）にしたりします。

2 ◀ ポートリプリケータ取り外しレバー
ポートリプリケータをパソコン本体から取り外す場合に使用します。
（→P.89）

3 本体接続コネクタ
パソコン本体下面にあるポートリプリケータ接続コネクタを接続します。
（→P.89）

4 USB3.0コネクタ
（→P.95）

5 LANコネクタ
（→P.96）

6 DisplayPortコネクタ
（→P.94）

7 DVI-Dコネクタ
（→P.94）

8 アナログディスプレイコネクタ
（→P.94）

9 盗難防止用ロック取り付け穴
盗難防止用ケーブルを取り付けます。
弊社がお勧めするワイヤーロック／盗難防止用品については、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」（http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syskou/）をご覧ください。

10 DC-INコネクタ
添付のACアダプタを接続します。

重要

- 本DC-INコネクタには、必ずポートリプリケータ専用のACアダプタを接続してください。

2

第2章

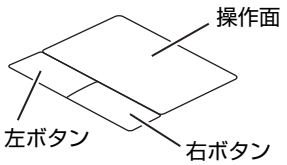
取り扱い

本パソコンを使用するうえでの基本操作や、本パソコンに取り付けられている（取り付け可能な）周辺機器の基本的な取り扱い方について説明しています。

2.1 フラットポイント 23
2.2 マウス 29
2.3 タッチパネル 30
2.4 ディスプレイ 34
2.5 マルチディスプレイ機能 38
2.6 サウンド 40
2.7 省電力 46
2.8 バッテリ 53
2.9 光学ドライブ 59
2.10 モバイルマルチベイ 66
2.11 通信 68
2.12 ステータスパネルスイッチ 73
2.13 ダイレクト・メモリースロット 76
2.14 暗号化機能付フラッシュメモリディスク 79
2.15 セキュリティチップ （TPM） 80
2.16 電源オフUSB充電機能 81

2.1 フラットポイント

フラットポイントは、指先の操作でマウスポインターを動かすことのできるポインティングデバイスです。
ここでは、フラットポイントの機能について説明しています。



2.1.1　注意事項

- フラットポイントは操作面表面の結露、湿気などにより誤動作することがあります。また、濡れた手や汗をかいた手でお使いになった場合、あるいは操作面の表面が汚れている場合は、マウスポインターが正常に動作しないことがあります。このような場合は、電源を切ってから、薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布で汚れを拭き取ってください。
- フラットポイントは、その動作原理上、指先の乾燥度などにより、動作に若干の個人差が発生する場合があります。
- ご購入時は、パソコン本体にマウスを接続すると、フラットポイントが無効になるように設定されています。フラットポイントとマウスを同時に使用する場合は、「2.1.5 マウスとフラットポイントを同時に使用する」（→P.28）をご覧ください。

2.1.2　基本操作

左ボタン／右ボタンを押すと、マウスの左クリック／右クリックの動作をします。またフラットポイントの操作面を軽く、素早くたたく（タップする）とマウスの左クリックの動作をし、2本指でたたく（タップする）とマウスの右クリックの動作をします。
操作面を指先でなぞると、画面上のマウスポインターが移動します。マウスポインターが操作面の端まで移動した場合は、一度操作面から指を離し、適当な場所に降ろしてからもう一度なぞってください。

POINT

- 指の先が操作面に接触するように操作してください。指の腹を押さえつけるように操作すると、マウスポインターが正常に動作しないことがあります。

■ フラットポイントの基本設定を変更する

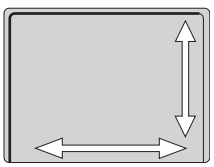
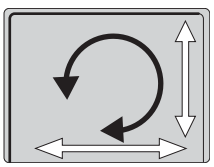
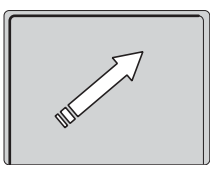
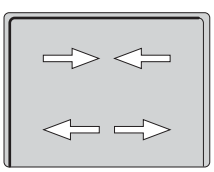
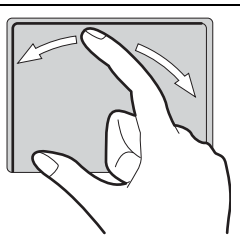
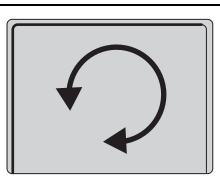
左右のボタンの機能や、マウスポインター、ダブルクリック、スクロールの速度などの設定を変更できます。

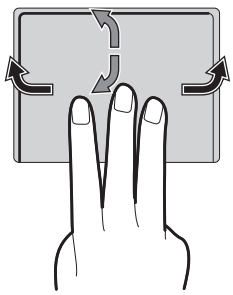
1 コントロールパネルの「マウスのプロパティ」を開きます。
「ハードウェアとサウンド」→「デバイスとプリンター」の「マウス」

2 それぞれのタブをクリックし、設定を変更します。

2.1.3　高度な操作

特定の操作をすることで、スクロールやズームといった機能が使用できます。機能によっては、ご購入時は無効に設定されている場合があります。
設定方法については、「2.1.4 フラットポイントの設定を変更する」（→P.27）をご覧ください。

機能	フラットポイントの操作	
上下または左右のスクロール		1本の指で操作する場合、右端や下端をなぞると、ウィンドウの表示がスクロールします。 2本の指で操作する場合、操作面の任意の位置に2本の指を置き、上下や左右になぞるとウィンドウの表示がスクロールします。
ChiralScrolling（カイラルスクローリング）		右端や下端をなぞってウィンドウの表示をスクロールさせた後、指を離さずに円状になぞると、スクロールの動作が続きます。 ・時計回り　：下／左にスクロール ・反時計回り：上／右にスクロール
Momentum（モーメンタム）		素早くなぞると、マウスポインターがなぞった方向にしばらく動きます。
つまみズーム		2本の指でつまんだり開いたりする操作をすると、ウィンドウの表示が縮小、拡大します。 ・つまむ：縮小 ・開く　：拡大
TwistRotate（ツイストローテイト）		2本の指を置き、回転すると、画像などの表示が回転します。
ChiralRotate（カイラルローテイト）		フラットポイントの操作面の左端に指を置き、そこから時計回りまたは反時計回りに円を描くようになぞります。 なぞった方向に画像を 90 度単位で回転させることができます。

機能	フラットポイントの操作	
3本指で弾く		フラットポイントの操作面に3本の指を置き、素早くはらいます。 ・右にはらうと、次の画像を表示したり、ブラウザーなどの「進む」と同様の動きをしたりします。 ・左にはらうと、前の画像を表示したり、ブラウザーなどの「戻る」と同様の動きをしたりします。 ・上下方向にはらうと、音量を調節することができます。 ※上方向にはらったときに、ボリュームが大きくなりすぎることがあるので、注意してください。

2.1.4　フラットポイントの設定を変更する

1 コントロールパネルの「マウスのプロパティ」を開きます。
「ハードウェアとサウンド」→「デバイスとプリンター」の「マウス」

2 「デバイス設定」タブをクリックします。

3 「デバイス」から「Synaptics TouchPad」を選択し、「設定」をクリックします。

POINT

- デスクトップ画面右下の通知領域にある「Synapticsポインティングデバイス」アイコンをダブルクリックしても、「デバイス設定」ウィンドウを表示できます。

4 設定したい機能のチェックを付け、「適用」をクリックします。
フラットポイントの操作面で、次のような操作を行うことができます。

POINT

- 各項目を選択すると、ウィンドウの右側に各機能の操作方法が動画で表示されます。
- 各項目を選択したときに表示される（設定）をクリックすると、詳細な設定を行うことができます（項目によっては設定アイコンが表示されないものもあります）。
（ヘルプ）をクリックすると、各機能の説明が表示されます。

複数の指によるジェスチャー			
	2本指でのスクロール	フラットポイントの操作面の任意の位置に2本の指を置き、上下や左右になぞると画面やウィンドウのスクロールが行えます。	
	つまみズーム	フラットポイントの操作面で、2本の指でつまんだり開いたりする動作をします。つまむ操作をすると画像やウィンドウ内の画面が縮小表示され、開く操作をすると拡大表示されます。	
	回転	TwistRotate（ツイストローテイト）	フラットポイントの操作面に2本の指を置き、時計回り、または反時計回りに弧を描くようになぞると、なぞった方向に画像などを回転させることができます。
		ChiralRotate（カイラルローテイト）	フラットポイントの操作面の左端に指を置き、そこから時計回りまたは反時計回りに円を描くようになぞります。 なぞった方向に画像を90度単位で回転させることができます。
	音量を調節する	フラットポイントの操作面に3本の指を置いて、上下になぞることで音量を調節できます。	
	3本指で弾く	フラットポイントの操作面に3本の指を置き、素早くはらいます。 ・ブラウザーなどを表示しているときに、右にはらうと「進む」と同様の動きをします。左にはらうと「戻る」と同様の動きをします。 ・上下方向にはらうと、音量を調節することができます。 ※上方向にはらったときに、ボリュームが大きくなりすぎることがあるので、注意してください。 うまく反応しない場合は、3本の指を少し離して操作してください。	
スクロール		フラットポイントの操作面の右端や下端をなぞると画面やウィンドウのスクロールが行えます。	
	上下にスクロールしたい場合（垂直スクロール）	フラットポイントの操作面の右端を上下になぞります。	
	左右にスクロールしたい場合（水平スクロール）	フラットポイントの操作面の下端を左右になぞります。	
	ChiralScrolling（カイラルスクローリング）	1本指でのスクロールをした後に、そのままフラットポイントの操作面から指を離さずに、フラットポイント内を時計回りや反時計回りになぞると、指を動かしている間、ウィンドウ内のスクロールが続きます。	

ポインティング		
	感度	「タッチ感度」スライダーで、フラットポイントの感度を変更できます。
	Momentum（モーメンタム）	フラットポイントの操作面を素早くなぞると、しばらくの間、なぞった方向にマウスポインターが動きます。
	SmartSense	「SmartSense」スライダーで、フラットポイントの誤動作を軽減します。
タップ		タップによってマウスの左ボタンの操作などの設定ができます。
ボタン		左右のボタンを押したときの動作を設定します。

重 要

- マウスポインターが勝手に動いてしまう場合
  手のひらや袖口がフラットポイントに触れると、マウスポインターが動いてしまうことがあります。次の項目でフラットポイントの感度を変更すると改善できる場合があります。
  ・「ポインティング」の「感度」：フラットポイントの感度を調整できます。
  - 「軽く」側に動かすとタッチ感度が上がり、「重く」側に動かすとタッチ感度が下がります。
  - 「重く」に調整すると誤反応を防止しやすくなりますが、マウスポインターが動きにくくなることがあります。その場合、フラットポイントに指を強く押し付けるようにすると、マウスポインターを操作できます。

  ・「ポインティング」の「SmartSense」：手のひらなどの接触による誤動作を軽減します。
  - 「最大」側に動かすとタッチ感度が下がり、「オフ」側に動かすとタッチ感度が上がります。
  - 誤反応を防止するには、「最大」側に動かして調整してください。

  詳しくは、各項目のヘルプをご覧ください。

5 「OK」をクリックします。

2.1.5　マウスとフラットポイントを同時に使用する

ご購入時は、パソコン本体にマウスを接続すると、フラットポイントが無効になるように設定されています。フラットポイントとマウスを同時に使用する場合は、「マウスのプロパティ」で次のように設定してください。

1 コントロールパネルの「マウスのプロパティ」を開きます。
「ハードウェアとサウンド」→「デバイスとプリンター」の「マウス」

2 「デバイス設定」タブの「USBマウス接続時に内蔵ポインティングデバイスを無効にする。」のチェックを外し、「OK」をクリックします。

2.1.6　フラットポイントの有効／無効を切り替える

【Fn】＋【F4】キーを押すたびに、次のようにフラットポイントの設定が切り替わります。

無効 → USBマウス接続時は無効 → 有効

POINT

- 【Fn】＋【F4】キーを押すたびに、画面右下部に状況を示すメッセージが表示されます。
  フラットポイントを無効にする場合は、必ずUSBマウスを接続してください。

2.2 マウス

対 象　マウス使用時

ここでは、マウスの基本設定について説明しています。

2.2.1 注意事項

- ご購入時は、パソコン本体にマウスを接続すると、フラットポイントが無効になるように設定されています。フラットポイントとマウスを同時に使用する場合は、「2.1.5 マウスとフラットポイントを同時に使用する」（→P.28）をご覧ください。
- 光学式マウスは、マウス底面から赤い光を発しています。レーザー式マウスは、マウス底面から目には見えないレーザー光を発しています。直接目に向けると、目に悪い影響を与えることがありますので避けてください。
- 光学式マウスおよびレーザー式マウスのセンサー部分を汚したり、傷を付けたりしないでください。
- 光学式マウスおよびレーザー式マウスは、次のようなものの表面では、正しく動作しない場合があります。
  ・鏡やガラスなど反射しやすいもの
  ・光沢のあるもの
  ・濃淡のはっきりしたしま模様や柄のもの（木目調など）
  ・網点の印刷物など、同じパターンが連続しているもの
- 光学式マウスおよびレーザー式マウスは、本来はマウスパッドを必要としませんが、マウス本体や傷が付きやすい机、テーブルの傷防止のために、マウスパッドをお使いになることをお勧めします。

2.2.2 マウスの基本設定を変更する

左右のボタンの機能や、マウスポインター、ダブルクリック、スクロールの速度などは、「マウスのプロパティ」で変更できます。

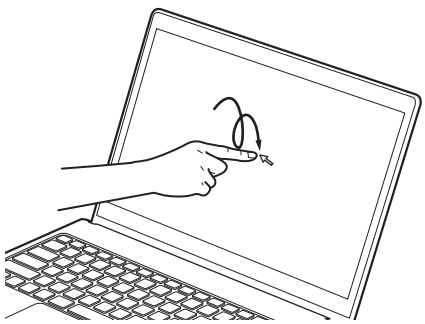
1 コントロールパネルの「マウスのプロパティ」を開きます。
「ハードウェアとサウンド」→「デバイスとプリンター」の「マウス」

2 それぞれのタブをクリックし、設定を変更します。

2.3 タッチパネル

対 象　タッチパネル搭載機種

本パソコンのタッチパネルは、指で画面をタッチするだけでマウスポインターを操作できます。画面上で直接操作できるので、直感的でスピーディな操作が可能です。

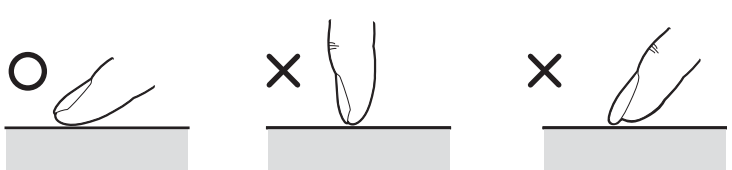


POINT

- 本パソコンのタッチパネルでは、複数箇所を同時にタッチする操作ができます。

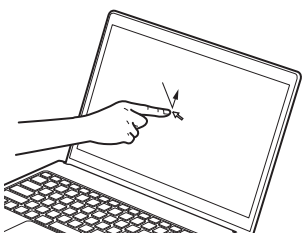
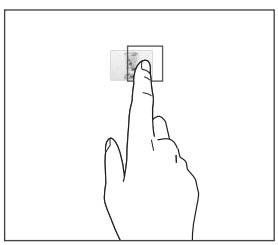
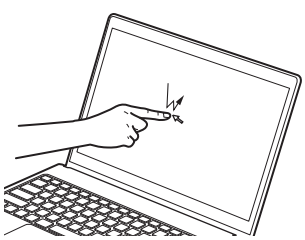
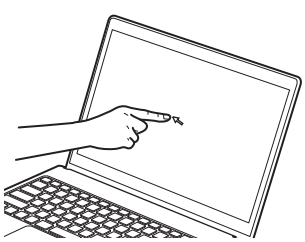
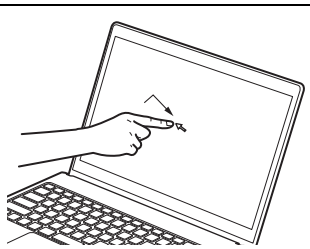
2.3.1　注意事項

- 結露による水滴が液晶ディスプレイ（タッチパネル）に付着している状態で電源を入れると、タッチ機能が正しく動作しない場合があります。水滴を拭き取ってから電源を入れてください。
- 液晶ディスプレイ（タッチパネル）に、ほこりや皮脂が付着していると、タッチ機能が正しく動作しない場合があります。
- アプリによっては、タッチ機能の反応が悪い場合や、タッチ機能に対応していない場合があります。
- 画面を強く押さないでください。
- 濡れた手や、指先が汚れた状態で操作しないでください。
- つめや手袋をした指では操作できません。必ず、指の皮膚の部分が画面に触れるようにしてください。



2.3.2　基本操作

画面上でタップ（マウスのクリックと同様の操作）する場合は、指で操作します。
マウスポインターは、画面上をなぞった方向に移動します。

機能	指の操作	
タップ		画面を1回軽くたたきます。
右タップ		画面を押し、画面に枠が表示されてから指を離します。
ダブルタップ		画面を素早く2回連続して軽くたたきます。
ポイント		画面に軽く触れます。
ドラッグ		画面に軽く押しつけながらなぞります。

2.3.3　文字を入力する

キーボードを使わずに文字を入力するには、「タッチ キーボード」を使用します。

■ 注意事項

- Windowsにサインインしていない場合は「タッチ キーボード」は使用できません。

■ 「タッチ キーボード」 を使う

「タッチ キーボード」では、手書きパッドおよびタッチ キーボードによる文字の入力ができます。
「タッチ キーボード」の表示は、テキスト入力領域をタップします。

POINT

▸ 「タッチ キーボード」が表示されない場合は、次の操作を行ってください。

1. デスクトップ画面のタスクバーを右クリックします。
2. 「タッチキーボードボタンを表示」をクリックします。
   タスクバーに「キーボード」のアイコンが表示されます。
3. 「キーボード」のアイコンをクリックします。
   画面に「タッチ キーボード」が表示されます。

2.3.4　キャリブレーション

キャリブレーションとは、画面上で実際にタップした位置とパソコンが「タップされた」と認識する位置とを一致させるための作業です。入力位置がずれてきた場合にはキャリブレーションを行ってください。

POINT

- キャリブレーションを行うときに、調整ポイントが言語バーの下に隠れる場合があります。言語バーを最小化しておくことをお勧めします。

1 コントロールパネルの「タブレット PC設定」を開きます。
「ハードウェアとサウンド」→「タブレット PC設定」

2 「画面」タブの「調整」をクリックします。

3 「タッチ入力」をクリックします。

4 画面の「+」マークの交点を正確に指でタップします。
「+」マークが次の調整ポイントに移動します。

POINT

- 指の皮膚の部分でタップしてください。つめや手袋をした指での操作はできません。

5 同様に「+」マークを順番にタップします。

6 「はい」をタップします。

POINT

- キャリブレーションを行ってずれが生じてしまった場合は、次の手順でご購入時の設定に戻すことができます。
  1. コントロールパネルの「タブレット PC設定」を開きます。
     「ハードウェアとサウンド」→「タブレット PC設定」
  2. 「画面」タブで、「リセット」をクリックします。
     ご購入時の設定に戻ります。

2.4 ディスプレイ

ここでは、本パソコンの液晶ディスプレイを使う方法について説明しています。
複数のディスプレイを使ってマルチディスプレイ機能を使う方法については、「2.5 マルチディスプレイ機能」（→P.38）をご覧ください。

2.4.1　注意事項

- 解像度などを変更するときに一時的に画面が乱れることがありますが、故障ではありません。

2.4.2　明るさを調整する

本パソコンの液晶ディスプレイの明るさは、次の方法で変更できます。

□スライダーで変更する

1. 「スタート」ボタン→ (設定）の順にクリックします。
2. 「システム」をクリックします。
3. 画面左側のメニューで「ディスプレイ」をクリックします。
4. 画面右側のメニューで「明るさレベルの調整」のスライダーを左右に動かします。
   スライダーを右に動かすと明るく、左に動かすと暗くなります。

POINT

- アクションセンター（→P.9）でも明るさを調整できます。
  タイルをクリックするごとに、明るさのレベルが変わります。

□キーボードで明るさを変更する

明るくする	【Fn】＋【F7】キーを押す
暗くする	【Fn】＋【F6】キーを押す

明るさの設定は、現在選択されている電源プランの現在の電源状態（「バッテリ駆動」または「電源に接続」）に対して行われます。それ以外の状態の明るさの設定を変更するには、「□　「電源オプション」で変更する」（→P.35）をご覧ください。

画面左上部に明るさを示すインジケーターが表示されます。

□ステータスパネルスイッチで変更する

1. デスクトップ画面のタスクバーにある をクリックします。
   「ステータスパネルスイッチ」ウィンドウが表示されます。
2. 「画面の明るさ」ボタンをクリックします。
   ボタンをクリックするたびに、次のように切り替わります。
   ・明るい→中間→暗い

□「Windowsモビリティセンター」 で変更する

1. 「Windowsモビリティセンター」（→P.10）を起動します。
2. 「ディスプレイの明るさ」のスライダーを左右に動かします。

明るさの設定は、現在選択されている電源プランの現在の電源状態（「バッテリ駆動」または「電源に接続」）に対して行われます。それ以外の状態の明るさの設定を変更するには、「□ 「電源オプション」で変更する」（→P.35）をご覧ください。

□「電源オプション」 で変更する

現在選択されていない電源プランや、現在と異なる電源状態（「バッテリ駆動」または「電源に接続」）の明るさの設定は、「電源オプション」で変更できます。

1. コントロールパネルの「電源オプション」を開きます。
   「ハードウェアとサウンド」→「電源オプション」
2. 設定を変更するプランの「プラン設定の変更」をクリックします。
3. 明るさを変更し、「変更の保存」をクリックします。

2.4.3　解像度を変更する

ここでは、ディスプレイの解像度、発色数、リフレッシュレートの変更方法について説明します。

1. デスクトップで右クリックし、「インテル® グラフィックスの設定」をクリックします。
   「インテル® HDグラフィックス・コントロール・パネル」が表示されます。
2. 「ディスプレイ」アイコンをクリックします。
3. 「解像度」、「リフレッシュ・レート」を設定します。
   設定可能な値は、「8.3.1 シングル表示／拡張デスクトップ表示の解像度」（→P.170）をご覧ください。

4 「適用」をクリックします。
確認のメッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作します。

重 要

- 画面が正常に表示されない場合は、何もせずに15秒程度待ってください。変更前の設定に戻ります。

2.4.4　拡大表示設定を変更する

ご購入時の解像度より小さい解像度に設定した場合、画面を拡大して表示できます。

1 デスクトップで右クリックし、「インテル® グラフィックスの設定」をクリックします。
「インテル® HDグラフィックス・コントロール・パネル」が表示されます。

2 「ディスプレイ」アイコンをクリックします。

3 「スケーリング」を設定します。
・縦横比を保持する
画面の縦横比を維持したまま最大限に拡大されます。
・全画面のスケールにする
画面がディスプレイ全体に拡大されます。
・画像を中央揃えにする
画面は拡大されずに中央に表示されます。
・ディスプレイ・スケーリングを保持する
ディスプレイの拡大表示機能を使用します。

POINT

- ディスプレイの種類や解像度により表示されない項目がある場合があります。

4 「適用」をクリックします。
確認のメッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作します。

重 要

- 画面が正常に表示されない場合は、何もせずに15秒程度待ってください。変更前の設定に戻ります。

2.4.5 ディスプレイ省電テクノロジー

「ディスプレイ省電テクノロジー」は、見た目の画質を維持したままバックライトの省電力を行い、バッテリ駆動時間を延ばす機能です。

■ 注意事項

- バッテリ駆動時のみ動作します。
  ご購入時は次のように設定されています。
  ・ディスプレイ省電テクノロジー：「オン」
  ・レベル：「最長バッテリー駆動時間」
- ディスプレイ省電テクノロジーが動作しているときは、次のように表示される場合がありますが、故障ではありません。
  ・表示している画像を切り替えたときに画面の明るさや色調が徐々に変更される。
  ・画像のグラデーション部分に段差が見える。

■ ディスプレイ省電テクノロジーを設定する

1 デスクトップで右クリックし、「インテル® グラフィックスの設定」をクリックします。
「インテル® HDグラフィックス・コントロール・パネル」が表示されます。

2 「電源」アイコンをクリックします。

3 画面左側のメニューで「バッテリー駆動」をクリックします。

4 「ディスプレイ省電テクノロジー」を設定します。
・動作させる場合は、「有効」をクリックし、動作レベルのバーを設定します。
バーを左に設定するほど画質が優先され、バーを右に設定するほどバッテリ駆動時間が優先される設定になります。
・動作させない場合は、「無効」をクリックするか、「最高画質」に設定します。

5 「適用」をクリックします。
「適用」をクリックすると、画面にメッセージが表示されることがあります。
この場合は、画面の指示に従って操作してください。

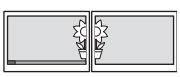
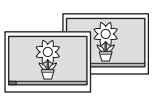
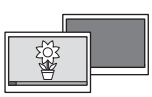
6 画面右上の「閉じる」をクリックして、画面を閉じます。

2.5 マルチディスプレイ機能

本パソコンに外部ディスプレイを接続すると、マルチディスプレイ機能が使えるようになります。
ディスプレイの取り扱いについては、お使いのディスプレイのマニュアルをご覧ください。外部ディスプレイを接続する方法については、「3.5.2 ディスプレイコネクタ」（→P.94）をご覧ください。

2.5.1 マルチディスプレイ機能とは

マルチディスプレイ機能により、複数のディスプレイを使用した次のような表示方法を選択できます。

表示方法	説明
拡張デスクトップ表示 	複数のディスプレイを1つの画面として表示します。 Windowsのタスクバーはすべてのディスプレイに表示されます。 それぞれのディスプレイの解像度は別々に設定できます。
クローン表示 	複数のディスプレイに同一の画面を表示します。すべてのディスプレイの解像度は同じである必要があります。
シングル表示 	複数のディスプレイのどれか1つに画面を表示します。表示するディスプレイは切り替えることができます。

【⊞】＋【P】キーを押すことで、表示方法を選択する画面を表示できます。

2.5.2 注意事項

- お使いのディスプレイと本パソコンの両方が対応している解像度のみ表示できます。お使いのディスプレイのマニュアルをご覧になり、表示可能な解像度を確認してください。
- 拡張デスクトップ表示では「WinDVD」の画面を2つのディスプレイの間で移動すると、一時的に再生が止まることがあります。
- マルチディスプレイ機能を変更するときは、動画を再生するソフトウェアは終了してください。
- マルチディスプレイ機能は、Windowsが起動している場合にのみ有効です。Windowsが起動するまでの間は、BIOSセットアップの設定が有効になります。起動設定は、『BIOSセットアップメニュー 一覧』の「詳細」メニューをご覧ください。
- 解像度などを変更するときに一時的に画面が乱れることがありますが、故障ではありません。

2.5.3　マルチディスプレイ機能を設定する

1 デスクトップで右クリックし、「インテル® グラフィックスの設定」をクリックします。
「インテル® HD グラフィックス・コントロール・パネル」が表示されます。

2 「ディスプレイ」アイコンをクリックします。

3 画面左側のメニューで「マルチ・ディスプレイ」をクリックします。

4 「ディスプレイ・モードの選択」を設定します。
・シングル表示にする場合、「シングル・ディスプレイ」を選択します。
・クローン表示にする場合、「クローン・ディスプレイ」を選択します。
・拡張デスクトップにする場合、「拡張デスクトップ」を選択します。必要に応じて、表示されているディスプレイをドラッグして、2つのディスプレイの位置を設定します。「1」と表示されているのがプライマリディスプレイです。

5 「アクティブ・ディスプレイの選択」を選択します。
・接続されているディスプレイの名前が表示されており、クリックして別のディスプレイの名前を選択することで、順番を変更できます。
・一番上がプライマリディスプレイです。

6 「適用」をクリックします。
確認のメッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作します。

重 要

- 画面が正常に表示されない場合は、何もせずに15秒程度待ってください。変更前の設定に戻ります。

7 必要に応じて「解像度」、「リフレッシュ・レート」を設定します。
1. 画面左側のメニューで「一般設定」をクリックします。
2. 「ディスプレイの選択」から設定を変更するディスプレイを選択します。
3. 「解像度」、「リフレッシュ・レート」の設定方法は「2.4.3 解像度を変更する」（→P.35）をご覧ください。

設定可能な値は、「8.3.1 シングル表示／拡張デスクトップ表示の解像度」（→P.170）をご覧ください。

2.6 サウンド

ここでは、音量の調節方法やオーディオ端子の機能の切り替え方法などについて説明しています。
オーディオ端子に機器を接続する方法については、「3.5.4 オーディオ端子」（→ P.96）をご覧ください。

2.6.1 全体の再生音量を調節する

パソコン本体のスピーカーや、本パソコンに接続されたヘッドホンの再生音量は、次の操作で調節します。

□キーボードで変更する

上げる	【Fn】＋【F9】キーを押す
下げる	【Fn】＋【F8】キーを押す
ミュートする ミュートを解除する	【Fn】＋【F3】キーを押す

画面左上部に音量を示すインジケーターが表示されます。

□フラットポイントで変更する

1 フラットポイントを3本指で上または下方向に弾きます。

上げる	上方向に弾く ・上方向にはらったときに、ボリュームが大きくなりすぎることがあるので、注意してください。
下げる	下方向に弾く

POINT

- デスクトップ画面右下の通知領域にある「スピーカー」アイコン（ ）をクリックして表示される「ミキサー」で調節することもできます。

2.6.2 ソフトウェアごとの再生音量を調節する

ソフトウェアごとの再生音量は「音量ミキサー」で調節します。

1. 音量を調節するソフトウェアを起動します。
2. デスクトップ画面右下の通知領域にある「スピーカー」アイコン（ ）を右クリックし、「音量ミキサーを開く」をクリックします。
3. 「アプリケーション」の一覧で、音量の設定を変更したいソフトウェアの音量を調節します。

2.6.3 機器や項目ごとの音量を調節する

機器や項目ごとの音量は次の手順で調節します。
調節できる機器や項目は、「■ 再生するときに調節できる機器と項目」（→P.42）、「■ 録音するときに調節できる機器と項目」（→P.42）をご覧ください。

1. 音量を調節したい機器が接続されていない場合は接続します。
「3.5.4 オーディオ端子」（→P.96）
2. デスクトップ画面右下の通知領域にある「スピーカー」アイコン（ ）を右クリックし、「再生デバイス」または「録音デバイス」をクリックします。
3. 音量を調節したい機器を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
4. 「レベル」タブをクリックします。
5. 音量を調節したい項目で音量を調節し、「OK」をクリックします。

■ 再生するときに調節できる機器と項目

機器	項目	説明
スピーカー	Realtek HD Audio output	パソコン本体のスピーカーや本パソコンに接続されたヘッドホンから出力される音の再生音量
	マイク	マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子から入力される音の再生音量（マイク入力設定時）
	ライン入力	マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子から入力される音の再生音量（ライン入力設定時）
	Line Out	マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子から出力される音の再生音量（ライン出力設定時）
[ディスプレイ名] 注1	インテル(R) ディスプレイ用 オーディオ HDMI 1	HDMI出力端子に接続されたディスプレイから出力される音の再生音量
[ディスプレイ名] 注1	インテル(R) ディスプレイ用 オーディオ DisplayPort 1	ポートリプリケータのDisplayPortコネクタに接続されたディスプレイから出力される音の再生音量

注1 ：「[ディスプレイ名]」には、接続されたディスプレイの名称が表示されます。

■ 録音するときに調節できる機器と項目

機器	項目	説明
マイク	マイク	マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子から入力される音の録音音量（マイク入力設定時）
	マイクブースト	マイクブーストのレベル（マイク入力設定時）
ライン入力	ライン入力	マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子から入力される音の録音音量（ライン入力設定時）

2.6.4　オーディオ端子の機能を切り替える

オーディオ端子（マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子）の機能は、次の手順で切り替えます。

1. オーディオ端子に機器を接続します（→P.96）。
2. デスクトップ画面右下の通知領域にある「Realtek HDオーディオマネージャ」アイコン（ ）をダブルクリックします。
   「Realtek HDオーディオマネージャ」ウィンドウが表示されます。
3. ウィンドウ右にある機能を切り替えたい端子のアイコンをダブルクリックします。
   機能を選選択するウィンドウが表示されます。
4. 機能を選択し、「OK」をクリックします。

2.6.5　既定のオーディオ機器を選択する

音声を録音または再生する機器が複数使用可能な場合、既定の機器を選択できます。

1. デスクトップ画面右下の通知領域にある「スピーカー」アイコン（ ）を右クリックし、「再生デバイス」または「録音デバイス」をクリックします。
   「サウンド」ウィンドウが表示されます。
2. 既定に設定する機器を選択し、「既定値に設定」をクリックします。
3. 「OK」をクリックします。

2.6.6　スピーカーの音質を調節する

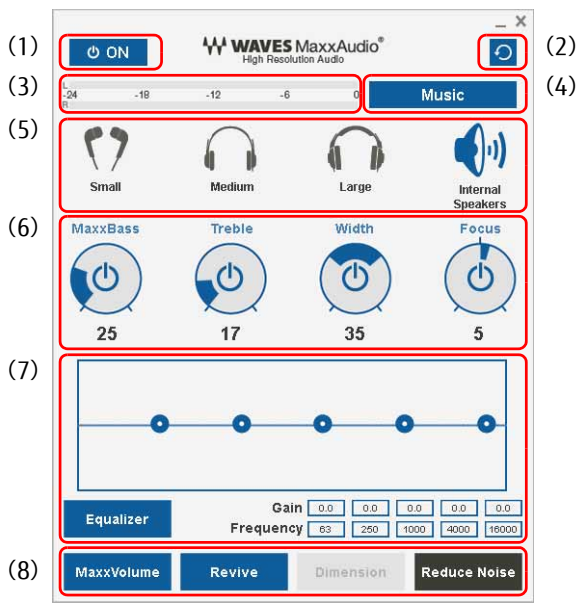
パソコンに内蔵されているスピーカーの音質を、より詳細に調節することで、クリアで広がりのあるステレオ感や、重厚感のある低音を実現します。

重 要

- Waves MaxxAudioの音質の調節は、内蔵スピーカーとヘッドホンが対象となります。

1 「スタート」ボタン→「Waves MaxxAudio」の順にクリックします。

2 好みの音質になるように、設定を変更します。



(1) MaxxAudio機能のON／OFFを切り替えます。
(2) 各設定を初期値に戻します。
(3) レベル・メーター
(4)「Music」か「Movie」かコンテンツのジャンルを選択できます。
(5) ヘッドホンを使用するときは、「Small」「Medium」「Large」から選択します。
内蔵スピーカーを使用するときは「InternalSpeakers」が選択されています。
ここで選択した出力デバイスと（4）のコンテンツのジャンルの組み合わせごとに音質を調節できます。
(6) ドラッグして青い部分を増減させ、各種音質の調節ができます。
- MaxxBass
音響心理学に基づいた倍音再生技術により、低音を充分感じ取れるようにします。
- Treble
高域の小さな音は大きくして聞き取りやすくする一方、高域の大きな音はやかましくならないよう一定レベル以下に抑えます。
- Width
左右スピーカーの向く角度だけを擬似的に変えて、ステレオ感を広げます。ヘッドホン使用時はOFFになります。
- Focus
映画のセリフなどを強調し、聞き取りやすくします。

(7) Equalizerをドラッグすることで、好みの周波数特性を設定できます。
「Gain」と「Frequency」の5つの入力欄に直接数値を入力して設定することも可能です。
「Equalizer」ボタンをクリックしてグレーにすると、この機能のみOFFにできます。

(8) 各機能のON／OFFを切り替えます。ONのときは青、OFFのときはグレーになります。

- MaxxVolume
  ONの時は音声レベルを監視し、大きな信号は歪まないように抑え、小さな信号は聞きやすいように大きくします。
- Revive
  mp3などの低ビットレート・ソースで失われがちな音を復元することで音質を改善します。
- Dimension
  ヘッドホン使用時、スピーカーで聞いているような自然な広がりのステレオ感を得られます。スピーカー使用時はONが選択できません。
- Reduce Noise
  背景から聞こえる定常的なノイズを除去します。通常はOFFでお使いください。

2.7 省電力

ここでは、パソコンを使わないときに省電力にする省電力状態と、その他の節電機能について説明しています。

2.7.1　省電力状態

Windowsの動作を一時的に中断させた状態です。スリープ状態と休止状態があります。
スリープ状態ではメモリにWindowsの状態を保存するため、電力を少しずつ消費しますが、素早くレジュームできます。休止状態ではフラッシュメモリディスクにWindowsの状態を保存するため、電源が切れてもWindowsの状態を保存できます。

■ 注意事項

- 状況により省電力状態にならない場合があります。メッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作してください。
- 状況により省電力状態になるのに時間がかかる場合があります。
- レジュームした後、すぐに省電力状態にしないでください。必ず10秒以上たってから省電力状態にするようにしてください。
- 省電力状態にした後、すぐにレジュームしないでください。必ず10秒以上たってからレジュームするようにしてください。
- Wakeup on LAN機能によるレジュームを有効にしているときは、省電力状態で本パソコンの液晶ディスプレイを閉じないでください。レジューム後に放熱が妨げられ、故障の原因となります。
- 液晶ディスプレイを閉じたときに何もしないように設定した場合は、本パソコンの動作中には液晶ディスプレイを閉じないでください。放熱が妨げられ、故障の原因となります。
- 電源ボタンを押す以外の方法でスリープ状態からレジュームさせると、Windowsの仕様により画面が表示されない場合があります。
  その場合は、キーボードやマウスなどから入力を行うと画面が表示されます。画面が表示されないままの状態で一定時間経過すると、再度スリープ状態になります。

■ 省電力状態にする

操作／条件	動作
電源ボタンを押す[注1]	スリープ状態になります。 「■ 電源プランの設定を変更する」（→P.50）
液晶ディスプレイを閉じる[注2]	スリープ状態になります。 「■ 電源プランの設定を変更する」（→P.50）
メニューから選択する	次の操作で選択したメニューの動作になります。 1.「スタート」ボタン→ (電源) の順にクリックし、メニューを選択します。
一定時間操作しない	スリープ状態になります。 「■ 電源プランの設定を変更する」（→P.50）
バッテリ残量が少なくなる	休止状態になります。 「■ 電源プランの設定を変更する」（→P.50）

注1：電源ボタンは4秒以上押さないでください。電源ボタンを4秒以上押すと、Windowsが正常終了せずに本パソコンの電源が切れてしまいます。
注2：液晶ディスプレイを閉じた後は、電源ランプ（→P.20）で省電力状態になったことを確認してください。省電力状態にならないと放熱が妨げられ、故障の原因となります。

■ 省電力状態からレジュームする

操作／条件	動作
電源ボタンを押す	レジュームします。
液晶ディスプレイを開く	レジュームします。 「■ 電源プランの設定を変更する」（→P.50）
USBキーボードやUSBマウスを操作する[注1]	無効に設定されています。 「■ USBデバイスによるレジュームの設定を変更する」（→P.48）
Wakeup on LAN（WoL）機能	無効に設定されています。 「■ WoL機能によるレジュームの設定を変更する」（→P.47）

注1：休止状態からはレジュームしません。

■ WoL機能によるレジュームの設定を変更する

WoL機能とは、他のコンピューターから有線LAN経由で本パソコンを起動・レジュームする機能です。WoL機能には、電源オフ状態から起動する機能と、省電力状態からレジュームする機能があります。ここでは、省電力状態からレジュームするための設定について説明します。電源オフ状態から起動する機能については、「5.3.6 Wakeup on LANを有効にする」（→P.121）をご覧ください。

1 管理者アカウントでサインインします。

2 コントロールパネルの「デバイスマネージャー」を開きます。
「システムとセキュリティ」→「システム」の「デバイスマネージャー」

3 「ネットワークアダプター」をダブルクリックします。

4 次のデバイスをダブルクリックします。
Intel(R) Ethernet Connection I219-LM

5 「電源の管理」タブをクリックします。

6 WoL機能を有効にするには次の項目にチェックを付け、無効にするにはチェックを外します。
・電力の節約のために、コンピューターでこのデバイスの電源をオフにできるようにする
・このデバイスで、コンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする

POINT

- マジックパケットを受信したときのみ省電力状態からレジュームさせるようにするには、「Magic Packetでのみ、コンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする」にもチェックを付けます。

7 「OK」をクリックします。

■ USBデバイスによるレジュームの設定を変更する

USBキーボードやUSBマウスを操作してスリープ状態からレジュームする設定は、次の手順で変更します。

1 「Windowsモビリティセンター」（→P.10）を起動します。

2 「スリープ状態からの復帰」に表示されている現在の設定を確認し、必要に応じて「切り替える」をクリックします。

2.7.2 電源を切る

ここでは、Windowsを終了させてパソコン本体の電源を切る方法を説明します。

■ 注意事項

- 電源を切る前に、すべての作業を終了し必要なデータを保存してください。
- 電源を切る前に、あらかじめディスクを取り出してください（→P.62）。
- 電源を切るとき、ノイズが発生することがあります。その場合はあらかじめ音量を下げておいてください。
- 電源を切った後、すぐに電源を入れないでください。必ず10秒以上たってから電源を入れるようにしてください。

■ 電源の切り方

次のいずれかの方法で、パソコン本体の電源を切ります。

□Windowsを終了する

1. 「スタート」ボタン→ (電源）の順にクリックします。
2. 「シャットダウン」をクリックします。

□完全に電源を切る

重 要

- 次のような場合は、ここで説明している手順でパソコンの電源を切ってください。
  - ・BIOS セットアップを起動する
  - ・診断プログラムを使用する
  - ・メモリを交換する
  - ・バッテリを交換する
  - ・モバイルマルチベイユニットを交換する
  - ・フラッシュメモリディスクデータ消去

1. 「スタート」ボタン→ (設定）の順にクリックします。
2. 「更新とセキュリティ」をクリックします。
3. 画面左側のメニューで「回復」をクリックします。
4. 画面右側のメニューで「今すぐ再起動する」をクリックします。
5. 「PCの電源を切る」をクリックします。

2.7.3 本パソコンの節電機能

本パソコンには、さまざまな節電機能が搭載されています。これらの機能と有効となるパソコンの状態との関係は次のとおりです。

節電機能	パソコンの状態		
	電源オン	スリープ状態	休止状態／電源オフ
省電力設定（→P.50） パソコンの消費電力を低減する。	○	—	—
ピークシフト（→P.51） ACアダプタとバッテリの運用を切り替える。	○	—	—
ステータスパネルスイッチ（→P.73） パソコンの消費電力を低減する。	○	—	—
ECO Sleep（→P.52） ACアダプタからの電力供給を停止する。	—	—	○
ECO Sleep対応ACアダプタ ACアダプタの消費電力を低減する注1。	—	—	○

注1：電源オフ状態や休止状態でバッテリの充電が完了している場合に、ECO Sleepでは低減できないACアダプタそのものが消費する消費電力を低減します。

2.7.4 省電力設定

使用状況にあわせて電源プランを切り替えることで、消費電力を節約できます。

■ 電源プランを切り替える

1 コントロールパネルの「電源オプション」を開きます。
「ハードウェアとサウンド」→「電源オプション」

2 お使いになる電源プランをクリックします。

POINT

- 電源プランを作成するには、ウィンドウ左の「電源プランの作成」をクリックし、メッセージに従って操作します。

■ 電源プランの設定を変更する

1 コントロールパネルの「電源オプション」を開きます。
「ハードウェアとサウンド」→「電源オプション」

2 設定を変更するプランの「プラン設定の変更」をクリックします。

3 「詳細な電源設定の変更」をクリックします。

4　リストから項目を選択し、設定を変更します。

POINT

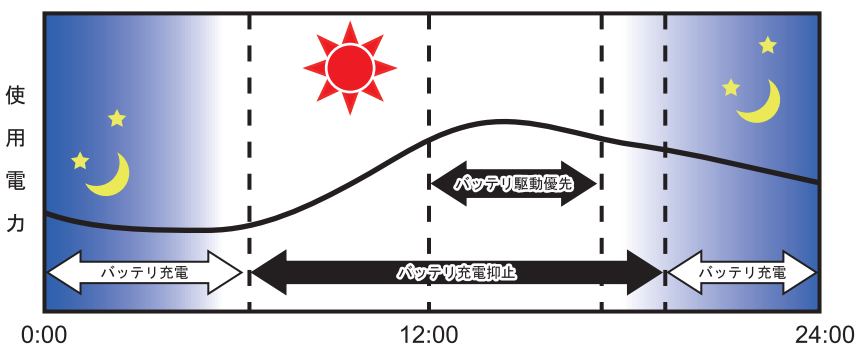
- 一部の設定は手順1や手順2で表示される画面でも変更できます。

5　「OK」をクリックします。

2.7.5　ピークシフト

設定した時間にあわせてACアダプタ運用とバッテリ運用を切り替えられる機能です。1日のうち電力需要のピークタイムをはさんでパソコンを連続してお使いになる場合に有効です。

- 使用例



重 要

- バッテリは消耗品であり、充放電を繰り返すたびに少しずつ性能が劣化します。ピークシフトを利用するとバッテリの充放電回数が増えるため、性能劣化が早まる場合があります。なお、バッテリが劣化している場合には、バッテリ駆動時間が短くなり、充分な効果を得られないことがあります。

■ ピークシフトを設定する

ピークシフトが動作する期間と、バッテリ駆動優先の時間帯、バッテリ充電抑止の時間帯を設定できます。一度設定を行うと、パソコンが起動するたびに、自動的に有効になります。

1　「スタート」ボタン→「FUJITSU - ピークシフト設定」→「設定」の順にクリックします。

2　必要に応じて、設定を変更します。

POINT

- 「ピークシフト設定」では、2つの期間を設定できます。
  例えば、設定1に夏季、設定2に冬季の設定を行うなどのように使用します。
- ピークシフトの詳しい使い方は、次の操作で表示されるヘルプをご覧ください。
  1. 「スタート」ボタン→「FUJITSU - ピークシフト設定」→「ソフトウェア説明書」の順にクリックします。

2.7.6　ECO Sleep

電源オフ状態や休止状態でバッテリの充電が完了している場合に、ACアダプタからの電力供給を止めることにより消費電力を抑える機能です。

■ ECO Sleepを有効にする

1. 「スタート」ボタン→「FUJITSU - バッテリーユーティリティ」→「バッテリーユーティリティ」の順にクリックします。
2. 「ECO Sleep」をクリックします。
3. 「変更」をクリックします。
4. ECO Sleepを有効にする場合は「低待機モード」を、ECO Sleepを無効にする場合は「通常モード」をクリックし、「OK」をクリックします。

2.8 バッテリ

ここでは、バッテリを使用して本パソコンを使用する方法や注意事項について説明しています。
バッテリの充電時間や駆動時間など、バッテリの仕様については「8.1 本体仕様」（→P.160）をご覧ください。

2.8.1 注意事項

■ バッテリの取り扱い

- 本パソコンに対応している弊社純正品をお使いください。詳しくは、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」（http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syskou/）をご覧ください。
- バッテリを落としたり強い衝撃を与えたりしないでください。また、落としたり強い衝撃を与えたりしたバッテリは使用しないでください。
- バッテリやパソコン本体のバッテリコネクタには触れないでください。
- バッテリは分解しないでください。
- 長期間（約1ヶ月以上）本パソコンを使用しないときは、バッテリを取り外して涼しい場所に保管してください。パソコン本体に取り付けたまま長期間放置すると過放電となり、バッテリの寿命が短くなります。
- 高温環境に放置しないでください。バッテリが劣化します。

■ バッテリで運用するとき

- 本パソコンの使用中にバッテリの残量がなくなると、作成中のデータが失われることがあります。バッテリの残量に注意してお使いください。バッテリの残量を確認するには、「2.8.3 バッテリの残量を確認する」（→P.55）をご覧ください。
- 本パソコンの機能を多用したり負荷の大きいソフトウェアを使用したりすると、多くの電力を消費するためバッテリの駆動時間が短くなります。このような場合や重要な作業を行う場合は、ACアダプタを接続することをお勧めします。
- 本パソコンを省電力モードにすることにより、バッテリ駆動時間を長くすることができます。ただし、モードを切り替える前の状態によっては、バッテリ駆動時間が長くならない場合もあります。モードの切り替え方法については、「2.12 ステータスパネルスイッチ」（→P.73）をご覧ください。
- バッテリは使用しなくても少しずつ自然放電していきます。
- 低温時にはバッテリ駆動時間が短くなる場合があります。
- 周囲の温度が高すぎたり低すぎたりすると、バッテリの充電能力が低下します。
- 内蔵バッテリパックと増設用内蔵バッテリユニットの両方が取り付けられている場合は、両方のバッテリを同時に使用するか増設バッテリから先に使用するか設定できます。
  設定については、「2.8.6 バッテリの放電動作」（→P.58）をご覧ください。

■ 寿命について

- バッテリは消耗品です。長期間使用すると充電能力が低下し、バッテリ駆動時間が短くなります。バッテリの駆動時間が極端に短くなったり、満充電にならなくなったりしたらバッテリの寿命です。新しいバッテリと交換してください。
- パソコン本体を長期間使用しない場合でも、バッテリは劣化します。
- 「バッテリーユーティリティ」でバッテリの満充電量を抑えることにより、バッテリの寿命を延ばすことができます。詳しくは、「2.8.5 バッテリの充電モードを変更する」（→P.58）をご覧ください。

2.8.2 バッテリを充電する

1 パソコン本体にACアダプタを接続します。

充電が始まります。バッテリの充電状態は、バッテリ充電ランプ（→P.20）で確認できます。

バッテリ充電ランプ	バッテリの充電状態
オレンジ色[注1]	充電中
白色	充電完了[注2]
消灯	ACアダプタが接続されていない

注1 ：点滅している場合は、バッテリの温度が高すぎる、または低すぎるなどの理由でバッテリの保護機能が働き充電が停止している状態です。バッテリの温度が正常に戻れば点灯し、充電を再開します。
注2 ：ECO Sleep（→P.52）が動作中の場合、電源オフ状態や休止状態では点灯しません。

POINT

- バッテリを保護するため、次の場合は充電は始まりません。
  ・充電モードが「フル充電モード」で、バッテリの残量が90%以上の場合
  ・充電モードが「80%充電モード」で、バッテリの残量が70%以上の場合
  バッテリの残量が少なくなると自動的に充電が始まります。
- 内蔵バッテリパックと増設用内蔵バッテリユニットの両方が取り付けられている場合は、内蔵バッテリパック→増設用内蔵バッテリユニットの順に充電されます。

2.8.3 バッテリの残量を確認する

バッテリの残量は、バッテリ残量ランプ（→P.20）、増設用内蔵バッテリ残量ランプ（→P.20）で確認できます。
なお、表示されるバッテリの残量は、バッテリの特性上、使用環境（温度条件やバッテリの充放電回数など）により実際のバッテリの残量とは異なる場合があります。

バッテリ残量ランプ	バッテリの残量
白色[注]	100%～51%
オレンジ色[注]	50%～13%
赤色[注]	12%以下
消灯	バッテリが接続されていない

注：本パソコンの電源の状態により次のようになります。なお、「充電中」とは、バッテリ充電ランプがオレンジ色に点灯している状態です。
・電源オン：点灯
・スリープ状態：点灯（充電中）またはゆっくり点滅（非充電中）
・電源オフ／休止状態：点灯（充電中）または消灯（非充電中）

重 要

- 短い間隔で赤色に点滅している場合は、バッテリが正しく充電されていません。
  パソコン本体の電源を切ってからバッテリを取り付け直してください。それでも状態が変わらない場合はバッテリが異常です。新しいバッテリと交換してください。

POINT

- より詳しいバッテリの状態は「バッテリーユーティリティ」で確認できます。詳しくは、「2.8.7 バッテリの状態を確認する」（→P.58）をご覧ください。

■ バッテリ残量ランプが赤色に点灯したら

バッテリの残量はわずかになっています。すみやかに次のいずれかの対処を行ってください。

- ACアダプタを接続する
- 充電済みのバッテリに交換する（→P.56）
- 本パソコンを休止状態にする
  「■ 省電力状態にする」（→P.47）
- 作業を終了して本パソコンの電源を切る
  「2.7.2 電源を切る」（→P.48）

ご購入時は、バッテリの残量が約10%になると自動的に休止状態になるように設定されています。設定を変更するには、「■ 電源プランの設定を変更する」（→P.50）をご覧ください。

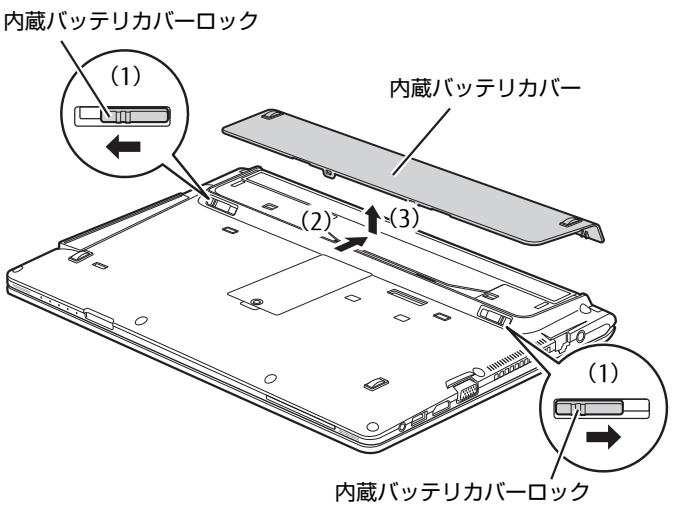
2.8.4 バッテリを交換する

ここでは内蔵バッテリパックの交換方法について説明します。増設用内蔵バッテリユニットの交換方法については、「2.10 モバイルマルチベイ」（→P.66）をご覧ください。
交換したバッテリの処分については、「廃棄・リサイクル」（→P.176）をご覧ください。

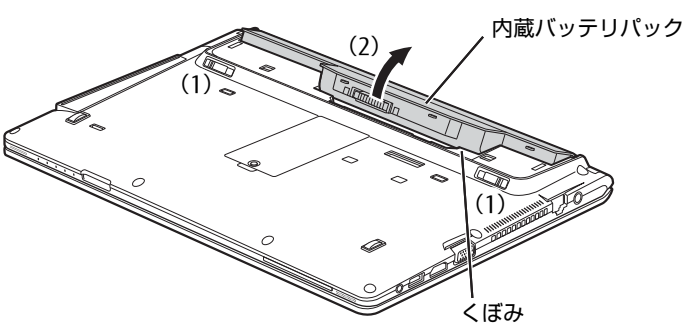
1 パソコンの電源を切り、ACアダプタを取り外します。
電源の切り方は、「2.7.2 電源を切る」（→P.48）をご覧ください。

2 液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体を静かに裏返します。

3 内蔵バッテリカバーを取り外します。
1. 内蔵バッテリカバーロック（2ヶ所）を矢印の方向にスライドし、ロックを解除します。
2. 内蔵バッテリカバーを矢印の方向にスライドさせます。
3. 内蔵バッテリカバーをまっすぐ上に持ち上げます。

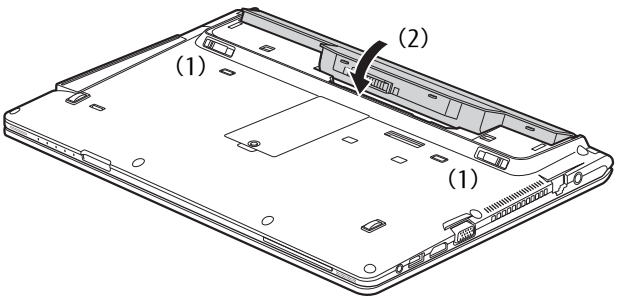


4 内蔵バッテリパックを取り外します。
1. 内蔵バッテリカバーロックが解除されていることを確認します。
2. くぼみに指をかけ、内蔵バッテリパックを斜め上に持ち上げて取り外します。



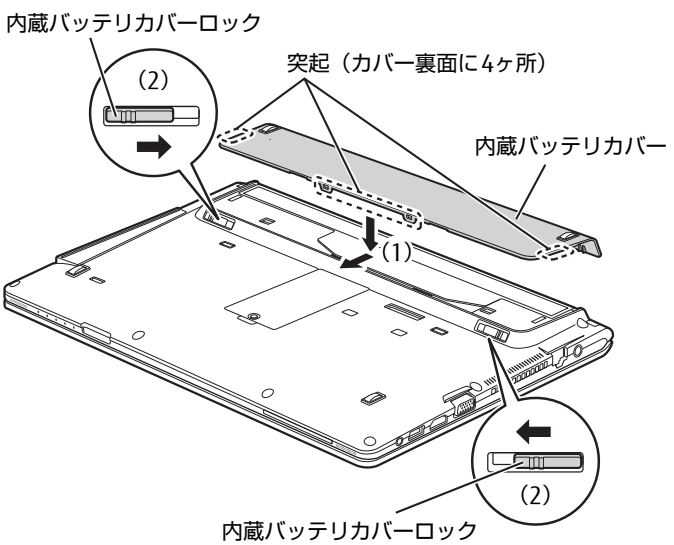
5 新しい内蔵バッテリパックを取り付けます。

1. 内蔵バッテリカバーロックが解除されていることを確認します。
2. 新しい内蔵バッテリパックのふちとパソコン本体のふちを合わせ、しっかりとはめこみます。



6 内蔵バッテリカバーを取り付けます。

1. 内蔵バッテリパックの突起（4ヶ所）をパソコン本体の穴に差し込み、手前にスライドさせて取り付けます。
2. 内蔵バッテリカバーロック（2ヶ所）を矢印の方向にスライドしてロックします。



2.8.5　バッテリの充電モードを変更する

バッテリの充電モードを「80%充電モード」に変更しバッテリの満充電量を抑えることにより、バッテリの寿命を延ばすことができます。

重 要

- 「80%充電モード」に設定すると、バッテリ駆動時間は「フル充電モード」よりも短くなります。

1. 「スタート」ボタン→「FUJITSU - バッテリーユーティリティ」→「バッテリーユーティリティ」の順にクリックします。
2. 「バッテリー満充電量」をクリックします。
3. 「変更」をクリックします。
4. 「フル充電モード（100%充電）」または「80%充電モード」を選択し、「OK」をクリックします。
5. 「OK」をクリックします。

2.8.6　バッテリの放電動作

2つのバッテリを装着している場合に、両方のバッテリを同時に放電するか、増設バッテリから先に放電するかの設定ができます。

1. 「スタート」ボタン→「FUJITSU - バッテリーユーティリティ」→「バッテリーユーティリティ」の順にクリックします。
2. 「バッテリーの放電動作」をクリックします。
3. 「パラレル放電モード」または「シリアル放電モード」を選択し、「OK」をクリックします。

2.8.7　バッテリの状態を確認する

バッテリの情報や消耗状態の確認は、「バッテリーユーティリティ」で行うことができます。

■ バッテリの情報を確認する

1. 「スタート」ボタン→「FUJITSU - バッテリーユーティリティ」→「バッテリーユーティリティ」の順にクリックします。
2. 「バッテリーの情報」をクリックします。

   「サイクル数」、「残量」、「消耗状態」などを確認できます。

2.9 光学ドライブ

対 象　光学ドライブ搭載機種

ここでは、光学ドライブとCD／DVDなどのディスクの取り扱いについて説明しています。
ディスクの取り扱いについては、お使いのディスクのマニュアルをご覧ください。
また、光学ドライブの仕様については、「8.4 光学ドライブ」（→P.173）をご覧ください。

2.9.1　注意事項

- ディスクアクセスランプ（→P.20）が点灯中は、振動や衝撃を与えないでください。故障の原因となります。
- 市販のクリーニングディスクやレンズクリーナーを使うと、逆にゴミを集めてしまい、光学ドライブのレンズが汚れてしまう場合があります。故障の原因となりますので絶対に使わないでください。

2.9.2　使用できるディスク

■ 注意事項

- 直径8cmまたは直径12cm、厚さ1.14mm～1.5mmの円形のディスクのみ使用できます。ただし、直径8cmのディスクは、読み込みにのみ対応しています。それ以外のディスクは使用しないでください。故障の原因となります。
- ゆがんだディスク、重心の偏ったディスク、割れたディスク、ヒビの入ったディスクは使用しないでください。故障の原因となります。
- 不正コピー防止の仕様に準拠していないディスクは、使用できない場合があります。
- 記載されているディスクが販売されていない場合もあります。

■ 使用できるディスク

お使いの光学ドライブの欄をご覧ください。

ディスク	スーパーマルチドライブ			DVD-ROM ドライブ		
	読込	書込	書換	読込	書込	書換
CD-ROM	○	×	×	○	×	×
音楽CD	○	×	×	○		
ビデオCD	○	×	×	×		
CD-R	○	○	×	○		
CD-RW[注1]	○	○	○	○		
DVD-ROM	○	×	×	○		
DVD-Video	○	×	×	○		
DVD-R（4.7GB）	○	○	×	○		
DVD-R DL（8.5GB）[注2]	○	○	×	○		
DVD-RW	○	○	○	○		
DVD+R（4.7GB）	○	○	×	○		
DVD+R DL（8.5GB）	○	○	×	○		
DVD+RW（4.7GB）	○	○	○	○		
DVD-RAM（4.7GB/9.4GB）[注3]	○	○	○	○		

注1 ：Ultra Speed CD-RWディスクは使用できません。
注2 ：追記はできません。また追記されたディスクの読み込みは保証しません。
注3 ：・カートリッジに入れた状態で使用するタイプ（Type1）は使用できません。
・2.6GBおよび5.2GBのディスクは使用できません。

■ 推奨ディスク

対 象　スーパーマルチドライブ搭載機種

光学ドライブで書き込みや書き換えを行う場合は、次のディスクの使用をお勧めします。それぞれのディスクの詳しい仕様については、各メーカーのホームページなどをご覧ください。

ディスク種別	メーカー	型名
CD-R	Verbatim（バーベイタム）	SR80SP10V1、SR80SP20V1
CD-RW	Verbatim（バーベイタム）	SW80EU5V1、SW80QU5V1、SW80QM5V1、SW80QP5V1
DVD-R	Verbatim（バーベイタム）	DHR47J10V1、DHR47JM10V1、DHR47JP10V1
DVD-R DL	Verbatim（バーベイタム）	DHR85HP5V1、DHR85HP10V1、DHR85HP10SV1
DVD-RW	Verbatim（バーベイタム）	DHW47Y10V1
DVD+R DL	Verbatim（バーベイタム）	DTR85HP5V1、DTR85HP10V1
DVD+RW	ソニー	5DPW47HPS
DVD-RAM	パナソニック	LM-HC47LW5（4.7GB、カートリッジ無）、LM-HB94L（9.4GB、カートリッジ有、取り出し可）

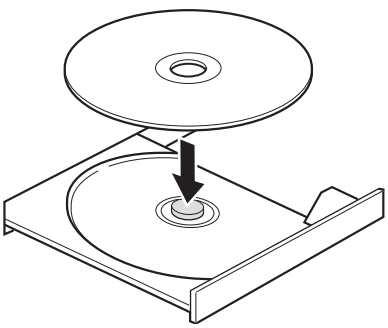
2.9.3　ディスクをセットする

1 トレーを開きます。

ディスク取り出しボタン（→P.15）を押し、少し出てきたトレーの中央を持って静かに引き出します。

2 ディスクをトレーに載せます。

ディスクのレーベル面を上にしてトレー中央の突起にディスクの穴を合わせ、「パチン」と音がするまではめ込みます。



3 トレーを閉じます。

「カチッ」と音がするまで、トレーを静かに押し込みます。

重 要

- トレーに指などをはさまないようにしてください。けがの原因となります。

POINT

- 光学ドライブにディスクをセットして「PC」ウィンドウの光学ドライブアイコンをクリック（設定によってはダブルクリック）すると、パソコンがディスクを認識する前にトレーが自動的に開くことがあります。
  ディスクをセットした後30秒程度待ち、ディスクアクセスランプ（→P.20）が消えてからディスクの操作を行ってください。

2.9.4　ディスクを取り出す

ディスクを取り出す前に、次のことを確認してください。

- ディスクアクセスランプ（→P.20）が点灯していないこと。
  ディスクアクセスランプが消灯するまで待ってください。
- ソフトウェアがディスクを使用していないこと。
  ソフトウェアの機能を使ってトレーを開くか、ソフトウェアを終了してください。詳しくはお使いのソフトウェアのマニュアルをご覧ください。
- ディスク上のファイルを開いていないこと。
  ファイルを閉じてください。

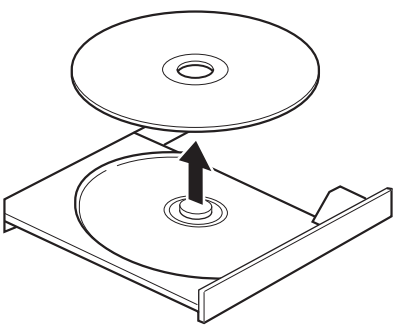
上記の項目を確認してもトレーが開かない場合は、本パソコンを再起動してください。本パソコンを再起動してもトレーが開かない場合は、「■ トレーを強制的に開く」（→P.63）をご覧ください。

1 トレーを開きます。

ディスク取り出しボタン（→P.15）を押し、少し出てきたトレーの中央を持って静かに引き出します。

2 ディスクを取り出します。

トレー中央の突起を押さえながらディスクのふちを持ち上げて、ディスクを外します。



3 トレーを閉じます。

「カチッ」と音がするまで、トレーを静かに押し込みます。

重 要

- トレーに指などをはさまないようにしてください。けがの原因となります。

■ トレーを強制的に開く

「2.9.4 ディスクを取り出す」（→P.62）の手順でトレーが開かない場合は、次の手順でトレーを開きます。

重 要

- どうしてもトレーが開かない場合にのみ実行してください。

1. パソコン本体の電源を切ります。
2. 強制取り出し穴（→P.15）に、太めのペーパークリップを伸ばしたものなどを、トレーが少し出てくるまで押し込みます。
3. トレーを静かに引き出します。

2.9.5　ディスクに書き込む

対 象　スーパーマルチドライブ搭載機種

記録可能ディスクに書き込むには「Roxio Creator」（→P.102）を使用します。詳しくは、次の手順で「Roxio Creator」のヘルプをご覧ください。

1. 「スタート」ボタン→「Roxio Creator LJ」→「Roxio Creator LJ」の順にクリックします。
2. 「ヘルプ」メニュー→「ヘルプ」の順にクリックします。

POINT

- DVD-RAMはフォーマットすることにより、USBメモリのように直接エクスプローラーなどで書き込むことができます。DVD-RAMをフォーマットするには「■ DVD-RAMをフォーマットする」（→P.64）をご覧ください。

■ 注意事項

- 本パソコンで作成したディスクは、ディスクの種類や書き込み形式などにより他の機器では使用できない場合があります。お使いの機器で使用できるディスクの種類や書き込み形式などについては、お使いの機器のマニュアルをご覧ください。また、ディスクの記録状態によっても使用できない場合があります。
- 光学ドライブにディスクをセットしてすぐに操作をすると、パソコンがディスクを認識する前にトレーが自動に開くことがあります。
  ディスクをセットした後30秒程度待ち、ディスクが使用可能になってから操作を行ってください。
- ディスクに書き込み中は、パソコン本体の電源を切ったり、再起動したり、ディスク取り出しボタンを押したりしないでください。また、省電力状態や省電力モードにもしないでください。
- ディスクへの書き込みには高い処理能力が必要です。ディスクに書き込み中は、他のソフトウェアを使用しないことをお勧めします。
- ディスクへの書き込みには多くの電力を消費します。ディスクに書き込み中は、パソコン本体にACアダプタを取り付けることをお勧めします。

- 自動再生が有効に設定されていると、ディスクへの書き込みができない場合があります。その場合は次の手順で自動再生を無効に設定してください。
  1. コントロールパネルの「自動再生」を開きます。
     「ハードウェアとサウンド」→「自動再生」
  2. 「すべてのメディアとデバイスで自動再生を使う」のチェックを外し、「保存」をクリックします。
- 「Roxio Creator」は、パケットライトによる書き込みには対応していません。
- 外付け光学ドライブをお使いになる場合も、外付け光学ドライブに添付されている「Roxio Creator」ではなく、本パソコンの「Roxio Creator」をお使いください。
- DVD+R DLにデータを書き込む場合、DVD-ROMとの互換性を高めるために「Extended Partial Lead-out」（約512MB）が書き込まれます。このため、書き込み可能な最大容量は約7.99GBとなります。

■ DVD-RAMをフォーマットする

DVD-RAMを初めてお使いになる場合や、すべてのデータを消去する場合は次の手順でDVD-RAMをフォーマットします。

POINT

- 両面タイプのDVD-RAMディスクは片面ごとにフォーマットします。

1 フォーマットするDVD-RAMをセットします（→P.61）。

2 「スタート」ボタンを右クリックし、「エクスプローラー」をクリックします。

3 ウィンドウ左の「PC」をクリックします。

4 光学ドライブを右クリックし、「フォーマット」をクリックします。

5 必要に応じて「ファイルシステム」などを設定します。

6 「開始」をクリックし、以降は表示されるメッセージに従います。

2.9.6　DVD-Videoを再生する

DVD-Videoは「WinDVD」（→P.102）で再生します。詳しくは、次の手順で「WinDVD」のヘルプをご覧ください。

1 「スタート」ボタン→「Corel」→「Corel WinDVD」の順にクリックします。

2 右上の「 （ヘルプ）」アイコンをクリックします。
ヘルプが表示されます。

■ 注意事項

- すべてのDVD-Videoの再生を保証するものではありません。
- DVD-Videoの再生には高い処理能力が必要です。DVD-Videoの再生中は、他のソフトウェアを使用しないことをお勧めします。コマ落ちや音飛びが発生する場合があります。
- 「WinDVD」ではビデオCDは再生できません。「Windows Media Player」で再生してください。
- ディスクによっては、専用の再生ソフトウェアが添付されているものがあります。ディスクに添付されている再生ソフトウェアをインストールした場合、そのソフトウェアによる再生および「WinDVD」での再生は保証しません。
- リージョンコードについて
  - ・本パソコンのリージョンコードがDVD-Videoのリージョンコードに含まれているか、リージョンフリーのDVD-Videoのみ再生できます。DVD-Videoのリージョンコードは、ディスクまたはパッケージに記載されています。ご購入時の本パソコンのリージョンコードは日本国内向けに設定されています。
  - ・本パソコンに設定されているリージョンコードと異なるリージョンコードのDVD-Videoを再生しようとすると、リージョンコードの変更を確認する画面が表示されます。必要に応じてリージョンコードを変更してください。
  - ・本パソコンのリージョンコードはご購入後4回まで変更できます。

2.10 モバイルマルチベイ

ここでは、モバイルマルチベイユニットを交換する方法について説明しています。
光学ドライブユニットの取り扱いについては、「2.9 光学ドライブ」（→P.59）をご覧ください。

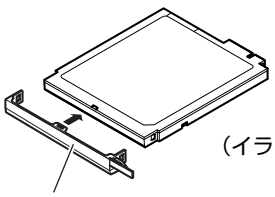
2.10.1 注意事項

- モバイルマルチベイには、必ずモバイルマルチベイユニットまたはモバイルマルチベイ用カバーを取り付けてお使いください。故障の原因となります。
- 本パソコンに対応しているモバイルマルチベイユニットをお使いください。
  詳しくは、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」（http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syskou/）をご覧ください。
- モバイルマルチベイユニットの取り扱いについては、次の点に注意してください。
  - ・極端に高温、低温の場所、温度変化の激しい場所での保管は避けてください。
  - ・直射日光のあたる場所や発熱器具のそばには近づけないようにしてください。
  - ・衝撃や振動の加わる場所での保管は避けてください。
  - ・湿気やほこりの多い場所での使用は避けてください。
  - ・内部に液体や金属など異物が入った状態で使用しないでください。もし、何か異物が入ったときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
  - ・汚れは、柔らかい布でから拭きするか、柔らかい布に水または水で薄めた中性洗剤を含ませて軽く拭いてください。ベンジンやシンナーなど揮発性のものは避けてください。
  - ・分解したり、解体したりしないでください。
  - ・磁石や強い磁界を発生する装置の近くでの使用や保管は避けてください。

2.10.2　モバイルマルチベイユニットを交換する

重 要

- 増設用内蔵バッテリユニットの場合
  お使いになる前に、増設内蔵バッテリユニットカバーを取り付けます。
  カバーの溝とユニットの突起を合わせて、しっかり取り付けてください。
  なお、一度取り付けたカバーは、取り外さないでください。破損するおそれがあります。



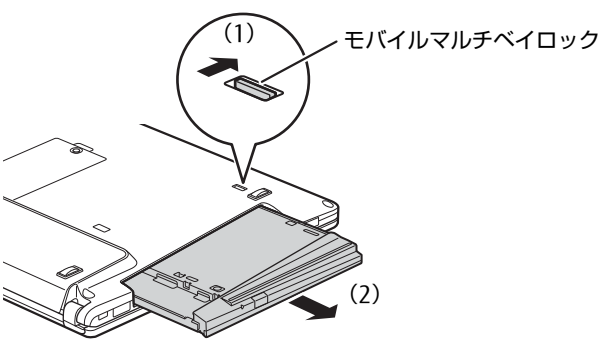
（イラストは機種や状況により異なります）

増設用内蔵バッテリユニットカバー

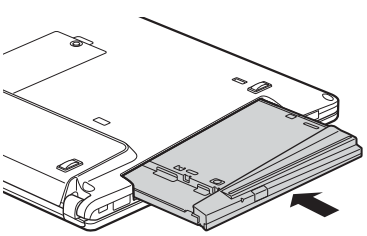
1 パソコンの電源を切り（→P.48）、ACアダプタを取り外します。

2 液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体を裏返します。

3 （1）モバイルマルチベイロックを矢印の向きにスライドさせながら、（2）モバイルマルチベイユニットをまっすぐに引き抜きます。



4 交換するモバイルマルチベイユニットのラベル面を下に、端子側を奥にして、モバイルマルチベイに「カチッ」と音がするまでまっすぐに押し込みます。



2.11 通信

ここでは本パソコンの通信機能について説明しています。
ネットワーク機器を接続してお使いになる場合は、お使いのネットワーク機器のマニュアルもご覧ください。また、搭載されている通信機能の仕様については、「8.1 本体仕様」（→P.160）をご覧ください。

POINT

- 本パソコンには、ネットワーク環境を簡単に切り替えられるユーティリティ「Plugfree NETWORK」が添付されています。「Plugfree NETWORK」の詳しい使い方は、次の操作で表示されるヘルプをご覧ください。
  1. 「スタート」ボタン→「Plugfree NETWORK」→「使用場所管理の使い方」および「ネットワーク診断の使い方」の順にクリックします。

2.11.1 有線LAN

対 象　パソコン本体およびポートリプリケータ使用時

重 要

・ポートリプリケータの有線LANでネットワークに接続する場合は、パソコン本体とポートリプリケータを接続してください。

LANケーブルを接続する方法については、「3.5.5 LANコネクタ」（→P.96）をご覧ください。
LANの設定については、ネットワーク管理者に確認してください。

■ 注意事項

- 本パソコンに搭載されている LAN デバイスには節電機能があります。この機能は、Windowsの省電力機能によってディスプレイの電源が切れると、通信速度を下げることにより電力消費を抑えるものです。
  ご購入時の設定ではこの機能は有効に設定されていますが、次の条件にすべて一致する環境でお使いの場合、Windowsの省電力機能によってディスプレイの電源が切れるときに通信エラーが発生することがあります。これにより問題がある場合は、「■ LANデバイスの節電機能の設定を変更する」（→P.69）をご覧になり、この機能を無効に設定してください。
  ・LAN デバイスの設定で、「リンク速度とデュプレックス」が「オートネゴシエーション」に設定されているとき（ご購入時の設定）
  ・本パソコンを、オートネゴシエーションが可能なネットワーク機器と接続しているとき

■ LANデバイスの節電機能の設定を変更する

LANデバイスの節電機能の設定を変更するには、次の操作を行います。

1. 管理者アカウントでサインインします。
2. コントロールパネルの「デバイスマネージャー」を開きます。
   「システムとセキュリティ」→「システム」の「デバイスマネージャー」
3. 「ネットワークアダプター」をダブルクリックします。
4. 次のデバイスをダブルクリックします。
   Intel(R) Ethernet Connection I219-LM
5. 「詳細設定」タブをクリックします。
6. 「プロパティ」で「システム無動作時の節電機能」をクリックし、「値」で「オン（有効)」または「オフ（無効)」を選択します。
7. 「OK」をクリックします。

2.11.2 無線LAN

対 象　無線LAN搭載機種

無線LANについては、『無線LANご利用ガイド』をご覧ください。
無線LANの設定については、ネットワーク管理者に確認してください。
また、無線LANの仕様については、「8.5 無線LAN」（→P.174）をご覧ください。
本パソコンは、電波法ならびに電気通信事業法に基づく技術基準に適合し、技適マークを画面に表示できます。
表示の操作方法は、「付録3 認定および準拠について」（→P.183）をご覧ください。

■ 無線LANの種類を確認する

搭載されている無線LANの種類を確認するには、次の操作を行います。

1. コントロールパネルの「デバイスマネージャー」を開きます。
   「システムとセキュリティ」→「システム」の「デバイスマネージャー」
2. 「ネットワークアダプター」をダブルクリックします。
   本パソコンに搭載されている無線LANの種類が表示されます。

2.11.3　無線WAN

対 象　無線WANモデル

ドコモUIMカードを取り付けることにより、高速パケット通信が可能になります。
ドコモUIMカードを取り付ける方法については、「3.4　ドコモUIMカード」（→P.90）をご覧ください。
無線WANについては、『内蔵無線WANをお使いになる方へ』をご覧ください。

2.11.4　Bluetoothワイヤレステクノロジー

対 象　Bluetoothワイヤレステクノロジー搭載機種

Bluetoothワイヤレステクノロジーとは、ヘッドセットやワイヤレスキーボード、携帯電話などの周辺機器や他のBluetoothワイヤレステクノロジー搭載のパソコンなどに、ケーブルを使わず電波で接続できる技術です。
Bluetoothワイヤレステクノロジーについては、『Bluetoothワイヤレステクノロジーご利用ガイド』をご覧ください。
また、Bluetoothワイヤレステクノロジーのバージョンについては、「8.1　本体仕様」（→P.160）をご覧ください。

2.11.5　無線通信機能の電波を発信する／停止する

病院や飛行機内、その他電子機器使用の規制がある場所では、あらかじめ無線通信機能の電波を停止してください。
電波の発信／停止は次の方法で変更できます。

■ ステータスパネルスイッチ

ステータスパネルスイッチで、電波の発信／停止を切り替えます。

1　デスクトップ画面のタスクバーにある をクリックします。
「ステータスパネルスイッチ」ウィンドウが表示されます。

2　「ワイヤレスオフモード」ボタンをクリックします。
ボタンをクリックするたびに、ON／OFFが切り替わります。

POINT

- 無線デバイスの発信／停止を個別に切り替えることもできます。詳しくは、「2.12　ステータスパネルスイッチ」（→P.73）をご覧ください。

■ キーボード

パソコンに搭載されている、すべての無線通信機能の電波を発信／停止します。

1 【Fn】＋【F5】キーを押します。

【Fn】＋【F5】キーを押すたびに、電波の発信／停止が切り替わります。
ワイヤレス通信ランプ（→P.20）で、発信／停止を確認してください。

重 要

- 無線デバイスは、個別に電波を発信／停止することもできます。
  そのため、ワイヤレス通信ランプが点灯していても電波が停止しているデバイスや、反対にワイヤレス通信ランプが消灯していてもデバイスが電波を発信していることがありますのでご注意ください。
  電波の発信／停止の状態は、ステータスパネルスイッチ（→P.73）または「■ Windowsの機能」（→P.71）の手順で表示される画面で確認できます。
- 電波を「停止」に切り替えた場合、すべての無線デバイスが「停止」になりますが、「発信」に切り替えた場合は、電波を「停止」する直前に「発信」の状態だったデバイスのみが「発信」となります。

■ Windowsの機能

Windowsの機能で、無線通信機能の電波の発信／停止を切り替えることもできます。

1 「スタート」ボタン→ (設定）の順にクリックします。

2 「ネットワークとインターネット」をクリックします。

3 画面左側のメニューで「機内モード」をクリックします。

POINT

- 機内モード
  ・機内モードとは、パソコンに搭載されている無線通信機能の電波を停止する機能です。
  機内モードを「オン」にすると電波が停止します。
  ・【Fn】+【F5】キーを押すたびに機内モードのオン／オフを切り替えます。

4 画面右側の「機内モード」または「ワイヤレスデバイス」でそれぞれの設定を切り替えます。

「機内モード」では無線通信の電波をまとめて発信／停止します。特定の電波の発信／停止を設定する場合は「ワイヤレスデバイス」で設定します。

	機内モード	ワイヤレスデバイス
「オン」に設定	すべての無線通信機能を停止	電波を発信
「オフ」に設定	すべての無線通信機能を発信	電波を停止

重 要

- 機内モードを「オフ」にすると、ワイヤレス通信ランプ（→P.20）が点灯します。
- 電波を「停止」に切り替えた場合、すべての無線デバイスが「停止」になりますが、「発信」に切り替えた場合は、電波を「停止」する直前に「発信」の状態だったデバイスのみが「発信」となります。

POINT

- Bluetoothワイヤレステクノロジーは、次の操作でも設定を切り替えることができます。
  1. 「スタート」ボタン→ （設定）の順にクリックします。
  2. 「デバイス」をクリックします。
  3. 画面左側のメニューで「Bluetooth」をクリックします。
  4. 画面右側のメニューで設定を切り替えます。
     ・「オン」：電波を発信する
     ・「オフ」：電波を停止する

2.12 ステータスパネルスイッチ

画面上のボタンを操作してモードを切り替えるだけで、画面の明るさやCPUのパフォーマンスなどを一括で変更し、パソコンを使用する状況に最適なモードに変更することができる機能です。

2.12.1 注意事項

- CPUパフォーマンスを次の設定にしていると動画の再生時にコマ落ちが発生する場合があります。
  ・低
  ・中
  このような場合には、「各デバイスの状態の切り替え」で「CPUパフォーマンス」を次の設定にしてください。
  ・高
  ・「モード切り替え設定」で、CPUパフォーマンスのチェックを外す（→P.75）
- 各デバイスの状態を「ON」から「OFF」に切り替える場合、切り替え前にそのデバイスの使用を中止し、接続または挿入されているデバイスをすべて取り外してから切り替えてください。デバイスを使用中に切り替えると、デバイスを停止できない場合があります。
  また、各デバイスの状態を「OFF」から「ON」に切り替える場合は、切り替え後に各デバイスをパソコンに装着してください。
- Windows へサインインした直後は、各デバイスの状態を切り替えると、切り替えに失敗する場合があります。
  各デバイスの状態の切り替えは、Windows へサインインした後、しばらくしてから実行してください。

2.12.2 ステータスパネルスイッチを起動する

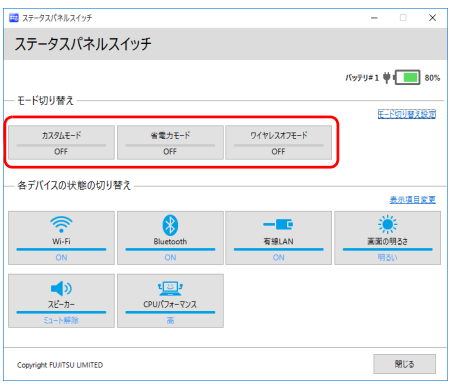
1 デスクトップ画面のタスクバーにある をクリックします。
「ステータスパネルスイッチ」ウィンドウが表示されます。

POINT

- 次の操作でも起動できます。
  1.「スタート」ボタン→「FUJITSU - ステータスパネルスイッチ」→「ステータスパネルスイッチ」の順にクリックします。

2.12.3　ステータスパネルスイッチでモードを切り替える

1 「ステータスパネルスイッチ」ウィンドウで、「モード切り替え」から使用したいモードのボタンをクリックします。
選択したモードに切り替わります。



設定モード	
カスタムモード	各デバイスの状態を個別に設定して、カスタムモードとして登録できます。設定方法については「2.12.4 各モードの設定を変更する」（→P.75）をご覧ください。
省電力モード	画面の明るさやCPU のパフォーマンスを下げることで、パソコンの消費電力を抑えることができるモードです。
ワイヤレスオフモード	無線WAN、無線LAN やBluetooth ワイヤレステクノロジーなどの無線通信機能の電波を停止するモードです。

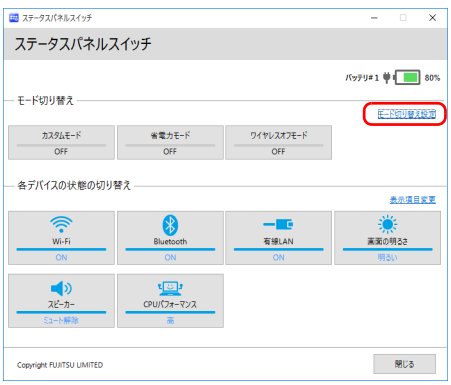
POINT

- 「各デバイスの状態の切り替え」では、それぞれの機能のボタンをクリックすると、個別に状態を変更できます。ただし、「ワイヤレスオフモード」が「ON」の場合、無線WANの状態の切り替えはできません。
- 「表示項目変更」をクリックすると、「各デバイスの状態の切り替え」に表示する項目を変更できます。
- 画面の明るさを、省電力モードで設定された画面の明るさよりも暗くしている場合は、省電力モードにしても画面が暗くならない場合があります。
- ECOボタンを押して、省電力モードの「ON」／「OFF」を切り替えることもできます。ECOボタンの場所については、「1章　各部名称」（→P.12）をご覧ください。

2.12.4　各モードの設定を変更する

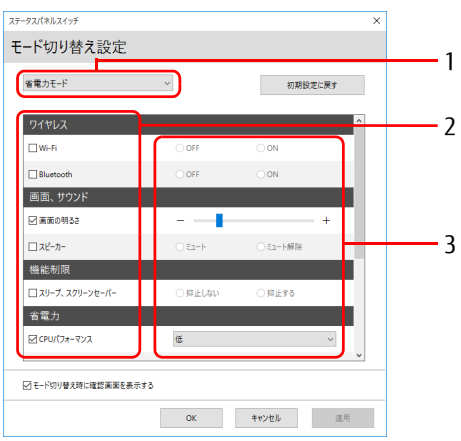
各モードで制御するデバイスの選択や、各デバイスの状態を個別に変更できます。

1 「ステータスパネルスイッチ」ウィンドウで、「モード切り替え設定」をクリックします。



2 設定を変更します。

1. モードを選択します。
2. 制御するデバイスを選択します。
3. デバイスの状態や値を設定します。



3 「適用」をクリックします。

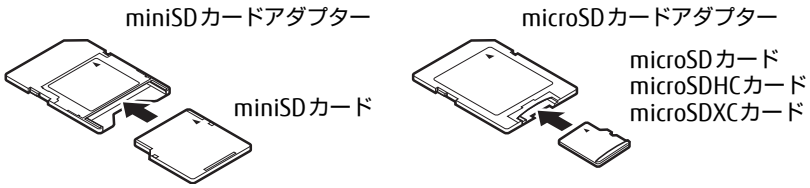
4 「OK」をクリックします。

2.13 ダイレクト・メモリースロット

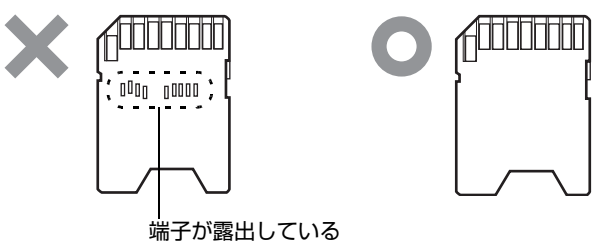
ここでは、ダイレクト・メモリースロットに、SDメモリーカードをセットしたり取り出したりする方法について説明しています。
メモリーカードの取り扱いについては、お使いのメモリーカードのマニュアルをご覧ください。メモリーカードを周辺機器で使用する場合は、お使いの周辺機器のマニュアルもご覧ください。また、ダイレクト・メモリースロットの仕様については、「8.1 本体仕様」（→P.160）をご覧ください。

2.13.1 注意事項

- メモリーカードは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまった静電気により破壊される場合があります。メモリーカードを取り扱う前は、一度アルミサッシやドアノブなどの金属に手を触れて、静電気を放電してください。
- miniSDカード、microSDカード、microSDHCカード、microSDXCカードをお使いになるには、アダプターが必要です。そのまま挿入するとメモリーカードが取り出せなくなります。



- アダプターが必要なメモリーカードは、必ずアダプターに差し込んだ状態でセットしたり取り出したりしてください。アダプターだけをダイレクト・メモリースロットに残すと、故障の原因となります。
- 裏面の中央部に端子が露出しているタイプのminiSDカードアダプターは使用できません。故障の原因となります。



UHS-II対応のSDXCカードも裏面中央から端子が露出していますが、このカードはそのまま使用してください。

2.13.2　使用できるメモリーカード

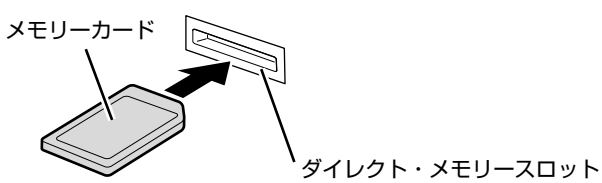
すべてのメモリーカードの動作を保証するものではありません。

メモリーカード		対応
SDメモリーカード[注1]	SDメモリーカード	○
	miniSDカード[注2]	○
	microSDカード[注2]	○
	SDHCカード	○
	microSDHCカード[注2]	○
	SDXCカード	○
	microSDXCカード[注2]	○
	SDIOカード	×

注1：・著作権保護機能には対応していません。
　　・マルチメディアカード（MMC）、セキュアマルチメディアカードには対応していません。
注2：アダプターが必要です。

2.13.3　メモリーカードをセットする

1 メモリーカードのラベル面を上に、端子側を奥にして「カチッ」と音がするまでダイレクト・メモリースロット（→P.14）に差し込みます。



POINT

- メッセージ（画面右下）が表示された場合は、そのメッセージをクリックし、必要に応じて動作を選択するか、メッセージを閉じてください。

2.13.4　メモリーカードを取り出す

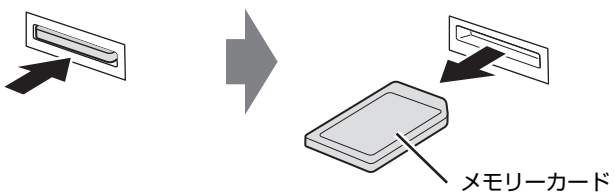
1 デスクトップ画面右下の通知領域にある「ハードウェアの安全な取り外し」アイコン（ ）をクリックします。

2 取り外すメモリーカードをクリックし、表示されるメッセージに従います。

3 メモリーカードを一度押し、少し出てきたメモリーカードを引き抜きます。

重 要

- メモリーカードを強く押さないでください。指を離したときメモリーカードが飛び出し、紛失したり衝撃で破損したりするおそれがあります。また、ダイレクト・メモリースロットを人に向けたり、顔を近づけたりしないでください。メモリーカードが飛び出すと、けがの原因になります。



2.14 暗号化機能付フラッシュメモリディスク

「暗号化機能付フラッシュメモリディスク」は、OSやプログラムを含むフラッシュメモリディスク上の全データについて、書き込み時には自動的に暗号化し、読み出し時には自動的に復号します。そのため、暗号化を意識せずにセキュリティを確保できます。
BIOSセットアップでハードディスクパスワードを設定することにより、フラッシュメモリディスクへのアクセスはパスワードで管理され、認証された使用者のみが復号されたデータを入手できます。
また、本パソコンからフラッシュメモリディスクを抜き取り、他のパソコンに接続してデータを読み取ろうとした場合にも、パスワードの入力が必要になるため不正な使用を防ぐことができます。

重 要

- ハードディスクパスワードを設定していない場合はフラッシュメモリディスクへの不正なアクセスを防ぐことができません。必ずハードディスクパスワードを設定してください。ハードディスクパスワードの設定方法は「5.3.1 BIOSのパスワード機能を使う」（→P.114）をご覧ください。

2.15 セキュリティチップ （TPM）

セキュリティチップ（TPM）は、ドライブを暗号化したときの暗号鍵などの重要なデータを格納・管理するための特別なICチップです。暗号鍵などをフラッシュメモリディスクに残さないため、フラッシュメモリディスクが盗まれても暗号を解析できません。

2.16　電源オフUSB充電機能

本パソコンには電源オフUSB充電機能が搭載されています。電源オフUSB充電機能とは、パソコン本体の電源が入っていなかったり省電力状態だったりした場合でも、携帯電話などUSB充電に対応したUSB対応周辺機器を充電することができる機能です。
ここでは電源オフUSB充電機能の設定を変更する方法について説明しています。

2.16.1　注意事項

- という刻印のあるUSB3.0コネクタ（→P.16）のみ電源オフUSB充電機能に対応しています。
- 電源オフUSB充電機能を有効にした場合、USBメモリなどの充電機能を持たないUSB周辺機器は、電源オフUSB充電機能対応のUSBコネクタに接続しないでください。
- USBキーボードまたはUSB マウスは、電源オフUSB充電機能の有効／無効にかかわらず、電源オフUSB充電機能対応のUSB コネクタには接続できません。
- USB対応周辺機器によっては、電源オフUSB充電機能を使用できない場合があります。
- 電源ボタンを4秒以上押して本パソコンの電源を切った場合は、電源オフUSB充電機能は動作しません。
- 電源オフUSB充電機能が有効に設定されている場合、本機能に対応したUSBコネクタに接続したUSB対応周辺機器を操作して省電力状態からレジュームすることはできません。
- 電源オフUSB充電機能が有効に設定されている場合、省電力状態からレジュームしたときに、本機能に対応したUSBコネクタに接続されたUSB対応周辺機器で次の現象が発生する場合があります。これらの現象が発生してもUSB対応周辺機器本体および記録データが破損することはありません。
  ・デバイス認識のポップアップウィンドウが表示される
  ・「自動再生」ウィンドウが表示される
  ・関連付けられているソフトウェアが起動する
  ・ドライブ文字が変わる

2.16.2　電源オフUSB充電機能の設定を変更する

電源オフUSB充電機能の設定を変更するには「電源オフUSB充電ユーティリティ」を使用します。

POINT

- BIOSセットアップで変更することもできます。『BIOSセットアップメニュー 一覧』の「詳細」メニューをご覧ください。

1 「スタート」ボタン→「FUJITSU - 電源オフUSB充電ユーティリティ」→「設定」の順にクリックします。

2 お使いになる設定を選択します。

POINT

- 「充電する（ACアダプタもしくはバッテリ運用時）」に設定していても、バッテリ残量が12%以下になると電源オフUSB充電機能は停止します。

3 「変更」をクリックします。

3

第3章

周辺機器

周辺機器の取り付け方法や注意事項を説明しています。

3.1 周辺機器を取り付ける前に 84
3.2 メモリ 85
3.3 ポートリプリケータ 88
3.4 ドコモUIMカード 90
3.5 コネクタの接続／取り外し 93

3.1　周辺機器を取り付ける前に

ここでは、周辺機器を取り付ける前に知っておいていただきたいことを説明しています。必ずお読みください。

3.1.1　注意事項

- 本パソコンに対応している弊社純正品をお使いください。詳しくは、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」（http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syskou/）をご覧ください。
- お使いになる周辺機器のマニュアルもあわせてご覧ください。
- 電源を切った直後は、パソコン本体内部が熱くなっています。電源を切り、電源ケーブルを抜いた後、充分に待ってから作業を始めてください。
  やけどの原因となります。
- 操作に必要な箇所以外は触らないでください。故障の原因となります。
- 周辺機器の取り付け／取り外しは、Windowsのセットアップが完了してから行ってください。
- お使いになる周辺機器によっては、取り付けた後にドライバーなどのインストールや設定が必要な場合があります。詳しくは周辺機器のマニュアルをご覧ください。
- 一度に取り付ける周辺機器は1つだけにしてください。一度に複数の周辺機器を取り付けると、ドライバーのインストールなどが正常に行われないことがあります。1つの周辺機器の取り付けが終了して、動作確認を行った後、別の周辺機器を取り付けてください。
- 一般的には周辺機器の電源を入れてからパソコン本体の電源を入れ、パソコン本体の電源を切ってから周辺機器の電源を切ります。ただし、周辺機器によっては逆の順序が必要な場合があります。詳しくは周辺機器のマニュアルをご覧ください。

3.2 メモリ

ここでは、本パソコンにメモリを取り付ける方法について説明しています。
必ず「3.1 周辺機器を取り付ける前に」（→P.84）をお読みになってから作業をしてください。

3.2.1 注意事項

- メモリを取り付ける、または取り外すときは、必ずパソコン本体の電源を切り、電源ケーブルを抜いてください。電源の切り方については、「2.7.2 電源を切る」（→P.48）をご覧ください。また、バッテリパックを取り外してください。
- メモリは静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまった静電気により破壊される場合があります。メモリを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。
- メモリはふちを持ち、端子やICなどそれ以外の箇所に触れないようにしてください。また、メモリに強い力をかけないようにしてください。故障や接触不良の原因となります。
- メモリは何度も抜き差ししないでください。故障の原因となります。
- 取り外したネジなどをパソコン本体内部に落とさないでください。故障の原因となります。
- プラスドライバー（1番）を用意してください。

3.2.2 取り付けられるメモリ

メモリを増設するときは、次の表でメモリの容量とメモリスロットの組み合わせを確認し、正しく取り付けてください。この表の組み合わせ以外で、メモリを取り付けないでください。

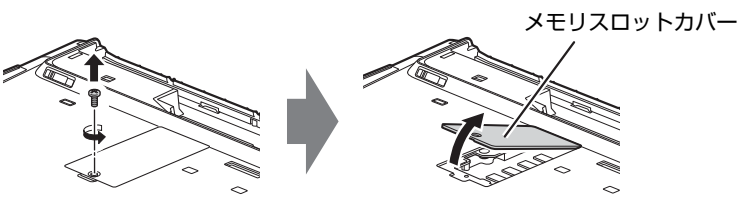
	メモリ組み合わせ		
オンボード[注]	4GB		
メモリスロット	−	4GB	8GB
メモリ総容量	4GB	8GB	12GB

注 ： オンボードに搭載されているメモリは変更することはできません。

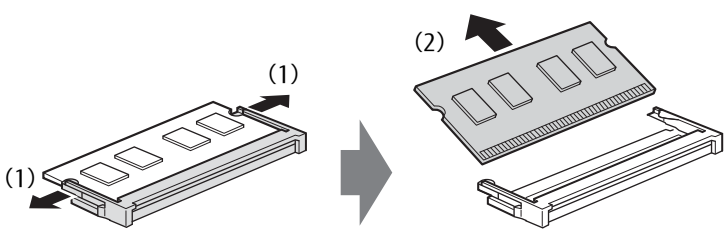
3.2.3　メモリを取り付ける

1 「2.8.4 バッテリを交換する」（→P.56）をご覧になり、バッテリを取り外します。
増設用内蔵バッテリユニットをお使いの場合は、「2.10 モバイルマルチベイ」（→P.66）をご覧になり、増設用内蔵バッテリユニットも取り外します。

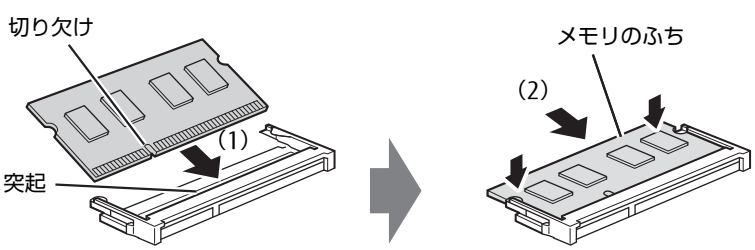
2 メモリスロットカバーを取り外します。
メモリスロットカバーのネジを外し取り外します。



3 メモリを取り付けるメモリスロットにメモリが取り付けられている場合は取り外します。
1. メモリスロットの両側のフックを外側に開いてメモリの固定を解除します。
2. メモリのふちを持って斜め上にまっすぐ引き抜きます。



4 メモリを取り付けます。
1. メモリの切り欠け部分とメモリスロットの突起を合わせ、斜め上から奥まで差し込みます。
2. メモリのふちを押しながらメモリを下に倒します。メモリスロット両側のフックがメモリを固定していることを確認してください。

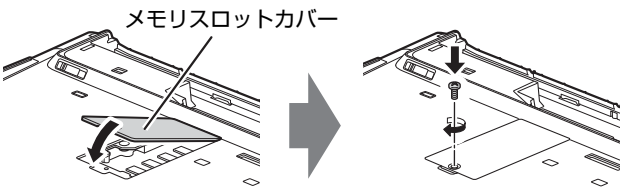


（突起の位置は機種により異なります）

重 要

- メモリがうまく取り付けられないときは、無理に取り付けず、いったんメモリを抜いてからもう一度メモリを取り付けてください。

5　メモリスロットカバーを取り付けます。
メモリスロットカバーを取り付け、ネジで固定します。



6　「2.8.4 バッテリを交換する」（→P.56）をご覧になり、バッテリを取り付けます。
増設用内蔵バッテリユニットをお使いの場合は、「2.10 モバイルマルチベイ」（→P.66）をご覧になり、増設用内蔵バッテリユニットを取り付けます。

7　BIOSセットアップを起動して、メモリが正しく認識されていることを確認します。
「5.2 BIOSセットアップの操作のしかた」（→P.111）をご覧になり、「情報」メニューを表示してメモリ容量を確認してください。

重 要

- メモリが正しく取り付けられていないと、電源を入れたときにエラーメッセージが表示されたり、画面に何も表示されなかったりすることがあります。その場合は電源ボタンを4秒以上押して本パソコンの電源を切り、メモリを取り付け直してください。それでも本パソコンが起動しない場合は、故障している可能性があります。「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

3.2.4　メモリを取り外す

メモリを取り外す場合も、取り付ける手順をご覧ください。

重 要

- 取り外したメモリは、静電気防止袋に入れて大切に保管してください。

3.3 ポートリプリケータ

対 象　ポートリプリケータ使用時

パソコン本体にポートリプリケータを取り付けると、ポートリプリケータに搭載されているコネクタを使用できるようになります。
ここでは、ポートリプリケータの取り付け、取り外し方法について説明しています。必ず「3.1 周辺機器を取り付ける前に」（→P.84）をお読みになってから作業をしてください。

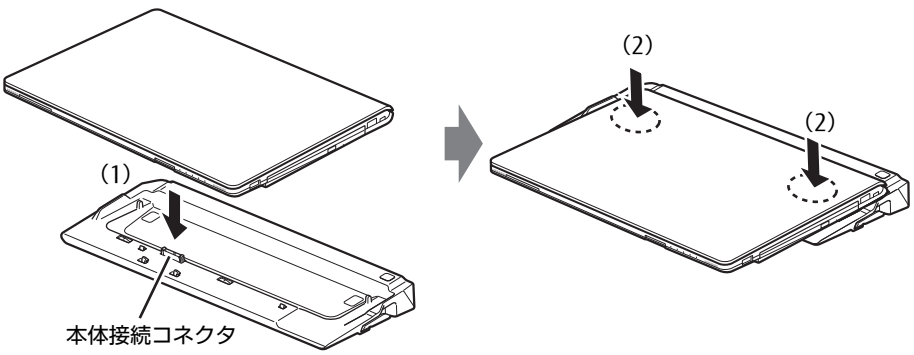
3.3.1 注意事項

- ポートリプリケータを取り付ける、または取り外すときは、必ずパソコン本体の電源を切ってください。電源の切り方については、「2.7.2 電源を切る」（→P.48）をご覧ください。
- ポートリプリケータを取り付けた状態では、本パソコンを持ち運ばないでください。パソコン本体およびポートリプリケータのコネクタの破損の原因となります。
- ポートリプリケータを取り付けた状態では、パソコン本体の次のコネクタは使用できません。
  ・LANコネクタ
  ・アナログディスプレイコネクタ
- ポートリプリケータをお使いになる場合は、必ずポートリプリケータのDC-INコネクタ（→P.21）に、ポートリプリケータ専用のACアダプタを接続してください。

3.3.2　ポートリプリケータを取り付ける

1 パソコン本体のコネクタから、周辺機器を取り外します（→P.93）。

2 （1）ポートリプリケータとパソコンの左奥を合わせて、パソコン本体を水平に下ろし、（2）矢印の部分を軽く押さえて、ポートリプリケータにしっかりと取り付けます。
本体接続コネクタを傷付けないように注意してください。



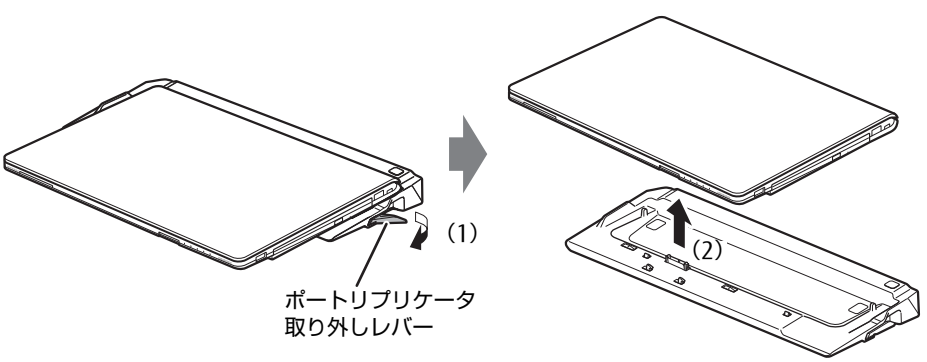
重 要

- パソコン本体上面を強く押さえると、液晶ディスプレイが割れるおそれがあります。ご注意ください。

3.3.3　ポートリプリケータを取り外す

1 ポートリプリケータのコネクタに接続されている周辺機器の電源を切ります。

2 パソコン本体をポートリプリケータから取り外します。
（1）ポートリプリケータ取り外しレバーを起こし、（2）パソコンを持ち上げます。



3.4 ドコモUIMカード

対 象　無線WANモデル

本パソコンのドコモUIMカードスロットにドコモUIMカードを取り付けると、無線WANによる通信ができるようになります。
ここでは、ドコモUIMカードの取り付け、取り外しについて説明しています。無線WANの使い方については、『内蔵無線WANをお使いになる方へ』をご覧ください。
必ず「3.1 周辺機器を取り付ける前に」（→P.84）をお読みになってから作業をしてください。

3.4.1 注意事項

- ドコモUIMカードの表面にテープなどを貼らないでください。故障の原因となります。

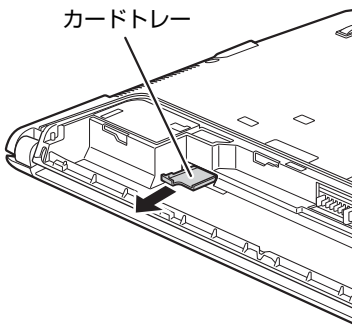
重 要

- ドコモUIMカードを取り付ける、または取り外すときは、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。電源の切り方については、「2.7.2 電源を切る」（→P.48）をご覧ください。

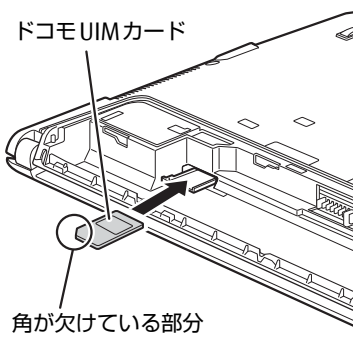
3.4.2　ドコモUIMカードを取り付ける

1 「2.8.4 バッテリを交換する」（→P.56）をご覧になり、バッテリを取り外します。
増設用内蔵バッテリユニットをお使いの場合は、「2.10 モバイルマルチベイ」（→P.66）をご覧になり、増設用内蔵バッテリユニットも取り外します。

2 カードトレーを引き出します。



3 ドコモUIMカードを図のようにカードトレーにセットし、カードトレーが止まるまでドコモUIMカードスロットに挿し込みます。

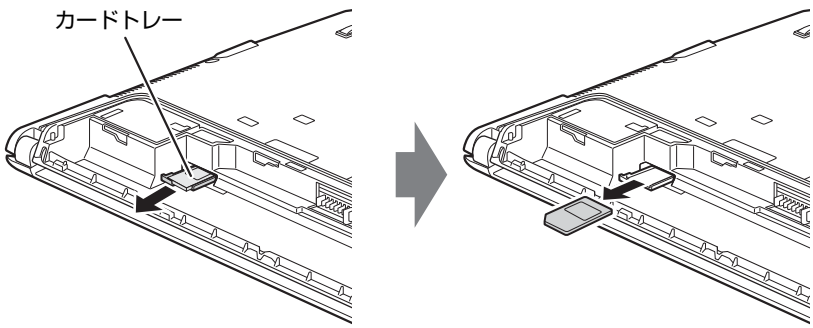


4 「2.8.4 バッテリを交換する」（→P.56）をご覧になり、バッテリを取り付けます。
増設用内蔵バッテリユニットをお使いの場合は、「2.10 モバイルマルチベイ」（→P.66）をご覧になり、増設用内蔵バッテリユニットを取り付けます。

3.4.3　ドコモUIMカードを取り外す

1 「2.8.4 バッテリを交換する」（→P.56）をご覧になり、バッテリを取り外します。
増設用内蔵バッテリユニットをお使いの場合は、「2.10 モバイルマルチベイ」（→P.66）をご覧になり、増設用内蔵バッテリユニットも取り外します。

2 カードトレーを引き出し、ドコモUIMカードを取り出します。



重 要

- 取り外したドコモUIMカードは大切に保管してください。

3 カードトレーが止まるまでドコモUIMカードスロットに挿し込みます。

4 「2.8.4 バッテリを交換する」（→P.56）をご覧になり、バッテリを取り付けます。
増設用内蔵バッテリユニットをお使いの場合は、「2.10 モバイルマルチベイ」（→P.66）をご覧になり、増設用内蔵バッテリユニットを取り付けます。

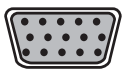
3.5 コネクタの接続／取り外し

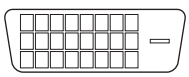
ここでは、パソコン本体やポートリプリケータに周辺機器を接続したり、取り外したりする一般的な方法について説明しています。
接続する周辺機器やケーブルのマニュアルもあわせてご覧ください。また、それぞれのコネクタの仕様については、「8.1 本体仕様」（→P.160）をご覧ください。
必ず「3.1 周辺機器を取り付ける前に」（→P.84）をお読みになってから作業をしてください。

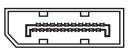
3.5.1 注意事項

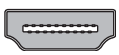
- ご購入時の構成によっては、記載されているコネクタの一部は搭載されていません。
- 周辺機器のコネクタの形状によっては、接続できなかったり、隣接するコネクタに接続された周辺機器と干渉したりする場合があります。周辺機器を接続する前に確認してください。
- 周辺機器によっては、接続したり取り外したりするときに、コネクタの仕様にかかわらずパソコン本体の電源を切る必要があるものがあります。詳しくは周辺機器のマニュアルをご覧ください。

3.5.2　ディスプレイコネクタ


アナログディスプレイコネクタ


DVI-Dコネクタ


DisplayPortコネクタ


HDMI出力端子

外部ディスプレイを接続します。パソコン本体の電源を切ってから接続してください。

重 要

- ポートリプリケータを取り付けている場合は、ポートリプリケータのアナログディスプレイコネクタに接続してください。ポートリプリケータを取り付けている場合は、パソコン本体のアナログディスプレイコネクタは使用できなくなります。

■ 接続する

1 パソコン本体の電源を切ります。

2 ディスプレイコネクタに、ディスプレイのケーブルを接続します。
コネクタの形を互いに合わせまっすぐに差し込んでください。
次のコネクタをお使いの場合、コネクタのネジを締めてください。
・DVI-Dコネクタ

3 ディスプレイの電源を入れてから、パソコン本体の電源を入れます。

■ 取り外す

重 要

- マルチディスプレイ機能（→P.38）をお使いになっている場合は、取り外すディスプレイに画面が表示されないようにしてからディスプレイを取り外してください。

□アナログディスプレイコネクタ

1 パソコン本体の電源を切ってから、ディスプレイの電源を切ります。

2 ケーブルのコネクタをまっすぐに引き抜きます。

□DVI-Dコネクタ

1 パソコン本体の電源を切ってから、ディスプレイの電源を切ります。

2 ケーブルのコネクタをまっすぐに引き抜きます。
コネクタのネジを緩めてからケーブルを引き抜いてください。

□DisplayPortコネクタ

1　パソコン本体の電源を切ってから、ディスプレイの電源を切ります。

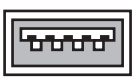
2　コネクタのツメを押さえながら、まっすぐに引き抜きます。

□HDMI出力端子

1　パソコン本体の電源を切ってから、ディスプレイの電源を切ります。

2　ケーブルのコネクタをまっすぐに引き抜きます。

3.5.3　USBコネクタ



USB3.0コネクタ

USB対応周辺機器を接続します。パソコン本体の電源を入れたまま接続、取り外しできます。

■ 接続する

1　USBコネクタに、USB対応周辺機器のケーブルを接続します。
コネクタの形を互いに合わせまっすぐに差し込んでください。

■ 取り外す

重 要

- USB対応周辺機器によっては、取り外す前に「ハードウェアの安全な取り外し」の操作が必要になる場合があります。詳しくはお使いのUSB対応周辺機器のマニュアルをご覧ください。

1　「ハードウェアの安全な取り外し」が必要な場合は次の操作を行います。

1. デスクトップ画面右下の通知領域にある「ハードウェアの安全な取り外し」アイコン（ ）をクリックします。
2. 取り外すデバイスをクリックし、表示されるメッセージに従ってデバイスを停止します。

2　ケーブルのコネクタをまっすぐに引き抜きます。

3.5.4　オーディオ端子

オーディオ機器を接続します。パソコン本体の電源を入れたまま接続、取り外しできます。

重 要

- マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子にオーディオ機器を接続したり取り外したりするときは、オーディオ機器の再生音量を小さくするか、再生を停止してください。

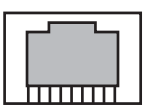
■ 接続する

1 マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子に、オーディオ機器のケーブルを接続します。
まっすぐに差し込んでください。

■ 取り外す

1 ケーブルのコネクタをまっすぐに引き抜きます。

3.5.5　LANコネクタ



LANケーブルを接続します。パソコン本体の電源を入れたまま接続、取り外しできます。
ただし、電源を入れたまま接続すると、LANが使用可能になるまで時間がかかる場合があります。

重 要

- 1000BASE-Tの通信を行うためには、1000BASE-Tに対応したネットワーク機器とエンハンスドカテゴリー5（カテゴリー5E）以上のLANケーブルを使用してください。
- ポートリプリケータを取り付けている場合は、ポートリプリケータのLANコネクタに接続してください。ポートリプリケータを取り付けている場合は、パソコン本体のLANコネクタは使用できなくなります。

■ 接続する

1 LANコネクタにネットワーク機器のケーブルを接続します。
コネクタの形を互いに合わせ、「カチッ」と音がするまでまっすぐに差し込んでください。

■ 取り外す

1 コネクタのツメを押さえながら、まっすぐに引き抜きます。

4

第4章
ソフトウェア

本パソコンにプレインストール（添付）されているソフトウェアの概要や、インストール、アンインストール方法を説明しています。

4.1 ソフトウェアの紹介 98
4.2 インストール 104
4.3 アンインストール 108

4.1 ソフトウェアの紹介

ここでは、本パソコンにプレインストールまたは添付されているソフトウェアの概要と、ご購入時の提供形態を説明しています。
ご購入時にインストールされているソフトウェアは、削除してしまったり、データやファイルが破損したりした場合に再インストールできるように、「ドライバーズディスク」などに格納されています。
また、ご購入時にはインストールされておらず、お使いになる前にCドライブなどからインストールするソフトウェアもあります。
各ソフトウェアの格納場所は、次ページ以降の一覧表で確認してください。

その他の情報については次をご覧ください。

- ソフトウェアの使い方
  ヘルプまたは「Readme.txt」などの説明ファイルをご覧ください。
  ヘルプは、【F1】キーを押したり「ヘルプ」をクリックしたりすることで表示されます。
- インストール方法
  「4.2 インストール」（→P.104）をご覧ください。
- カスタムメイドのソフトウェアおよび一部のソフトウェア
  インターネット上のマニュアル（http://www.fmworld.net/biz/fmv/support/fmvmanual/）の機能別のマニュアルをご覧ください。

4.1.1 一覧表の見かた

ソフトウェア一覧表の欄にある項目や記号について説明します。

- ご購入時のソフトウェアの提供形態について
  ●：ご購入時にインストール済み
  ◇：Cドライブに格納（ご購入時はインストールされていません）
  ▲：「ドライバーズディスク」に格納（ご購入時はインストールされていません）
  ◎：ソフトウェアの専用ディスクに格納（ご購入時はインストールされていません）
  ■：起動メニューより選択（→P.113）

  「ドライバーズディスク」や各ソフトウェアのディスクは、本パソコンのフラッシュメモリディスクに格納されています。ディスクがお手元にない場合はフラッシュメモリディスクからディスクを作成してください。作成方法については『リカバリガイド』をご覧ください。

4.1.2　セキュリティ関連のソフトウェア

表内の記号については「4.1.1 一覧表の見かた」（→P.98）をご覧ください。

名称	概要／提供形態	
i-フィルター	インターネット上の有害なコンテンツをブロックするソフトウェアです。 有害サイトへアクセスしようとすると、表示できない主旨のメッセージ画面が自動的に表示されます。 フリーソフトのため、サポートは行っておりません。 ・「i-フィルター」の利用期間は、初回起動時から30日間です。利用期間が経過すると、フィルター機能は利用できなくなります。継続して利用する場合は、オンラインにてユーザー登録、シリアルIDの購入が必要です。	◇
Portshutter Premium	USBポート（WebカメラやNFCポート（FeliCa）など内蔵USBデバイスを含む）や光学ドライブなどの接続ポートの有効・無効を設定します。 不要な機器の使用を制限することで、情報漏えいを防止できます。	▲
Sense YOU Technology Biz設定	対 象 **Webカメラ搭載機種** Webカメラから取得した画像を利用して、Windowsにサインイン後のユーザーの着席または離席を検知し、画面表示のオン／オフやロックをしたりします。 詳しくは、「Sense YOU Technology Biz設定」のヘルプをご覧ください。	▲
SMARTACCESS/Basic	対 象 **指紋センサー、手のひら静脈センサー、スマートカードスロット、NFCポート搭載機種** 指紋センサー、手のひら静脈センサー、スマートカードスロット、NFCポートを使用するためのソフトウェアです。 「SMARTACCESS/Basic」または「SMARTACCESS/Premium」にてFeliCa専用カードでの「カードボーリング動作」の使用中は、フラットポイントが使用できなくなります。 フラットポイントを使用する場合は、「カードボーリング動作」―「抜き取り」を行わない設定で使用してください。	▲
マカフィー リブセーフ	コンピューターウイルスを検出・駆除します。無償サポート、無償アップデートの期間は、使用開始から60日間です。 インストールの方法については「4.2.2 「マカフィー リブセーフ」のインストール」（→P.106）を、その他のお問い合わせは「7.3.1 お問い合わせ先」（→P.158）をご覧ください。	◇
ハードディスクデータ消去	フラッシュメモリディスク内のデータを消去します。 詳しくは、「フラッシュメモリディスクデータ消去」（→P.178）をご覧ください。	■

4.1.3　サポート関連のソフトウェア

表内の記号については「4.1.1 一覧表の見かた」（→P.98）をご覧ください。

名称	概要／提供形態	
UpdateAdvisor（本体装置）	お使いのパソコンのドライバー、添付ソフトウェアのアップデート版が、弊社アップデートサイトに公開されているかを調査し、適用することができます。 「スタート」メニューから起動します。 また、「UpdateAdvisor（本体装置）情報収集」を利用してお使いのパソコンの動作環境情報を収集できます。 ・「UpdateAdvisor（本体装置）情報収集」は、弊社サポートより依頼があった場合にのみお使いください。	●
サポートナビ	本パソコンを快適にお使いいただくためのナビゲーションツールを目的別に分類したランチャーです。	●
パソコン乗換ガイド	今までお使いになっていたパソコンから、現在お使いのパソコンへ必要なデータを移行できます。 ・「パソコン乗換ガイド」では移行できないデータもあります。	▲
富士通ハードウェア診断ツール	ハードウェアに障害が発生していないか診断できます。 詳しくは、「7.1.5 診断プログラムを使用する」（→P.134）をご覧ください。	■

4.1.4　ユーティリティ

表内の記号については「4.1.1 一覧表の見かた」（→P.98）をご覧ください。

名称	概要／提供形態	
Easy Backup2	お客様が作成したファイルなどを簡単な操作でまとめてバックアップできます。	▲
Plugfree NETWORK	無線LANや有線LAN、およびダイヤルアップネットワークに接続するための設定を統合的に管理するソフトウェアです。 「Plugfree NETWORK」が接続したネットワークを判定し、会社、通勤中、自宅など、パソコンを使う場所が変わっても、自動で最適な設定に切り替えます。 「ネットワーク診断」でネットワークの状態を確認し、トラブル解決のサポートをします。 詳しくは、「Plugfree NETWORK」のヘルプをご覧ください。 なお、無線WANには対応していません。	●
Skylight	対 象 無線WANモデル ネットワークサービスへ接続、また接続するために必要な設定を行うソフトウェアです。	●
ステータスパネルスイッチ	パソコンの環境設定や各デバイスの設定を、画面上のボタン操作で可能にするソフトウェアです。 詳しくは、「2.12 ステータスパネルスイッチ」（→P.73）をご覧ください。	●
電源オフUSB充電ユーティリティ	省電力状態（スリープ、休止状態）、電源オフの状態で、USB充電に対応したUSB対応周辺機器に充電を行うためのユーティリティソフトです。	●
ドライバーズディスク検索	ドライバーやアプリをインストールするときに使用するソフトウェアです。	●
バッテリーユーティリティ	バッテリの情報を表示したり、充電モードの変更やECO Sleep機能を設定したりします。機種によって利用できる機能が異なります。詳しくは、「2.8 バッテリ」（→P.53）をご覧ください。	●
ピークシフト設定	設定した時間にあわせて、ACアダプタ運用とバッテリ運用を切り替えることができます。ピークシフト設定の設定方法については、「2.7.5 ピークシフト」（→P.51）をご覧ください。	●
ワンタッチボタン設定	パソコンの機能を、ワンタッチで呼び出す設定ができます。 ご購入時は、ECOボタンを押すと省電力モードの切り替えを行う設定になっています。	●

4.1.5　CD/DVD関連のソフトウェア

表内の記号については「4.1.1 一覧表の見かた」（→P.98）をご覧ください。

名称	概要／提供形態	
Roxio Creator	パソコンのデータをCDやDVDに保存できます。 使用方法については、「2.9.5 ディスクに書き込む」（→P.63）およびソフトウェアのヘルプをご覧ください。	●
WinDVD	対 象 スーパーマルチドライブ（ユニット）搭載機種 DVD-ROMドライブ（ユニット）搭載機種 映画や音楽などのDVDを再生できます。 使用方法については、「2.9.6 DVD-Videoを再生する」（→P.64）をご覧ください。	◎

4.1.6　Office製品

カスタムメイドで選択したソフトウェアをご覧ください。
ご購入時にOfficeはインストールされています。Officeをお使いになる場合は、プロダクトキーの入力とライセンス認証が必要です。詳しくは、「4.2.6 Office製品のインストール」（→P.107）またはソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

重 要

- リカバリを実行した場合、Officeはインストールされません。マイクロソフト社のホームページ（http://www.office.com/jppipcsetup/）からOffice製品をダウンロードしてください。

表内の記号については「4.1.1 一覧表の見かた」（→P.98）をご覧ください。

名称	含まれるソフトウェア	概要／提供形態	
Microsoft Office Professional 2016	Microsoft Word 2016	ワープロ	
	Microsoft Excel 2016	表計算	
	Microsoft Outlook 2016	情報管理	
	Microsoft PowerPoint 2016	プレゼンテーション	●
	Microsoft OneNote 2016	デジタルノート	
	Microsoft Access 2016	データベース	
	Microsoft Publisher 2016	ビジネスパブリッシング	
Microsoft Office Home & Business 2016	Microsoft Word 2016	ワープロ	
	Microsoft Excel 2016	表計算	
	Microsoft Outlook 2016	情報管理	●
	Microsoft PowerPoint 2016	プレゼンテーション	
	Microsoft OneNote 2016	デジタルノート	
Microsoft Office Personal 2016	Microsoft Word 2016	ワープロ	
	Microsoft Excel 2016	表計算	●
	Microsoft Outlook 2016	情報管理	

4.2 インストール

インストール方法はお使いになるソフトウェアにより異なります。
データの格納されたフォルダー内にある「Readme.txt」などの説明ファイルや、機能別マニュアル、ソフトウェアに添付のマニュアルなどを必ずご確認のうえ、手順に従ってインストールしてください。

重 要

- 誤ったドライバーをインストールした場合、本パソコンが正しく動作しなくなり、リカバリが必要となることがあります。必ずOSや機種名を確認し、正しいドライバーを使用してください。
- すでにインストールされているドライバーについては、特に問題がない限りインストールしないでください。
- 管理者アカウントでWindowsにサインインしてからインストールしてください。

4.2.1 「ドライバーズディスク検索」からのインストール

「ドライバーズディスク」(注) またはフラッシュメモリディスクに格納されているソフトウェアまたはドライバーは、「ドライバーズディスク検索」を使ってインストールできます。

注 ：・「i-フィルター」をインストールする場合は、「4.2.3 「i-フィルター」のインストール」（→P.106）をご覧ください。
・「WinDVD」をインストールする場合は、「4.2.5 「WinDVD」のインストール」（→P.106）をご覧ください。
・「SMARTACCESS/Basic」をお使いになるには、認証デバイスによりドライバーのインストールが必要になる場合があります。インストール方法については、必ず「4.2.4 「SMARTACCESS/Basic」のインストール」（→P.106）をご覧ください。

重 要

- 次のソフトウェアは「ドライバーズディスク検索」からインストールできません。各ソフトウェアのインストールをご覧ください。
  ・マカフィー リブセーフ（→P.106）
  ・Office製品（→P.107）
- 「ドライバーズディスク」は、本パソコンのフラッシュメモリディスクに格納されています。ディスクがお手元にない場合はフラッシュメモリディスクからディスクを作成してください。作成方法については『リカバリガイド』をご覧ください。
- ドライバーやソフトウェアのアップデート版は、弊社アップデートサイトに公開されています。システムの安定稼働のため、常に最新版のドライバーやユーティリティを適用することをお勧めします。なお、本パソコンに搭載されているすべてのドライバーやソフトウェアが公開されているわけではありません。

1 次の操作を行います。

●ディスクからインストールする場合

1. ディスクをセットします。
   「ドライバーズディスク検索」が起動します。

POINT

- メッセージ（画面右下）が表示された場合は、そのメッセージをクリックし、続けて「DRVCDSRC.exeの実行」をクリックしてください。
- 「ドライバーズディスク検索」が起動しない場合は、次のように操作してください。
  1. 「スタート」ボタンを右クリックし、「エクスプローラー」をクリックします。
  2. ウィンドウ左の「PC」をクリックします。
  3. ディスクをセットしたドライブのアイコンを右クリックし、表示されたメニューから「自動再生を開く」をクリックします。
  4. 「DRVCDSRC.exeの実行」をクリックします。

●フラッシュメモリディスクのデータからインストールする場合

1. 「スタート」ボタン→「Fujitsu - ドライバーズディスク検索」→「ドライバーズディスク検索（ハードディスク）」の順にクリックします。
2. メッセージが表示されたら、「OK」をクリックします。

   「ドライバーズディスク検索」が起動します。

2 「ソフトウェアの検索条件」で機種名が選択できる場合は、お使いの機種名を選択します。

3 「ソフトウェアの検索条件」でお使いのOSを選択します。

4 「種別」に「すべて」を選択します。

5 インストールするソフトウェアを選択します。
「内容」に、インストールするソフトウェアのフォルダーが表示されます。

6 「インストール方法の確認」をクリックします。
Readmeなどのテキストファイルを選択するウィンドウが表示されます。

7 テキストファイルを選択し、「開く」をクリックします。
テキストファイルの手順に従って、ドライバーをインストールしてください。

●Portshutter Premiumをインストールする場合
デバイス制御、ネットワーク制御でインストール方法が異なります。
それぞれのソフトウェア説明書をご覧になりインストールしてください。
・デバイス制御
「PortshutterPremiumDevice」フォルダの「操作マニュアル.pdf」
・ネットワーク制御
「PortshutterPremiumNetwork」フォルダの「操作マニュアル.pdf」

ドライバーのインストール完了後、本パソコンが再起動します。

4.2.2　「マカフィー リブセーフ」のインストール

POINT

- 「マカフィー リブセーフ」をインストールしていると、お使いのソフトウェアによっては正常にインストールされなかったり、不具合が発生したりすることがあります。

1 次のファイルをご覧になり、インストールします。

C:¥Fujitsu¥Bundle¥MLS¥Readme.txt

2 インストールが完了したら本パソコンを再起動します。

重 要

- ウイルス定義ファイルは、常に最新の状態でお使いください。詳しくは「マカフィー リブセーフ」のヘルプをご覧ください。
- ウイルス定義の更新は、システム管理者の指示に従って実行してください。
- 定義を更新するには、インターネットに接続できる環境が必要です。

4.2.3　「i-フィルター」のインストール

Cドライブに格納されています。次のファイルをご覧になり、インストールしてください。

C:¥Fujitsu¥Bundle¥I-Filter¥Readme.txt

4.2.4　「SMARTACCESS/Basic」のインストール

「SMARTACCESS/Basic」は「ドライバーズディスク」に格納されていますが、インストールの方法や順番が、他のソフトウェアとは異なります。「SMARTACCESS/Basic」のインストール方法については、『SMARTACCESSファーストステップガイド』をご覧ください。

4.2.5　「WinDVD」のインストール

「Corel® WinDVD®」ディスクからインストールします。
インストール方法については、ディスク内の「DVDreadme.txt」をご覧ください。

重 要

- 「Corel® WinDVD®」ディスクは、本パソコンのフラッシュメモリディスクに格納されています。ディスクがお手元にない場合はフラッシュメモリディスクからディスクを作成してください。作成方法については『リカバリガイド』をご覧ください。

4.2.6　Office製品のインストール

重 要

- インターネットに接続し、インストールしてください。
- Microsoftアカウントが必要となります。

1 「スタート」ボタン→「Microsoft Office」の順にクリックします。

2 この後は、画面に従って操作します。

・プロダクトキーの入力
プロダクトキーは、プロダクトキーカードに貼付されています。
・使用許諾契約の同意
ライセンス条項を表示して必ずお読みください。

Office製品のご利用は「Officeの更新」を適用して、常に最新の状態に更新してください。

重 要

- ご購入時に添付のディスクを使ってリカバリを実行した場合、Office製品はインストールされません。マイクロソフト社のホームページからOffice製品をダウンロードしてください。
  インストール方法については、次のホームページをご覧ください。
  http://www.office.com/jppipcsetup/

4.3 アンインストール

4.3.1　注意事項

ソフトウェアをアンインストールする場合は、次の点に注意してください。

- ソフトウェアをすべて終了してからアンインストールを始めること
- DLLファイルは削除しないこと
  アンインストール時に次のようなメッセージが表示されることがあります。
  「このDLLは複数のソフトウェアで使用されている可能性があります。削除を行いますか」
  このDLLファイルを削除すると、他のソフトウェアが正常に動作しなくなることがあります。ソフトウェアのマニュアル、ヘルプ、または「Readme.txt」などの説明ファイルで、特に指示がない場合はDLLファイルは削除しないことをお勧めします。

4.3.2　アンインストール方法

一般的に、次の方法があります。

- アンインストール機能を使用する
  ソフトウェアにアンインストール機能が用意されている場合があります。
- 「プログラムのアンインストールまたは変更」機能を使用する
  「コントロールパネル」ウィンドウ→「プログラム」の「プログラムのアンインストール」機能を使用して、ソフトウェアを削除できます。

アンインストール方法はソフトウェアによって異なります。詳しくは、各ソフトウェアのマニュアル、ヘルプ、または「Readme.txt」などの説明ファイルをご覧ください。

重 要

- 次の認証デバイスのドライバーをアンインストールするときは、
  「SMARTACCESS/Basic」をアンインストールした後で行うようにしてください。
  アンインストール方法については、『SMARTACCESS ファーストステップガイド』をご覧ください。
  ・指紋センサー
  ・手のひら静脈センサー
  ・NFCポート
  ・スマートカードスロット

5

第5章

BIOS

BIOSセットアップについて説明しています。

5.1 BIOSセットアップ 110
5.2 BIOSセットアップの操作のしかた 111
5.3 設定事例集 114
5.4 ME BIOS Extension 123

5.1 BIOSセットアップ

BIOSセットアップは、メモリやフラッシュメモリディスクなどのハードウェアの環境を設定するためのプログラムです。
本パソコンご購入時には、すでに最適なハードウェア環境に設定されています。次のような場合にBIOSセットアップの設定を変更します。

・特定の人だけが本パソコンを利用できるように、本パソコンにパスワードを設定するとき
・起動デバイスを変更するとき
・セキュリティチップの設定を変更するとき
・SMARTACCESSのBIOS連携を使用するとき（指紋センサー／手のひら静脈センサー搭載機種）
・Wakeup on LANの設定を変更するとき
・起動時の自己診断（POST）にBIOSセットアップをうながすメッセージが表示されたとき

重 要

- BIOSセットアップの設定は、必ず電源を切ってから行ってください。電源の切り方は、「2.7.2 電源を切る」（→P.48）をご覧ください。
- BIOSセットアップは正確に設定してください。
  設定を間違えると、本パソコンが起動できなくなったり、正常に動作しなくなったりすることがあります。
  このような場合には、変更した設定値を元に戻すか、ご購入時の設定に戻して本パソコンを再起動してください。
- 起動時の自己診断中は、電源を切らないでください。

5.2 BIOSセットアップの操作のしかた

ここでは、BIOSセットアップの起動と終了、および基本的な操作方法について説明しています。

5.2.1 BIOSセットアップを起動する

1 【F2】キーを押したまま、本パソコンの電源を入れます。

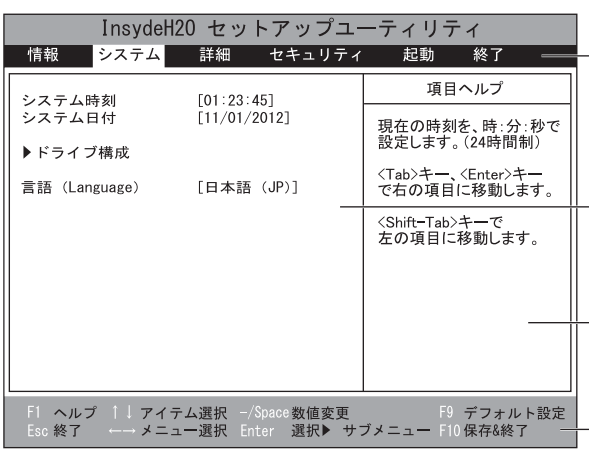
2 ビープ音が鳴ったら、【F2】キーを離します。
パスワード入力画面が表示されたらパスワードを入力（→P.116）してください。
指紋または手のひら静脈を登録した場合は、認証を行ってください。
BIOSセットアップ画面が表示されます。

POINT

- Windowsが起動してしまった場合は、本パソコンの電源を完全に切ってからもう一度操作してください。電源の切り方は、「2.7.2 電源を切る」（→P.48）をご覧ください。

5.2.2 BIOSセットアップ画面

BIOSセットアップ画面の各部の名称と役割は、次のとおりです。
各項目についての説明は「項目ヘルプ」を、操作方法は「キー一覧」をご覧ください。



1 メニューバー
メニュー名が表示されます。

2 設定フィールド
選択しているメニューの設定項目と、現在の設定値が表示されます。

3 項目ヘルプ
カーソルを合わせた項目の説明が表示されます。

4 キー一覧
設定時に使うキーの一覧です。

（機種により表示が異なる場合があります）

5.2.3　BIOSセットアップメニュー

BIOSの各種設定を行います。
本パソコンのBIOSセットアップメニューについては、『BIOSセットアップメニュー 一覧』をご覧ください。

5.2.4　BIOSセットアップを終了する

■ 変更を保存して終了する

1 「終了」メニューを選択します。
サブメニューが表示されている場合は、メニューバーに「終了」メニューが表示されるまで【Esc】キーを数回押してから、「終了」メニューを選択してください。

2 「変更を保存して終了する」または「変更を保存して電源を切る」を選択し、【Enter】キーを押します。
確認メッセージが表示されます。

3 「はい」を選択し、【Enter】キーを押します。
BIOSセットアップが終了します。「変更を保存して終了する」を選択した場合はWindowsが起動し、「変更を保存して電源を切る」を選択した場合はパソコンの電源が切れます。

■ 変更を保存せずに終了する

1 「終了」メニューを選択します。
サブメニューが表示されている場合は、メニューバーに「終了」メニューが表示されるまで【Esc】キーを数回押してから、「終了」メニューを選択してください。

2 「変更を保存せずに終了する」を選択し、【Enter】キーを押します。
確認メッセージが表示されます。

POINT

- 何も変更していない場合は、メッセージは表示されずにBIOSセットアップが終了し、Windowsが起動します。

3 「いいえ」を選択し、【Enter】キーを押します。
BIOSセットアップが終了し、Windows が起動します。

重 要

- 「はい」を選択すると、変更が保存されてしまいます。必ず「いいえ」を選択してください。

5.2.5　起動メニューを使用する

起動するデバイスを選択して本パソコンを起動します。「リカバリ起動ディスク」から本パソコンを起動する場合などに使用します。

重 要

- BIOSセットアップの「セキュリティ」メニューの「起動メニュー」が「使用しない」の場合は、起動メニューを使用できません。その場合は、「使用する」に設定し直してください。

1 【F12】キーを押したまま、本パソコンの電源を入れます。

2 ビープ音が鳴ったら、【F12】キーを離します。
パスワード入力画面が表示されたらパスワードを入力（→P.116）してください。
指紋または手のひら静脈を登録した場合は、認証を行ってください。
起動メニューが表示されます。

POINT

- Windowsが起動してしまった場合は、本パソコンの電源を完全に切ってからもう一度操作してください。電源の切り方は、「2.7.2 電源を切る」（→P.48）をご覧ください。
- 【Tab】キーを押して、「起動メニュー」と「アプリケーションメニュー」の表示を切り替えることができます。

3 カーソルキーで起動するデバイスを選択し、【Enter】キーを押します。
選択したデバイスから本パソコンが起動します。

POINT

- 光学ドライブから起動する場合、光学ドライブにディスクをセットしてから操作してください。
- 光学ドライブから起動する場合、光学ドライブのデータの読み出しが停止していることを確認してから【Enter】キーを押してください。
光学ドライブのデータの読み出し中に【Enter】キーを押すと、光学ドライブから正常に起動できない場合があります。
- 起動メニューを終了して通常の方法で起動する場合は、【Esc】キーを押してください。

5.3 設定事例集

ここでは、よく使われる設定について、その設定方法を記載しています。お使いの状況にあわせてご覧ください。

・BIOSのパスワード機能を使う（→P.114）
・起動デバイスを変更する（→P.117）
・セキュリティチップの設定を変更する（→P.118）
・パスワードの代わりに指紋認証を使う（→P.119）
・パスワードの代わりに手のひら静脈認証を使う（→P.120）
・Wakeup on LANを有効にする（→P.121）
・イベントログを確認する（→P.121）
・イベントログを消去する（→P.122）
・ご購入時の設定に戻す（→P.122）

5.3.1 BIOSのパスワード機能を使う

■ パスワードの種類

本パソコンで設定できるパスワードは次のとおりです。

□管理者用パスワード

システム管理者用のパスワードです。パスワード機能を使う場合は、必ず設定してください。

□ユーザー用パスワード

一般利用者用のパスワードです。管理者用パスワードが設定されている場合のみ設定できます。ユーザー用パスワードでBIOSセットアップを起動した場合は、設定変更のできる項目が制限されます。制限された設定項目はグレー表示になり、変更できません。

POINT

- 管理者用パスワードが削除された場合、ユーザー用パスワードも削除されます。

□ハードディスクパスワード

本パソコンのフラッシュメモリディスクを、他のユーザーが使用したり、他のコンピューターで使用したりできないようにするためのパスワードです。

■ パスワードを設定／変更／削除する

重 要

- ハードディスクパスワードを設定する場合は、電源オフ状態から作業を開始してください。本パソコンを再起動してBIOSセットアップを起動した場合、ハードディスクパスワードを設定することはできません。
- 「管理者用パスワード」を変更するには、BIOSセットアップを「管理者用パスワード」で起動する必要があります。
- 「ユーザー用パスワード」を設定するには、「管理者用パスワード」が設定されている必要があります。
- 「暗号化機能付フラッシュメモリディスク」は、全データを自動的に暗号化、復号していますが、ハードディスクパスワードを設定していない場合はフラッシュメモリディスクへの不正なアクセスを防ぐことができません。

1 ハードディスクパスワードを設定する場合は、次の操作を行います。

1. 本パソコンの電源が入っている場合は、電源を切ります（→P.48）。
2. BIOSセットアップを起動します（→P.111）。

2 「セキュリティ」メニューで次の項目を選択し、【Enter】キーを押します。

●管理者用パスワード／ユーザー用パスワードを設定する場合

・「管理者用パスワード設定」

・「ユーザー用パスワード設定」

●ハードディスクパスワードを設定する場合

・「ハードディスクセキュリティ」の「ドライブn」の「マスターパスワード設定」

・「ハードディスクセキュリティ」の「ドライブn」の「ユーザーパスワード設定」

POINT

- ハードディスクの「マスターパスワード」を設定するためには、ハードディスクの「ユーザーパスワード」が設定されている必要があります。

3 すでにパスワードが設定されている場合は、現在のパスワードを入力します。

「新しいパスワードを入力してください」にカーソルが移ります。

4 新しいパスワード（1～32桁）を入力します。

パスワードを削除する場合は、何も入力せずに【Enter】キーを押します。

「新しいパスワードを確認してください」にカーソルが移ります。

重 要

- パスワードには、アルファベットと数字、記号および半角スペースを使用できます。大文字、小文字は区別されます。
  記号を入力する場合は、次の表をご覧ください。（表にない記号は使用できません。）
  ・キーボードの刻印どおりに入力します。

入力する記号	-	;	,	.	/

  ・【Shift】キーを押しながら対応するキーを押します。

入力したい記号	!	#	$	%	<	>	?
対応するキー	1	3	4	5	,	.	/

- 入力した文字は表示されず、代わりに「*」が表示されます。
- 数字だけでなく英字を入れたり、定期的に変更したりするなど、第三者に推測されないように工夫してください。
- BIOSセットアップを「ユーザー用パスワード」で起動した場合、「ユーザー用パスワード」を削除できるのは「ユーザー用パスワード文字数」の設定が0のときだけです。0以外のときは、「パスワード文字数不足」のメッセージが表示されます。
- 本パソコンの修理が必要な場合は、必ずパスワードを解除してください。パスワードがかかった状態では、保証期間にかかわらず、修理は有償となります。

5 手順4で入力したパスワードをもう一度入力します。
「変更が保存されました。」と表示され、パスワードが変更されます。

POINT

- 再入力したパスワードが間違っていた場合は、警告メッセージが表示されます。【Enter】キーを押してウィンドウを消去し、手順4からやり直してください。

6 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
「5.2.4 BIOSセットアップを終了する」（→P.112）

■ パスワードを使用する

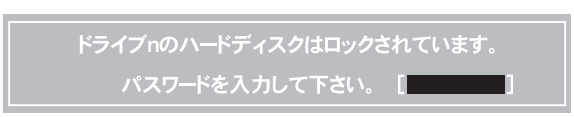
設定したパスワードは、BIOSセットアップの設定により、次の場合に入力が必要になります。

POINT

- 誤ったパスワードを3回入力すると、エラーメッセージが表示されて警告音が鳴ります。また、キーボードやマウスが一切反応しなくなります。この場合は、電源ボタンを4秒以上押して本パソコンの電源を切ってください。その後、10秒以上待ってからもう一度電源を入れて、正しいパスワードを入力してください。

- 管理者用パスワード／ユーザー用パスワード
  ・BIOSセットアップを起動するとき
  ・本パソコンを起動するとき
  ・休止状態からレジュームするとき
  次の入力画面が表示されたら、管理者用パスワードまたはユーザー用パスワードを入力してください。

- ハードディスクパスワード
  ・本パソコンを起動するとき
  次の入力画面が表示されたら、対応するドライブのハードディスクパスワードを入力してください。



POINT

- ハードディスク用マスターパスワードでは、本パソコンを起動することはできません。

■ パスワードを忘れてしまったら

重 要

- ハードディスクパスワードは、盗難などによる不正使用を防止することを目的とした強固なセキュリティです。ハードディスクパスワードを忘れてしまった場合、修理をしてもフラッシュメモリディスク内のデータやプログラムは復元できず、消失してしまいます。パスワードの管理には充分ご注意ください。

□対処が可能な場合

- ユーザー用パスワードを忘れてしまった
  管理者用パスワードを削除すると、ユーザー用パスワードも削除されます。
- ハードディスク用ユーザーパスワードを忘れてしまった
  ハードディスク用マスターパスワードが設定されている場合のみ、マスターパスワードを削除するとユーザーパスワードも削除されます。
  マスターパスワードを設定していなかった場合は、修理が必要です。修理は保証期間にかかわらず、有償になります。

□対処が不可能な場合

次の場合は、修理が必要です。「富士通ハードウェア修理相談センター」またはご購入元にご連絡ください。修理は保証期間にかかわらず、有償になります。

- 管理者用パスワードを忘れてしまった
- ハードディスク用マスターパスワードを忘れてしまった

5.3.2　起動デバイスを変更する

本パソコンの起動時にOSを読み込むデバイスの順序は、「起動」メニューの「起動デバイスの優先順位」で設定します。
「起動デバイスの優先順位」に設定されている順にOSを検索します。
変更したデバイスの順序は、再起動後に反映されます。

1 「起動」メニューを選択します。

2 カーソルキーで優先順位を変更したいデバイスを選択します。

3 次のキーを使用して、優先順位を変更します。

【+】キー	選択したデバイスを1つ上に移動します。
【−】キー	選択したデバイスを1つ下に移動します。
【Shift】＋【1】キー	選択したデバイスを有効または無効に設定します。

4 「起動デバイスの優先順位」が希望する順番になるまで、手順2～3を繰り返します。

5 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
「5.2.4 BIOSセットアップを終了する」（→P.112）

5.3.3　セキュリティチップの設定を変更する

■ セキュリティチップを有効／無効にする

1. 「セキュリティ」メニューを選択します。
2. 「TPM（セキュリティチップ）設定」を選択し、【Enter】キーを押します。
3. 「セキュリティチップ」を選択し、【Enter】キーを押します。
4. 「使用する」または「使用しない」を選択し、【Enter】キーを押します。
5. 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
「5.2.4 BIOSセットアップを終了する」（→P.112）

POINT

- セキュリティチップの設定変更は、再起動後に反映されます。

■ セキュリティチップをクリアする

重 要

- セキュリティチップをクリアすると、セキュリティチップで保護されたデータなどは利用できなくなります。
  セキュリティチップをクリアする前に保護を解除してください。

1. 「セキュリティ」メニューを選択します。
2. 「TPM（セキュリティチップ）設定」を選択し、【Enter】キーを押します。
3. 「セキュリティチップのクリア」を選択し、【Enter】キーを押します。
確認画面が表示されます。
4. 「はい」を選択し、【Enter】キーを押します。
5. 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
「5.2.4 BIOSセットアップを終了する」（→P.112）

POINT

- セキュリティチップのクリアは、再起動後に反映されます。

■ ソフトウェアからの変更を反映する

Windows上のソフトウェアを使ってセキュリティチップの状態を変更する場合、本パソコンの再起動後に、変更が有効になっていることがあります。
再起動を要求するメッセージが表示されたら、次の手順に従って操作してください。

1. **本パソコンの電源を入れるまたは再起動します。**
   起動時の自己診断が実行された後、TPM設定変更の確認画面が表示されます。
2. **【Y】キーを押します。**
   セキュリティチップの状態が変更されます。

5.3.4　パスワードの代わりに指紋認証を使う

対 象　指紋センサー搭載機種

パスワードを入力する代わりに、指紋センサーを使用して本パソコンの起動時の認証を行うことができます。次の手順で設定を変更してください。

1. **管理者用パスワードとユーザー用パスワードを設定します。**
   「BIOSのパスワード機能を使う」（→P.114）
2. **「起動時のパスワード」を「毎回」に設定します。**
3. **SMARTACCESSで指紋の登録と設定を行います。**
   詳しくは『SMARTACCESSファーストステップガイド』をご覧ください。

POINT

- ハードディスクパスワードの代わりに指紋認証を使用することはできません。

5.3.5　パスワードの代わりに手のひら静脈認証を使う

対 象　手のひら静脈センサー搭載機種

手のひら静脈センサー搭載機種の場合、パスワードを入力する代わりに、手のひら静脈センサーを使用して本パソコンの起動時の認証を行うことができます。次の手順で設定を変更してください。

1. 管理者用パスワードとユーザー用パスワードを設定します。
「5.3.1 BIOSのパスワード機能を使う」（→P.114）
2. 「起動時のパスワード」を「毎回」に設定します。
3. SMARTACCESSで手のひら静脈の登録と設定を行います。
詳しくは『SMARTACCESSファーストステップガイド』をご覧ください。

POINT

- ハードディスクパスワードの代わりに手のひら静脈認証を使用することはできません。

5.3.6 Wakeup on LANを有効にする

WoL機能とは、他のコンピューターから有線LAN経由で本パソコンを起動・レジュームする機能です。WoL機能には、電源オフ状態から起動する機能と、省電力状態からレジュームする機能があります。ここでは、電源オフ状態から起動するための設定について説明します。
電源を切る方法については、「2.7.2 電源を切る」（→P.48）をご覧ください。
省電力状態からレジュームする機能については、「■ WoL機能によるレジュームの設定を変更する」（→P.47）をご覧ください。

1. 「詳細」メニューを選択します。
2. 「各種設定」を選択し、【Enter】キーを押します。
3. 「LANによるウェイクアップ」を選択し、【Enter】キーを押します。
4. 「使用する」を選択し、【Enter】キーを押します。
5. 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
   「5.2.4 BIOSセットアップを終了する」（→P.112）
   Windowsが起動します。続けて次の操作を行います。
6. コントロールパネルの「電源オプション」を開きます。
   「ハードウェアとサウンド」→「電源オプション」
7. ウィンドウ左の「スリープ解除のパスワード保護」、または「電源ボタンの動作を選択する」をクリックします。
8. 「現在利用可能ではない設定を変更します」をクリックします。
9. 「シャットダウン設定」の「高速スタートアップを有効にする（推奨）」のチェックを外します。
10. 「変更の保存」をクリックします。

5.3.7 イベントログを確認する

1. 「詳細」メニューを選択します。
2. 「イベントログ設定」を選択し、【Enter】キーを押します。
3. 「イベントログの表示」を選択し、【Enter】キーを押します。
   記録されているイベントログが表示されます。

イベントログに記録されるメッセージについては、「7.2.5 エラーメッセージ一覧」（→P.155）の「■BIOSイベントログに記録されるエラーメッセージ」をご覧ください。

5.3.8　イベントログを消去する

1 「詳細」メニューを選択します。

2 「イベントログ設定」を選択し、【Enter】キーを押します。

3 「イベントログの消去」を選択し、【Enter】キーを押します。

4 「はい」を選択し、【Enter】キーを押します。

5 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
「5.2.4 BIOSセットアップを終了する」（→P.112）

5.3.9　ご購入時の設定に戻す

1 「終了」メニューを選択します。

2 「標準設定値を読み込む」を選択し、【Enter】キーを押します。
確認メッセージが表示されます。

3 「はい」を選択して【Enter】キーを押します。
次の項目を除くすべての設定が、ご購入時の設定値に戻ります。

- 「標準設定値を読み込む」で変更されない項目
  - ・日時の設定
  - ・言語設定
  - ・互換性サポートモジュール
  - ・管理者用パスワード
  - ・ユーザー用パスワード
  - ・ハードディスクパスワード
  - ・セキュアブート機能
  - ・所有者情報設定
  - ・Intel(R) ME設定のクリア

4 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
「5.2.4 BIOSセットアップを終了する」（→P.112）

5.4 ME BIOS Extension

お使いのパソコンにインテル® Core™ i5 プロセッサーが搭載されている場合は、インテル® AMT機能などを提供するIntel® ME（Management Engine）BIOS Extensionが搭載されています。ここでは、ME BIOS Extensionの設定を行うMEセットアップについて説明します。

MEセットアップは、本パソコンにおいて動作確認済みの管理ソフトウェア（別売の「Systemwalker」など）を搭載している場合のみ、管理ソフトウェアのマニュアルに従って設定してください。AMT機能などをお使いにならない場合は、初期パスワードのみ変更してください。本パソコンご購入時のパスワードのままでいると、第三者にAMT機能などを使用されるおそれがあります。

重 要

- BIOSセットアップの「詳細」メニューの「互換性サポートモジュール」を「使用する」に設定している場合、【Ctrl】＋【Alt】＋【F1】キーを押したまま本パソコンの電源を入れると、Remote Assistanceをご利用になることができます。
  Windowsが起動してしまった場合は、本パソコンの電源を完全に切ってからもう一度操作してください。電源の切り方は、「2.7.2 電源を切る」（→P.48）をご覧ください。
  通常は、本機能をお使いになれませんので操作しないでください。
  なお、本機能をご利用になる場合は、管理者の指示に従ってください。
- 修理などによりメインボードを交換された場合は、パスワードを含むMEセットアップの設定値が出荷時の状態に戻る場合があります。その場合は、MEセットアップを設定し直してください。

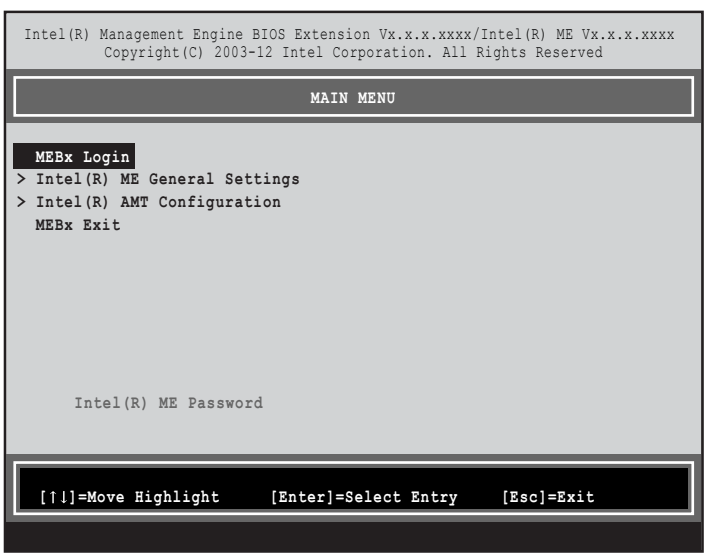
5.4.1　初期パスワードを変更する

重 要

- パスワードは、必ず変更してください。ご購入時のパスワードのままでいると、第三者にAMT機能などを使用されるおそれがあります。
- 変更したパスワードを忘れるとMEセットアップの設定が変更できなくなります。その場合、BIOSセットアップの「詳細」メニューの「Intel(R) Management Engine設定」の「Intel(R) ME 設定のクリア」でご購入時の状態に戻してから、パスワードを設定し直してください。

1 起動メニューで「Intel(R) MEセットアップ」を選択し、【Enter】キーを押します。

起動メニューについては、「5.2.5 起動メニューを使用する」(→P.113)をご覧ください。
MEセットアップログイン画面が表示されます。



POINT

- BIOSセットアップの「詳細」メニューの「互換性サポートモジュール」を「使用する」に設定している場合、【Ctrl】+【P】キーを押したまま本パソコンの電源を入れると、「Intel(R) Management Engine BIOS Extensionメニュー」に入ることもできます。Windowsが起動してしまった場合は、本パソコンの電源を完全に切ってからもう一度操作してください。電源の切り方は、「2.7.2 電源を切る」（→P.48）をご覧ください。
- BIOSセットアップの「詳細」メニューの「Intel(R) Management Engine設定」の「Intel(R) MEセットアップ」の「Enter」を押すことにより、次回起動時Intel(R) Management Engine BIOS Extensionメニューに入ることもできます。BIOSセットアップについては、「5.2.1 BIOSセットアップを起動する」（→P.111）をご覧ください。

2 「MEBx Login」を選択し、【Enter】キーを押します。

パスワード入力画面が表示されます。

3 「admin」と入力し、【Enter】キーを押します。
出荷時のパスワードは「admin」に設定されています。

POINT

- 「Invalid Password - Try Again」と表示された場合、入力したパスワードが間違っています。【Enter】キーを押してメッセージを消去し、Caps Lockがオフになっていることを確認して、手順2からやり直してください。
- パスワードを3回間違えると「Max password attempts exceeded, system will reboot」と表示され、【Enter】キーを押すと本パソコンが再起動します。手順1からやり直してください。

4 「Intel(R) ME New Password」と表示されたら、新しいパスワードを入力し、【Enter】キーを押します。
パスワードは、次の条件をすべて満たすもので設定してください。
・8文字以上32文字以下
・1文字以上の数字を含む
・1文字以上の特殊文字（例：@、$、&）を含む
・1文字以上の小文字のアルファベットを含む
・1文字以上の大文字のアルファベットを含む

POINT

- MEセットアップでは、次のような特殊文字をキーボードの刻印どおりに入力することはできません。
  ・次の文字を入力する場合は、対応するキーを単独で押してください。

入力する文字	=	[	]	'	＼
対応するキー	^	@	[	:	]

  ・次の文字を入力する場合は、【Shift】キーを押しながら対応するキーを押してください。

入力する文字	@	^	&	*	(	)	_	+	{	}	:	"	|
対応するキー	2	6	7	8	9	0	-	^	@	[	;	:	]

- 「:」「,」「"」は使用できません。また、「_」および「 」（スペース）は使用できますが特殊文字の条件を満たしません。

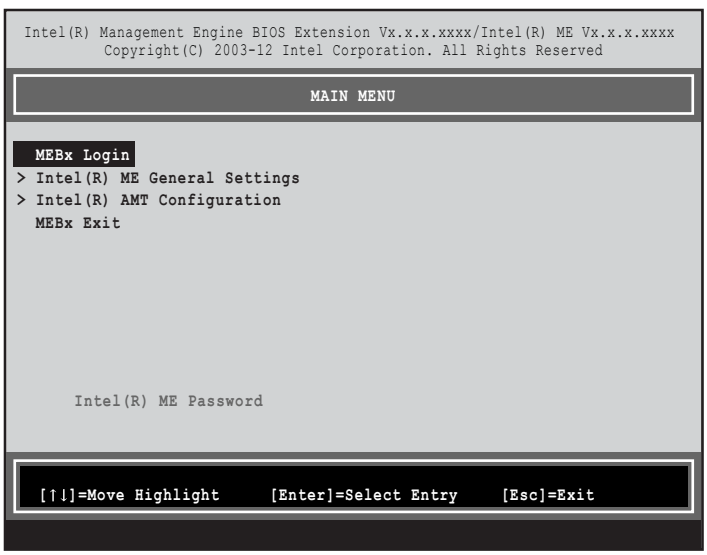
5 「Verify password」と表示されたら、手順4で入力したパスワードを再度入力し、【Enter】キーを押します。

POINT

- 「Error applying new password」と表示された場合、新しいパスワードが手順4の条件を満たしていません。文字数と使用している文字を確認して、手順2からやり直してください。
- 「Password Mismatch - Abort Change」と表示された場合、手順4と手順5で入力したパスワードが一致していません。【Enter】キーを押してエラーメッセージを消去し、Caps Lockがオフになっていることを確認して、手順2からやり直してください。

5.4.2 MEセットアップを起動する

1 起動メニューで「Intel(R) MEセットアップ」を選択し、【Enter】キーを押します。
起動メニューについては、「5.2.5 起動メニューを使用する」(→P.113)をご覧ください。
MEセットアップログイン画面が表示されます。

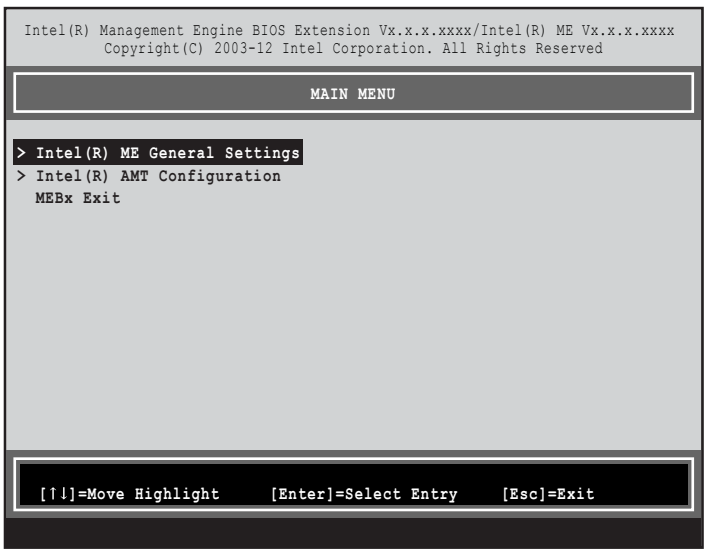


POINT

- BIOSセットアップの「詳細」メニューの「互換性サポートモジュール」を「使用する」に設定している場合、【Ctrl】+【P】キーを押したまま本パソコンの電源を入れると、「Intel(R) Management Engine BIOS Extensionメニュー」に入ることもできます。Windowsが起動してしまった場合は、本パソコンの電源を完全に切ってからもう一度操作してください。電源の切り方は、「2.7.2 電源を切る」(→P.48)をご覧ください。
- BIOSセットアップの「詳細」メニューの「Intel(R) Management Engine設定」の「Intel(R) MEセットアップ」の「Enter」を押すことにより、次回起動時Intel(R) Management Engine BIOS Extensionメニューに入ることもできます。BIOSセットアップについては、「5.2.1 BIOSセットアップを起動する」(→P.111)をご覧ください。

2 「MEBx Login」を選択し、【Enter】キーを押します。
パスワード入力画面が表示されます。

3 パスワードを入力し、【Enter】キーを押します。
MEセットアップ画面が表示されます。



重 要

- MEセットアップを初めて起動したときは、パスワードの変更画面が表示されます。ご購入時のパスワードを変更しないと、MEセットアップは利用できません。パスワードの変更については、「5.4.1 初期パスワードを変更する」（→P.124）をご覧ください。

4 画面上部のメニューからME BIOS Extensionの設定を行います。

5.4.3 MEセットアップを終了する

1 「MAIN MENU」を表示します。
「MAIN MENU」が表示されるまで【Esc】キーを押してください。

2 カーソルキーで「MEBx Exit」を選択し、【Enter】キーを押します。

3 「Are you sure you want to exit? (Y/N)」と表示されたら、【Y】キーを押します。
MEセットアップが終了し、OSが起動します。

5.4.4 メニュー詳細

ここでは、MEセットアップの主なメニュー項目について説明します。

■「Intel(R) ME General Settings」 メニュー

設定項目	備考
Change ME Password[注]	MEセットアップのパスワードを変更します。 パスワード入力画面でパスワードを入力後、「5.4.1 初期パスワードを変更する」（→P.124）の手順4以降をご覧になり、パスワードを変更してください。

注 ： パスワードは定期的に変更するなど、第三者に漏れないように充分に注意して管理してください。

■「Intel(R) AMT Configuration」 メニュー

設定項目		備考
Manageability Feature Selection		本機能を使用しない場合は「Disabled」に設定します。
Network Setup		MEのネットワーク設定を変更します。お客様の環境にあわせて設定してください。
Activate Network Access [注1]		ネットワークアクセスを有効にし、MEのネットワークインターフェースを使用可能にします。
Unconfigure Network Access		
	Full Unprovision	ネットワークアクセスを無効にし、すべてのネットワーク設定をご購入時の状態に戻します。
	Partial Unprovision	・ネットワーク設定を残したまま、ネットワークアクセスを無効にします。 ・ネットワークアクセスが有効になっている場合のみ表示されます。
Power Control[注2]		
	Intel(R) AMT ON in Host Sleep States □Mobile: ON in S0 ■Mobile: ON in S0, ME Wake in S3, S4-5 (AC only)	省電力状態（スリープ、休止状態）や電源オフ状態におけるAMT機能の有効／無効を設定します。 ・Mobile: ON in S0 本パソコンが動作状態のときにのみAMT機能が有効になります。 ・Mobile: ON in S0, ME Wake in S3, S4-5（AC only） 本パソコンが動作状態、ACアダプタ接続時の省電力状態および電源オフの状態のときにAMT機能が有効になります。
	Idle Timeout [注3]	「Intel(R) AMT ON in Host Sleep States」が「Mobile: ON in S0, ME Wake in S3, S4-5（AC only）」のとき、本パソコンが省電力状態または電源オフに移行してからMEへのアクセスがない場合、MEが待機状態になるまでの時間を分単位で設定します。

注1：・「Activate Network Access」を実行しない場合、「Network Setup」で設定した内容は有効になりません。
・「Activate Network Access」を実行した後は、本メニューは表示されなくなります。
注2：「Activate Network Access」を実行した後、本メニュー設定は有効になります。
注3： 本設定を変更すると一部の管理ソフトウェアで正常に動作しなくなる場合があります。管理ソフトウェアにて動作が確認できている場合のみ、管理ソフトウェアのマニュアルに従って設定してください。

6

第6章

お手入れ

快適にお使いいただくためのお手入れ方法を説明しています。

6.1 日常のお手入れ 130

6.1　日常のお手入れ

パソコン本体や周辺機器を長時間使用していると、汚れが付いたり、ほこりがたまったりします。ここでは、日常のお手入れのしかたを説明しています。

6.1.1　パソコン本体、キーボード、マウス、ポートリプリケータの表面の汚れ

乾いた柔らかい布で拭き取ってください。
汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。

重 要

- 拭き取るときは、内部に水が入らないよう充分に注意してください。
- シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは使わないでください。損傷する原因となります。

■ キーの間のほこり

キーボードのキーの間のほこりは、柔らかいブラシなどを使って取り除いてください。

重 要

- ゴミは吹き飛ばして取らないでください。キーボード内部にゴミが入り、故障の原因となります。
- 掃除機などを使って、キーを強い力で引っ張らないでください。
- 毛先が抜けやすいブラシは使用しないでください。キーボード内部にブラシの毛などの異物が入り、故障の原因となります。

6.1.2　手のひら静脈センサー

対 象　手のひら静脈センサー搭載機種

手のひら静脈センサーにほこりや汚れが付いたりすると、手のひら静脈認証の精度が低下する可能性があります。手のひら静脈センサーのほこりや汚れは、次の方法で取り除いてください。

- ほこりは乾いた柔らかい布で軽く払います。
- 汚れは乾いた柔らかい布で軽く拭き取ります。

重 要

- 水を使用しないでください。損傷する原因となります。
- シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。損傷する原因となります。

6.1.3　液晶ディスプレイ

つめや指輪などで傷を付けないように注意しながら、乾いた柔らかい布かメガネ拭きを使って軽く拭き取ってください。水や中性洗剤を使用して拭かないでください。

重 要

- 液晶ディスプレイの表面を固いものでこすったり、強く押しつけたりしないでください。液晶ディスプレイが破損するおそれがあります。
- 液晶ディスプレイの背面を手で支えてください。パソコン本体が倒れるおそれがあります。
- 化学ぞうきんや市販のクリーナーを使うと、成分によっては、画面表面のコーティングを傷めるおそれがあります。次のものは使わないでください。
  - ・アルカリ性成分を含んだもの
  - ・界面活性剤を含んだもの
  - ・アルコール成分を含んだもの
  - ・シンナーやベンジンなどの揮発性の強いもの
  - ・研磨剤を含むもの

7

第7章
トラブルシューティング

おかしいなと思ったときや、わからないことがあったときの対処方法について説明しています。

7.1 トラブル発生時の基本操作 133
7.2 よくあるトラブルと解決方法 137
7.3 それでも解決できないときは 158

7.1　トラブル発生時の基本操作

トラブルを解決するにはいくつかのポイントがあります。トラブル発生時に対応していただきたい順番に記載しています。

7.1.1　状況を確認する

トラブルが発生したときは、直前に行った操作や現在のパソコンの状況を確認しましょう。

■ メッセージなどが表示されたら控えておく

画面上にメッセージなどが表示されたら、メモ帳などに控えておいてください。マニュアルで該当するトラブルを検索する場合や、お問い合わせのときに役立ちます。

■ パソコンや周辺機器の電源を確認する

電源が入らない、画面に何も表示されない、ネットワークに接続できない、などのトラブルが発生したら、まずパソコンや周辺機器の電源が入っているか確認してください。

- 電源ケーブルや周辺機器との接続ケーブルは正しいコネクタに接続されていますか？また緩んだりしていませんか？
- 電源コンセント自体に問題はありませんか？
  他の電器製品を接続して動作するか確認してください。
- OAタップを使用している場合、OAタップ自体に問題はありませんか？
  他の電器製品を接続して動作するか確認してください。
- 使用する装置の電源はすべて入っていますか？
  ネットワーク接続ができなくなった場合は、ネットワークを構成する機器（サーバー本体やハブなど）の接続や電源も確認してください。
- ポートリプリケータに周辺機器を接続している場合、ACアダプタをポートリプリケータに接続していますか？
- キーボードの上にものを載せていませんか？
  キーが押され、パソコンが正常に動作しないことがあります。

この他、「7.2.2 起動・終了時のトラブル」（→P.139）の「電源が入らない」、「画面に何も表示されない」もあわせてご覧ください。

7.1.2　以前の状態に戻す

周辺機器の取り付けやソフトウェアのインストールの直後にトラブルが発生した場合は、いったん以前の状態に戻してください。

- 周辺機器を取り付けた場合は、取り外します。
- ソフトウェアをインストールした場合は、アンインストールします。

その後、製品に添付されているマニュアル、「Readme.txt」などの補足説明書、インターネット上の情報を確認し、取り付けやインストールに関して何か問題がなかったか確認してください。
発生したトラブルに該当する記述があれば、指示に従ってください。

7.1.3　トラブルシューティングで調べる

「7.2 よくあるトラブルと解決方法」（→P.137）は、よくあるトラブルの解決方法が記載されています。発生したトラブルの解決方法がないかご覧ください。

7.1.4　インターネットで調べる

よくあるQA一覧ページ（http://www.fmworld.net/biz/fmv/support/qalist/index.html）では、本パソコンで発生したトラブルの解決方法を提供しています。
また、富士通製品情報ページ（http://www.fmworld.net/biz/fmv/index_support.html）では、本パソコンに関連したサポート情報や更新されたドライバーを提供しております。
注意事項や補足情報も公開していますので、解決方法がないかご覧ください。

7.1.5　診断プログラムを使用する

診断プログラムを使用して、ハードウェアに障害が発生していないか診断してください。
まずBIOSの起動メニューにある診断プログラムで簡単に診断し、異常が発見されなければ続けて「富士通ハードウェア診断ツール」でデバイスを選んで詳しく診断します。
診断後にエラーコードが表示された場合は控えておき、「富士通ハードウェア修理相談センター」にご連絡ください。
診断時間は5～10分程度ですが、診断する内容やパソコンの環境によっては長時間かかる場合があります。

重 要

- 診断プログラムを使用する場合は、完全に電源を切った状態から操作してください。
  電源の切り方は、「2.7.2 電源を切る」（→P.48）をご覧ください。
- BIOSの設定をご購入時の状態に戻してください。
  診断プログラムを使用する前に、必ず、BIOSをご購入時の状態に戻してください。詳しくは、「5.3.9 ご購入時の設定に戻す」（→P.122）をご覧ください。
- 診断プログラムを使用する前に周辺機器を取り外してください。
  USBメモリや外付けハードディスクなど、ハードディスクやリムーバブルディスクと認識される周辺機器は、診断を行う前に取り外してください。

1 【F12】キーを押したまま、本パソコンの電源を入れます。

2 ビープ音が鳴ったら、【F12】キーを離します。

POINT

- BIOSセットアップの「セキュリティ」メニューの「起動メニュー」が「使用しない」の場合は、起動メニューを使用できません。その場合は、「使用する」に設定し直してください。
  BIOSセットアップについては、「5.2.1 BIOSセットアップを起動する」（→P.111）をご覧ください。
- 起動時のパスワードを設定している場合は、パスワードを入力してください。
  指紋または手のひら静脈を登録した場合は、認証を行ってください。
- Windowsが起動してしまった場合は、本パソコンの電源を完全に切ってからもう一度操作してください。電源の切り方は、「2.7.2 電源を切る」（→P.48）をご覧ください。
- 高速起動が有効になっているためUSBキーボードが使えない場合があります。内蔵キーボードを使って操作してください。

3 【Tab】キーを押します。
アプリケーションメニューが表示されます。

4 カーソルキーで「診断プログラム」を選択し、【Enter】キーを押します。
「診断プログラムを実行しますか？」と表示されます。

5 【Y】キーを押します。
ハードウェア診断が始まります。
ハードウェア診断が終了したら、診断結果が表示されます。診断結果が表示される前に、自動的にパソコンが再起動する場合があります。

6 次の操作を行います。

●トラブルが検出されなかった場合
【Enter】キーを押してください。続けて「富士通ハードウェア診断ツール」が起動します。
「富士通ハードウェア診断ツール」ウィンドウと「注意事項」ウィンドウが表示されます。手順7へ進んでください。

●トラブルが検出された場合
手順7以降の「富士通ハードウェア診断ツール」での診断は不要です。画面に表示された内容を控え、お問い合わせのときにお伝えください。その後、【Y】キーを押してパソコンの電源を切ってください。
電源が自動で切れない場合は、電源ボタンを押して電源を切ってください。

7 「注意事項」ウィンドウの内容を確認し、「OK」をクリックします。

8 診断したいアイコンにチェックが付いていることを確認し、「実行」をクリックします。
ハードウェア診断が始まります。

POINT

- 「[ハードウェア名] に［媒体］をセットしてください」などと表示された場合、「リカバリデータディスク」や「リカバリ起動ディスク」など、『リカバリガイド』に従って作成したディスクをセットしてください。音楽CDなどでは診断できない場合があります。
  診断を取りやめる場合は、「スキップ」をクリックしてください。

9 「診断結果」ウィンドウに表示された内容を確認します。
表示された内容に従って操作してください。エラーコードが表示された場合には控えておき、お問い合わせのときにお伝えください。

10 「診断結果」ウィンドウで「閉じる」をクリックします。
「富士通ハードウェア診断ツール」ウィンドウに戻ります。

11 「終了」をクリックします。
「終了」ウィンドウが表示されます。

12 「はい」をクリックします。
電源が切れ、診断プログラムが終了します。

7.1.6　サポートの窓口に相談する

本章をご覧になり、トラブル解決のための対処をした後も回復しない場合には、「7.3 それでも解決できないときは」（→P.158）をご覧になりサポートの窓口に相談してください。

7.2 よくあるトラブルと解決方法

7.2.1　トラブル一覧

■ 起動 ・ 終了時のトラブル

- 「電源が入らない」（→P.139）
- 「メッセージが表示された」（→P.139）
- 「画面に何も表示されない」（→P.140）
- 「Windowsが起動しない」（→P.141）
- 「Windowsが動かなくなってしまい、電源が切れない」（→P.141）

■ Windows ・ ソフトウェア関連のトラブル

- 「Windowsにサインインできない」（→P.142）
- 「ソフトウェアが動かなくなってしまった」（→P.142）
- 「頻繁にフリーズするなど動作が不安定になる」（→P.142）
- 「「デバイスマネージャー」に「不明なデバイス」がある」（→P.143）

■ ハードウェア関連のトラブル

□BIOS

- 「BIOSで設定したパスワードを忘れてしまった」（→P.143）

□メモリ

- 「仮想メモリが足りない」（→P.144）

□LAN

- 「ネットワークに接続できない」（→P.145）
- 「通信速度が遅い」（→P.145）
- 「持ち運ぶと、接続が切断されたり不安定になったりする」（→P.146）

□Bluetoothワイヤレステクノロジー

- 「Bluetoothのキーボードやマウスの接続が切れやすい」（→P.146）

□デバイス

- 「機器が使用できない」（→P.147）

□CD/DVD

- 「ディスクからデータの読み出しができない」（→P.147）
- 「ディスクが取り出せない」（→P.147）
- 「WinDVDが起動しない」（→P.148）
- 「ディスクが再生されない、ディスクの再生が円滑に行われない」（→P.148）

□FeliCa （NFCポート搭載機種）

- 「FeliCaが反応しない」（→P.148）

□スマートカード （スマートカードスロット搭載機種）

- 「スマートカードが使えない」（→P.148）

□バッテリ

- 「状態表示LEDのバッテリ残量ランプが赤色に短い間隔で点滅している」（→P.149）
- 「バッテリが充電されない」（→P.149）

□ディスプレイ

- 「画面に何も表示されない」（→P.149）
- 「表示が乱れる」（→P.150）
- 「画面がくもる、水滴が付く」（→P.150）

□サウンド

- 「スピーカーから音が出ない、音が小さい、または音が割れる」（→P.150）
- 「マイクからうまく録音ができない」（→P.151）

□ポインティングデバイス

- 「マウスポインターが動かない、正しく動作しない」（→P.151）
- 「入力中にカーソルが勝手に移動する」（→P.152）
- 「タッチが使えない」（→P.152）
- 「タッチパネルのポインター位置がずれる」（→P.152）

□USB

- 「USBデバイスが使えない」（→P.152）
- 「USBデバイスが使えず、「デバイスマネージャー」で確認すると「!」が表示される」（→P.153）
- 「電源オフUSB充電機能が使えない」（→P.153）

□その他

- 「「ジー」「キーン」という音がする」（→P.154）

7.2.2　起動・終了時のトラブル

電源が入らない

- **ACアダプタは接続されていますか？**
  次のような場合には、ACアダプタを接続してください。
  ・ご購入後最初にお使いになる場合
  ・バッテリ運用時にバッテリが充電されていない場合
  「2.8.3 バッテリの残量を確認する」（→P.55）
  ・長期間未使用状態の場合
  ・ポートリプリケータを取り付けている場合は、パソコン本体ではなくポートリプリケータのコネクタにACアダプタを接続してください。
- **ACアダプタと内蔵バッテリパック、増設用内蔵バッテリユニットをいったん取り外してください。**
  ACアダプタと内蔵バッテリパックをいったん取り外してください。増設用内蔵バッテリユニットが取り付けられている場合は、増設用内蔵バッテリユニットも取り外してください。2～3分放置後、再び取り付けると問題が解決することがあります。
- **電源スイッチのあるOAタップをお使いの場合、OAタップの電源は入っていますか？**

メッセージが表示された

- **電源を入れた後の自己診断（POST）時に、画面にメッセージが表示される場合があります。「7.2.5 エラーメッセージ一覧」（→P.155）の「■ 起動時に表示されるエラーメッセージ」で該当するメッセージを確認し、記載されている処置に従ってください。**
  一部のメッセージはBIOSイベントログに記録され、BIOSセットアップから確認できます。「7.2.5 エラーメッセージ一覧」（→P.155）の「■ BIOSイベントログに記録されるエラーメッセージ」をご覧ください。

上記の処置をしてもまだエラーメッセージが発生する場合は、本パソコンが故障している可能性があります。「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

画面に何も表示されない

- **電源ランプが点灯していますか？**
  - ・点灯している場合
    【Fn】＋【F6】キーまたは【Fn】＋【F7】キーを押して明るさを調節してください。
  - ・点滅または消灯している場合
    電源ボタンを押して動作状態にしてください。それでも、画面が表示されない場合は「電源が入らない」（→P.139）をご覧ください。
- **外部ディスプレイを使用している場合、次の項目を確認してください。**
  - ・パソコン本体の電源を入れる前に、外部ディスプレイの電源を入れていますか？
    必ずパソコン本体の電源を入れる前にディスプレイの電源を入れてください。
    パソコン本体の電源を入れた後にディスプレイの電源を入れると、画面が表示されないことがあります。そのような場合は、いったん電源を切ってから入れ直してください。
  - ・外部ディスプレイ出力に設定されていませんか？
    外部ディスプレイだけに表示する設定になっていると、パソコン本体の液晶ディスプレイには表示されません。
    「2.5 マルチディスプレイ機能」（→P.38）をご覧になり、設定をパソコン本体の液晶ディスプレイ表示に切り替えてください。
  - ・解像度やリフレッシュレートは、外部ディスプレイにあった設定になっていますか？
    そのまま15秒程度待っても本パソコンの液晶ディスプレイが表示されない場合は、本パソコンを強制終了してください。その後、外部ディスプレイのケーブルを外してから電源を入れると、本パソコンの液晶ディスプレイに表示されます。「2.5 マルチディスプレイ機能」（→P.38）をご覧になり、お使いになる外部ディスプレイに合わせた設定値に変更してください。その後、外部ディスプレイの表示に切り替えてください。
  - ・ポートリプリケータのコネクタをお使いの場合、パソコンにポートリプリケータが正しく取り付けられていることを確認してください。また、ポートリプリケータのDC-INコネクタにACアダプタが接続されていることを確認してください。ポートリプリケータを取り付けている場合は、パソコン本体ではなくポートリプリケータのコネクタにディスプレイケーブルを接続してください。

Windowsが起動しない

- Windows 起動時に「スタートアップ修復」ウィンドウが表示された場合は、Windowsが起動するまでそのままお待ちください。
  Windowsを正常に終了できなかった場合、次回起動時に「スタートアップ修復」ウィンドウが表示され、Windowsの修復が行われることがあります。修復後は自動的に再起動されます。
- 次の認証デバイスのドライバーをアンインストールしましたか？
  ・指紋センサー
  ・手のひら静脈センサー
  ・NFCポート
  ・スマートカードスロット
  認証デバイスを使用してWindowsにサインインしている場合、その認証デバイスのドライバーをアンインストールするとWindowsが正常に起動できなくなります。
  認証デバイスのドライバーをアンインストールする場合は、「SMARTACCESS/Basic」をアンインストールした後で行うようにしてください。
  アンインストール方法については、『SMARTACCESSファーストステップガイド』をご覧ください。
  Windowsが正常に起動できなくなった場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」または、ご購入元にご連絡ください。
- OSを変更しましたか？
  OSを変更した場合、BIOSの設定も変更する必要があります。BIOSの設定については、『リカバリガイド』をご覧ください。

Windowsが動かなくなってしまい、電源が切れない

- 次の手順でWindowsを終了させてください。
  1. 【Ctrl】＋【Alt】＋【Delete】キーを押し、画面右下の「シャットダウン」アイコンをクリックします。

  この操作で強制終了できないときは、電源ボタンを4秒以上押して電源を切り、10秒以上待ってから電源を入れてください。

重 要

- 強制終了した場合、プログラムでの作業内容を保存することはできません。
- 強制終了した場合は、フラッシュメモリディスクのチェックをお勧めします。

7.2.3　Windows・ソフトウェア関連のトラブル

ここでは、Windows、ソフトウェアに関連するトラブルを説明しています。トラブルにあわせてご覧ください。

Windowsにサインインできない

- 認証デバイスを忘れたり、紛失したり、破損したりして、Windowsにサインインできないときは、『SMARTACCESSファーストステップガイド』をご覧ください。

ソフトウェアが動かなくなってしまった

- 「タスクマネージャー」から、動かなくなったソフトウェアを強制終了してください。

POINT

- ソフトウェアを強制終了した場合、ソフトウェアでの作業内容を保存することはできません。
- ソフトウェアを強制終了した場合は、フラッシュメモリディスクのチェックをお勧めします。

頻繁にフリーズするなど動作が不安定になる

- 次の項目を確認してください。

・ウイルス対策ソフトウェアでフラッシュメモリディスクをスキャンする
定期的にフラッシュメモリディスクをスキャンすることをお勧めします。

・Cドライブの空き容量が充分か確認する
Windowsのシステムファイルが格納されているCドライブの空き容量が少ないと、Windowsの動作が不安定になることがあります。
Cドライブの空き容量が少ない場合は、空き容量を増やしてください。空き容量を増やすには次の方法があります。
・ごみ箱を空にする
・不要なファイルやソフトウェアを削除する
・ディスクのクリーンアップを行う

・フラッシュメモリディスクのエラーチェックを行う
それでもトラブルが頻繁に発生する場合は、リカバリを実行してください。詳しくは『リカバリガイド』をご覧ください。

「デバイスマネージャー」に「不明なデバイス」がある

- 「FUJ0420 デバイスドライバー」および「FUJ02E3 デバイスドライバー」がインストールされていない可能性があります。
  「デバイスマネージャー」の「システムデバイス」に「Fujitsu FUJ0420 Device」および「Fujitsu FUJ02E3 Device Driver」が表示されているかを確認してください。
  表示されていない場合は、次の手順で「FUJ0420 デバイスドライバー」および「FUJ02E3 デバイスドライバー」をインストールしてください。
  1. 「ドライバーズディスク」をセットします。
     「ドライバーズディスク検索」が起動します。
  2. 「機種名」にお使いの機種を、「OS」にお使いのOSを設定します。
  3. 「種別」に「必須」を設定します。
  4. 「ソフトウェア」から「FUJ0420 デバイスドライバー」および「FUJ02E3 デバイスドライバー」を選択します。
  5. 「インストール」をクリックします。

  詳しくは、「ドライバーズディスク」に格納されている「readme.jp-JP.txt」をご覧ください。

  POINT

  - フラッシュメモリディスクに格納されているデータからドライバーをインストールすることもできます。インストール方法は、「4.2.1 「ドライバーズディスク検索」からのインストール」（→P.104）をご覧ください。

7.2.4　ハードウェア関連のトラブル

■ BIOS

BIOSで設定したパスワードを忘れてしまった

- 管理者用パスワードを忘れると、項目の変更やパスワード解除ができなくなります。
  ハードディスクパスワードを忘れると、フラッシュメモリディスクが使えなくなったり、フラッシュメモリディスクのセキュリティ機能を解除できなくなったりします。
  いずれの場合も修理が必要となります。
  ユーザー用パスワードを忘れた場合は、修理の必要はありません。
  詳しくは、「■ パスワードを忘れてしまったら」（→P.117）をご覧ください。

■ メモリ

仮想メモリが足りない

- 仮想メモリ（ページングファイル）を設定してください。
  仮想メモリの設定を行うには、仮想メモリの「最大サイズ」分の空き容量がフラッシュメモリディスクに必要です。
  ただし、ブートパーティション以外に設定する場合、あるいはページングファイルサイズが小さい場合などは、メモリダンプをファイルに出力できなくなります。ダンプファイルを取得するには、システムドライブに最低でも物理メモリ＋1MB（仮想メモリの容量は含まず）の空き容量が必要です。

  POINT

  - 搭載メモリサイズによっては、推奨サイズを設定できない場合があります。その場合は、ページングファイルを保存するドライブを変更してください。
  - 仮想メモリを小さい値に設定した場合、性能に影響があります。最良のシステム効率を得るには、「初期サイズ」に、「すべてのドライブの総ページング ファイル サイズ」の「推奨」に表示されている数値以上の値を設定してください。システムの搭載メモリ総量の1.5倍の値に設定することをお勧めします。
    ただし、メモリを大量に消費するソフトウェアを定期的に使用する場合は、必要に応じてサイズを大きい値に設定してください。

  仮想メモリのサイズは次の手順で変更します。

  1. コントロールパネルの「システム」を開きます。
     「システムとセキュリティ」→「システム」
  2. ウィンドウ左の「システムの詳細設定」をクリックします。
  3. 「パフォーマンス」の「設定」をクリックします。
  4. 「詳細設定」タブをクリックし、「仮想メモリ」の「変更」をクリックします。
  5. 「すべてのドライブのページングファイルのサイズを自動的に管理する」のチェックを外します。
  6. ページングファイルを保存するドライブを変更する場合は、「ドライブ」で保存するドライブをクリックします。
     システムドライブに充分な空き容量がある場合は、ドライブの変更は必要ありません。
  7. 「カスタムサイズ」をクリックします。
  8. 「初期サイズ」および「最大サイズ」を入力し、「設定」をクリックします。
     「初期サイズ」には「すべてのドライブの総ページングファイルサイズ」に表示されている「推奨」の値より大きい値を設定してください。また、「最大サイズ」には「初期サイズ」に設定した値より大きい値を設定してください。
  9. 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。
  10. 再起動のメッセージが表示された場合は、メッセージに従って本パソコンを再起動します。

■ LAN

ネットワークに接続できない

- **ネットワークケーブルは正しく接続されていますか？**
- **ネットワークケーブルに関して、次の項目を確認してください。**
  ・ケーブルのコネクタやケーブルは損傷していませんか？
  ・使用するネットワーク環境に合ったケーブルを使っていますか？
- **ポートリプリケータをお使いの場合は、次の項目を確認してください。**
  ・パソコンとポートリプリケータが正しく取り付けられていますか？
  ・ポートリプリケータのDC-INコネクタにACアダプタを接続してください。
  ・ポートリプリケータのLANコネクタにLANケーブルを接続してください。
- **「機内モード」が「オフ」、「ワイヤレスデバイス」が「オン」に設定されていますか？**
  「機内モード」が「オン」、または「ワイヤレスデバイス」が「オフ」に設定されていると、電波が発信されません。設定方法については、『無線LANご利用ガイド』または『内蔵無線WANをお使いになる方へ』をご覧ください。

ネットワークの設定については、ネットワーク管理者に確認してください。

通信速度が遅い

- **ネットワーク機器の電源を入れてから本パソコンの電源を入れてください。また、本パソコンの使用中にLANケーブルを抜いたり、ネットワーク機器の電源をオフにしたりしないでください。**
  ネットワーク機器との接続ができなくなったり、通信速度が極端に低下したりする場合があります。
  例：1000Mbpsで通信していたのに10Mbpsの速度になる
  ネットワーク機器との接続ができない場合は、ネットワーク機器の電源が入っていること、およびLANケーブルで本パソコンとネットワーク機器が接続されていることを確認後、パソコン本体を再起動してください。
- **節電機能が働いていませんか？**
  節電機能に対応したLANデバイスを搭載している機種の場合、Windowsの省電力機能によってディスプレイの電源が切れると、通信速度が下がります。
  これにより問題がある場合は、「2.11.1 有線LAN」（→P.68）をご覧になり、この機能を無効に設定してください。
- **ポートリプリケータの接続が不安定になっていませんか？**
  一度取り外して、接続し直してみてください。状況が改善することがあります。

持ち運ぶと、接続が切断されたり不安定になったりする

- 電波状態によってローミング（※）がうまく行われず、通信が切断されたり不安定になったりすることがあります。
（※）同じ設定をもった複数のアクセスポイント間の接続を切り替える仕組み。

  複数の無線LANアクセスポイントを同じSSID設定で使用している場合、パソコンの設置場所によってはローミングが頻繁に行われ接続が不安定になることがあります。
この場合は、次の手順でローミングの設定を変更し、頻度を調整してください。

  1. コントロールパネルの「デバイスマネージャー」を開きます。
「システムとセキュリティ」→「システム」の「デバイスマネージャー」
  2. 「ネットワーク アダプター」をダブルクリックして、次のデバイスをダブルクリックします。
・Intel(R) Dual Band Wireless-AC 8265
  3. 「詳細設定」タブをクリックし、次のプロパティ内の設定を変更します。

プロパティ名	ローミングの積極性	
値 （選択）	最低	ローミングしにくく、現在のアクセスポイントとの接続を維持しようとする
	中	ご購入時の設定
	最高	ローミングしやすく、アクセスポイントの切り替えが発生しやすい

  4. 「OK」をクリックします。

■ Bluetoothワイヤレステクノロジー

Bluetoothのキーボードやマウスの接続が切れやすい

- 次の手順で設定を変更してください。
  1. 「コントロールパネル」の「デバイスマネージャー」を開きます。
「システムとセキュリティ」→「システム」の「デバイスマネージャー」
  2. 「Bluetooth」をダブルクリックし、「インテル(R) ワイヤレス Bluetooth(R)」をダブルクリックします。
  3. 「電源の管理」タブをクリックし、「電力の節約のために、コンピューターでこのデバイスの電源をオフにできるようにする」のチェックを外します。

■ デバイス

Q 機器が使用できない

- **「Portshutter Premium」のポート設定は、有効になっていますか？**
  次の機器を搭載した機種では、情報漏えいや不正プログラムの導入を防ぐために、「Portshutter Premium」を使用して接続ポートを無効に設定している場合があります。システム管理者に確認してください。
  ・USB（WebカメラやNFCポート（FeliCa）など内蔵USBデバイスを含む）
  ・CD/DVD
  ・NFCポート（FeliCa）
  ・SDメモリーカード

■ CD/DVD

Q ディスクからデータの読み出しができない

- **ディスクが正しくセットされていますか？**
  ディスクの表裏を間違えないよう、正しくセットしてください。詳しくは、「2.9.3 ディスクをセットする」（→P.61）をご覧ください。
- **ディスクが汚れていたり、水滴が付いたりしていませんか？**
  汚れたり水滴が付いたりしたときは、少し湿らせた布で中央から外側へ向かって拭いた後、乾いた布で拭き取ってください。
- **ディスクが傷付いていたり、極端に反っていたりしませんか？**
  ディスクを交換してください。
- **規格外のディスクを使用していませんか？**
  規格にあったディスクをお使いください。詳しくは、「2.9.2 使用できるディスク」（→P.59）をご覧ください。

Q ディスクが取り出せない

- **パソコン本体は動作状態になっていますか？**
  本パソコンの光学ドライブは電子ロックのため、パソコン本体が動作状態の場合のみディスクのセット／取り出しが可能です。

なお、なんらかの原因でトレーが出ない場合は、「2.9.4 ディスクを取り出す」（→P.62）をご覧ください。

WinDVDが起動しない

- **市販されているウイルス対策ソフトウェアを起動していませんか？**
  市販されているウイルス対策ソフトウェアと「WinDVD」を同時に起動することはできません。ウイルス対策ソフトウェアを終了してから、「WinDVD」を起動してください。なお、本パソコンに添付の「マカフィー リブセーフ」は問題ありません。
- **自動検索機能付のウイルス対策ソフトウェア（市販）をインストールしていませんか？**
  自動検索機能付のウイルス対策ソフトウェアをインストールしていると、「WinDVD」を起動することはできません。
  ウイルス対策ソフトウェアをアンインストールしてから「WinDVD」を起動してください。なお、本パソコンに添付の「マカフィー リブセーフ」は問題ありません。

ディスクが再生されない、ディスクの再生が円滑に行われない

- **「WinDVD」を使用して、ディスクを再生していますか？**
  「WinDVD」以外のソフトウェアで再生した場合、円滑に再生できないことがあります。

■ FeliCa （NFCポート搭載機種）

FeliCaが反応しない

- NFCポートのドライバーは正しくインストールされていますか？
  「4.2 インストール」（→P.104）をご覧になり、NFCポートのドライバーを再インストールしてください。
- 「Portshutter Premium」のUSB設定は、有効になっていますか？（→P.147）

■ スマートカード （スマートカードスロット搭載機種）

スマートカードが使えない

- スマートカードが正しくセットされていますか？
- 「Portshutter Premium」のUSB設定は、有効になっていますか？（→P.147）

■ バッテリ

Q 状態表示LEDのバッテリ残量ランプが赤色に短い間隔で点滅している

- バッテリは正しく取り付けられていますか？
  バッテリが正しく充電できないことを示します。パソコン本体の電源を切ってからバッテリの取り付けをやり直してください。それでも赤色に点滅している場合はバッテリが異常です。新しいバッテリと交換してください。
  バッテリパックの交換については、「2.8 バッテリ」（→P.53）をご覧ください。
  増設用内蔵バッテリユニットの交換方法については、「2.10 モバイルマルチベイ」（→P.66）をご覧ください。

Q バッテリが充電されない

- ACアダプタは接続されていますか？
  ACアダプタを接続している場合は、コンセントおよびパソコン本体に正しく接続されているか確認してください。
- バッテリが熱くなっていませんか？
  バッテリ充電ランプが点滅します。
  周囲の温度が高いときや使用中にバッテリの温度が上昇すると、バッテリの保護機能が働いて、充電を中止することがあります。
- パソコン本体が冷えていませんか？
  バッテリ充電ランプが点滅します。
  バッテリの温度が5℃以下になっていると、バッテリの保護機能が働いて、充電を中止することがあります。
- バッテリの残量が90%以上（80%充電モードの場合は70%以上）ではありませんか？
  バッテリの残量が90%以上（80%充電モードの場合は70%以上）の場合は、バッテリを保護するため、充電が始まりません。
  バッテリの残量が少なくなると自動的に充電が始まります。

■ ディスプレイ

Q 画面に何も表示されない

- 「7.2.2 起動・終了時のトラブル」（→P.139）の「電源が入らない」、「画面に何も表示されない」をご覧ください。
- 省電力状態になっていませんか？
  本パソコンには省電力機能が設定されており、一定時間入力がないと省電力状態に移行します。
  詳しくは「2.7 省電力」（→P.46）をご覧ください。

表示が乱れる

- 解像度、発色数、リフレッシュレートが正しく設定されていますか？
  「2.4.3 解像度を変更する」（→P.35）をご覧になり、正しく設定してください。
  外部ディスプレイの場合は、外部ディスプレイのマニュアルをご覧ください。
- ソフトウェアを使用中に、アイコンやウィンドウの一部が画面に残ってしまった場合は、次の手順でウィンドウを再表示してください。
  1. ソフトウェアを最小化します。
  2. 最小化したソフトウェアを元のサイズに戻します。

POINT

- 次のような場合に表示が乱れることがありますが、動作上は問題ありません。
  ・Windows起動時および画面の切り替え時
  ・DirectXを使用した一部のソフトウェア使用時

- 近くにテレビなどの強い磁界が発生するものがありませんか？
  強い磁界が発生するものは、ディスプレイやパソコン本体から離して置いてください。
- ドライバーが正しくインストールされていますか？
  「4.2 インストール」（→P.104）をご覧になり、ディスプレイドライバーを再インストールしてください。

画面がくもる、水滴が付く

- 急激な温度・湿度変化で結露が発生することがあります。
  結露が発生した場合は、電源を切り、風通りの良い場所に設置し、結露が乾いた後にお使いください。設置場所については『取扱説明書』をご覧ください。

■ サウンド

スピーカーから音が出ない、音が小さい、または音が割れる

- 内蔵スピーカーに関して、次の項目を確認してください。
  ・スピーカーの出力はONになっていますか？
  スピーカーの出力を確認してください。
  ・マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子にヘッドホン（または他のデバイス）が接続されていませんか？
- 外付けスピーカーに関して、次の項目を確認してください。
  ・パソコン本体と正しく接続されていますか？
  ・スピーカーの電源ケーブルは接続されていますか？
  ・スピーカーの電源ボタンは入っていますか？
  ・音量ボリュームは正しく調節されていますか？
  ・マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子にヘッドホン（または他のデバイス）が接続されていませんか？

- **ミュートや音量などを確認してください。**
  詳しくは、「2.6 サウンド」（→P.40）をご覧ください。
- **音が割れる場合は、音量を小さくしてください。**
- **オーディオ端子の機能が正しく設定されていますか？**
  「2.6.4 オーディオ端子の機能を切り替える」（→P.43）をご覧になり、オーディオ端子の機能を正しく切り替えてください。
- **サウンドドライバーが正しくインストールされていますか？**
  必要に応じて、「4.2 インストール」（→P.104）をご覧になり、再インストールしてください。

Q マイクからうまく録音ができない

- **音量は調節されていますか？**
  音量を設定するウィンドウで録音の項目を有効にし、音量を調節してください。詳しくは、「2.6 サウンド」（→P.40）をご覧ください。
- **オーディオ端子の機能が正しく設定されていますか？**
  「2.6.4 オーディオ端子の機能を切り替える」（→P.43）をご覧になり、オーディオ端子の機能を正しく切り替えてください。

■ ポインティングデバイス

Q マウスポインターが動かない、正しく動作しない

□フラットポイント

- **フラットポイントが無効に設定されていませんか？**
  ご購入時はマウスを接続するとフラットポイントが無効になるように設定されています。
  フラットポイントの有効と無効を切り替えるには、【Fn】＋【F4】キーを押してください。
  【Fn】＋【F4】キーを押すたびに切り替わります。
  また、マウスとフラットポイントを同時に使用したい場合は、「2.1.5 マウスとフラットポイントを同時に使用する」（→P.28）をご覧になり、設定を変更してください。
- **手のひらや袖口がフラットポイントに触れていませんか？**
  フラットポイントから手のひらや袖口を充分に離してください。
  それでも正しく動作しない場合は、フラットポイントの設定を変更することで改善することがあります。フラットポイントの設定方法については「2.1.4 フラットポイントの設定を変更する」（→P.27）をご覧ください。

□マウス

- **マウスは正しく接続されていますか？**
  ・電源を切らずにマウスのUSBコネクタを一度抜き、接続し直してください。
- **オプティカルセンサー部分が汚れていませんか？**
  ・オプティカルセンサー部分をクリーニングしてください。

- 次のようなものの上で操作していませんか？
  ・鏡やガラスなど反射しやすいもの
  ・光沢のあるもの
  ・濃淡のはっきりしたしま模様や柄のもの（木目調など）
  ・網点の印刷物など、同じパターンが連続しているもの

Q 入力中にカーソルが勝手に移動する

- 手のひらや袖口がフラットポイントに触れていませんか？
  フラットポイントから手のひらや袖口を充分に離してください。
  それでも正しく動作しない場合は、フラットポイントの設定を変更することで改善することがあります。フラットポイントの設定方法については「2.1.4 フラットポイントの設定を変更する」（→P.27）をご覧ください。

Q タッチが使えない

- 大きな電力を必要とする機器の近くなど電源ノイズの多い場所でお使いになる場合や、タコ足配線をしている場合など、お使いになる環境によっては操作が正しく認識されないことがあります。バッテリでの運用、または、その場を離れて操作してください。

Q タッチパネルのポインター位置がずれる

- タッチパネルを調整してください。調整方法については「2.3.4 キャリブレーション」（→P.33）をご覧ください。

■ USB

Q USBデバイスが使えない

- ケーブルは正しく接続されていますか？
- ポートリプリケータのコネクタをお使いの場合、パソコンにポートリプリケータが正しく取り付けられていますか？
  また、ポートリプリケータのDC-INコネクタにACアダプタが接続されていますか？
- USBデバイスがUSBハブを経由して接続されていませんか？
  USBハブを経由すると問題が発生する場合があります。USBデバイスを本体のUSBコネクタに直接接続してみてください。
- USBデバイスに不具合はありませんか？
  USBデバイスに不具合がある場合、Windowsが正常に動作しなくなることがあります。パソコンを再起動して、USBデバイスを接続し直してみてください。それでも正常に動作しない場合は、USBデバイスのご購入元にご連絡ください。
- 「Portshutter Premium」のUSB設定は、有効になっていますか？（→P.147）

- USB3.0コネクタにUSB3.0に対応していないUSBデバイスを接続していませんか？
  USB3.0コネクタにはUSB3.0に対応したUSBデバイスの接続をお勧めします。

USBデバイスが使えず、「デバイスマネージャー」で確認すると「!」が表示される

- デバイスドライバーに問題はありませんか？インストールされていますか？
  必要なドライバーをインストールしてください。
- 「Portshutter Premium」のUSB設定は、有効になっていますか？（→P.147）

電源オフUSB充電機能が使えない

- 「電源オフUSB充電ユーティリティ」で「「電源オフUSB充電」を使用しない」を選択していませんか？
  「電源オフUSB充電ユーティリティ」で電源オフUSB充電機能の設定をします。設定方法については、「2.16 電源オフUSB充電機能」（→P.81）をご覧ください。
- ACアダプタを接続していますか？
  「電源オフUSB充電ユーティリティ」で「「電源オフUSB充電」を使用する（ACアダプター運用時のみ）」を選択していて、ACアダプタを接続していない場合は電源オフUSB充電機能が使えません。
  ACアダプタを接続するか、「電源オフUSB充電ユーティリティ」で「「電源オフUSB充電」を使用する（ACアダプターもしくはバッテリ運用時）」を選択してください。
- バッテリ残量が12%以下になっていませんか？
  バッテリ残量ランプでバッテリの残量を確認し、バッテリ残量が12%以下の場合は、ACアダプタを接続してください。
  バッテリ残量の確認方法については、「2.8.3 バッテリの残量を確認する」（→P.55）をご覧ください。
- 電源ボタンを4秒以上押して（電源スイッチの場合は4秒以上スライドさせて）、本パソコンの電源を切りましたか？
  電源ボタンを4秒以上押して（電源スイッチの場合は4秒以上スライドさせて）電源を切った場合、電源オフUSB充電は動作しません。いったん本パソコンを起動してください。
- 周辺機器によっては、電源オフUSB充電を使用できない場合があります。USBデバイスのご購入元にご連絡ください。

■ その他

「ジー」「キーン」という音がする

- **静かな場所では、「ジー」「キーン」というパソコン本体内部の電子回路の動作音が聞こえる場合があります。**
  故障ではありませんので、そのままお使いください。
  BIOSセットアップの「詳細」メニューの「各種設定」に「ハードウェア省電力機能」が表示されている機種の場合、「ハードウェア省電力機能」配下にある項目の設定を変更すると、音の聞こえ方が変わる場合があります。

7.2.5　エラーメッセージ一覧

ここでは、本パソコンが表示するメッセージと、その対処方法を説明しています。
エラーメッセージ一覧には、お使いのパソコンに搭載されているハードウェアによっては、表示されないメッセージも含まれています。
本書に記載されていないエラーメッセージが表示された場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

■ 起動時に表示されるエラーメッセージ

起動時の自己診断（POST）で異常がみつかった場合に表示されるメッセージは、次のとおりです。
BIOSセットアップメニューについては、『BIOSセットアップメニュー 一覧』をご覧ください。

メッセージ	解説
記号	
＜F1＞キーを押すと継続、＜F2＞キーを押すとBIOSセットアップを起動します。	起動時の自己診断テストでエラーが発生したとき、OSを起動する前に本メッセージが表示されます。【F1】キーを押すと発生しているエラーを無視してOSの起動を開始し、【F2】キーを押すとBIOSセットアップを起動して設定を変更できます。
I	
Invalid system disk Replace the disk, and then press any key	フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。 フロッピーディスクを取り出して、何かキーを押してください。
N	
Non-System disk or disk error Replace and press any key when ready	フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。 フロッピーディスクを取り出して、何かキーを押してください。
NTLDR is missing Press any key to restart	フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。 フロッピーディスクを取り出して、何かキーを押してください。
NVRAMデータが正しくありません。	NVRAMデータのテストでエラーが発見されたことを示しています。 「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
P	
PXE-T01:File not found	Preboot Execution Environment実行時のエラーです。ブートサーバー上のブートイメージファイルが取得できませんでした。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「詳細」メニューの「起動設定」→「ネットワークサーバーからの起動」を、「使用しない」に設定してください。
PXE-E32:TFTP open timeout	Preboot Execution Environment実行時のエラーです。ネットワークブートに失敗しました。 ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「詳細」メニューの「起動設定」→「ネットワークサーバーからの起動」を、「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
PXE-E51: No DHCP or proxyDHCP offers were received	Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバーがクライアントから認識されていない場合に発生するエラーです。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「詳細」メニューの「起動設定」→「ネットワークサーバーからの起動」を、「使用しない」に設定してください。
PXE-E53:No boot filename received	Preboot Execution Environment実行時のエラーです。ブートサーバーがクライアントから認識されていない場合に発生するエラーです。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「詳細」メニューの「起動設定」→「ネットワークサーバーからの起動」を、「使用しない」に設定してください。

メッセージ	解説
PXE-E61:Media test failure, Check cable	Preboot Execution Environment実行時のエラーです。LANケーブルが正しく接続されていません。LANケーブルを正しく接続してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
PXE-E78:Could not locate boot server	Preboot Execution Environment実行時のエラーです。ブートサーバーがないか、正しく動作していません。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「詳細」メニューの「起動設定」→「ネットワークサーバーからの起動」を、「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
PXE-E89:Could not download boot image	Preboot Execution Environment実行時のエラーです。ブートサーバー上のブートイメージファイルが取得できませんでした。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「詳細」メニューの「起動設定」→「ネットワークサーバーからの起動」を、「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
R	
Remove disks or other media. Press any key to restart	フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。 フロッピーディスクを取り出して、何かキーを押してください。
か	
起動可能なデバイスが見つかりませんでした。	OSがみつからなかった場合に表示されます。 BIOSセットアップでドライブが正しく設定されているか確認してください。また、セキュアブートに対応していないOSから起動する場合は、BIOSセットアップの「セキュリティ」メニューの「セキュアブート設定 」→「セキュアブート機能」を「使用しない」、「詳細」メニューの「起動設定」→「互換性サポートモジュール」を「使用する」に変更してください。
さ	
システムは使用できません。	スマートカードに登録されているBIOSロック用パスワードが、BIOSセットアップで設定した管理者用パスワードおよびユーザー用パスワードのどちらとも一致しない場合に表示されます。この場合、パソコン本体の電源を切ってください。
セキュアブートに失敗しました。 **アクセス拒否**	セキュアブートに対応していないOSから起動しようとしたときに表示されます。 セキュアブートに対応していないOSから起動する場合は、BIOSセットアップの「セキュリティ」メニューの「セキュアブート設定」→「セキュアブート機能」を「使用しない」、「詳細」メニューの「起動設定」→「互換性サポートモジュール」を「使用する」に変更してください。
前回の起動中にファンエラーが発生しました。	前回の起動時にファンエラーが発生したことを示しています。 「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
選択したデバイスから起動できませんでした。	起動メニューで選択された起動デバイスから、起動できなかった場合に表示されます。 起動デバイスが正しく接続されているか確認してください。また、セキュアブートに対応していないOSから起動する場合は、BIOSセットアップの「セキュリティ」メニューの「セキュアブート設定」→「セキュアブート機能」を「使用しない」、「詳細」メニューの「起動設定」→「互換性サポートモジュール」を「使用する」に変更してください。
は	
ファンエラー。システムの電源が切れます。	冷却用ファンのテストでエラーが発生したことを示しています。 「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
ら	
リアルタイムクロックのエラーです。日付と時刻の設定を確認してください。	リアルタイムクロックのテストで、エラーが発生したことを示しています。 日付と時刻を確認し、電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

■ BIOSイベントログに記録されるエラーメッセージ

起動時の自己診断（POST）で、一部のエラーはBIOSイベントログに記録されます。
BIOSイベントログは、BIOSセットアップの「詳細」メニューの「イベントログ設定」の「イベントログの表示」から確認できます。
BIOSセットアップメニューについては、『BIOSセットアップメニュー 一覧』をご覧ください。
BIOSイベントログに記録されるエラーメッセージは、次のとおりです。

メッセージ	解説
A	
ACアダプタ無しで起動されました	ACアダプタなしで起動されました。
P	
POSTエラー：CMOSチェックサム不正	CMOSのチェックサムに間違いが検出されました。BIOSセットアップの各設定を確認し、正しい値に設定し直してください。 なお繰り返しこのエラーが記録される場合は、内蔵リチウム電池の交換が必要です。「富士通ハードウェア修理相談センター」までご連絡ください。
POSTエラー：NVRAMを復旧した	フラッシュメモリのデータが破損し、バックアップデータにより復旧しました。 なお繰り返しこのエラーが記録される場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」までご連絡ください。
POSTエラー：NVRAMを復旧した（ヘッダー情報）	フラッシュメモリのデータが破損し、バックアップデータにより復旧しました。 なお繰り返しこのエラーが記録される場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」までご連絡ください。
POSTエラー：nnnnnnnn nnnnnnnn	nには数字が表示されます。「富士通ハードウェア修理相談センター」までご連絡ください。
POSTエラー：キーボードエラー	キーボードテストでエラーが発生しました。 キーが押されたままになっていないか、またはキーボードが正しく接続されているか、確認してください。
POSTエラー：日付/時刻不正	日付、時刻が正しく設定されていません。 「システム時刻」「システム日付」の設定を確認してください。
あ	
イベントログがクリアされた	イベントログがクリアされました。
か	
強制終了が実行されました	強制終了が実行されました。
さ	
システム設定が変更された	システム設定が変更されました。
診断プログラムが異常を検出（詳細コード＝nnnnnnnn）	診断プログラム実行結果でエラーを検出しました。
は	
パスワード入力不正	誤ったパスワードが3回入力されました。
ファンエラーが発生した	ファンエラーが発生しました。 「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
ま	
メモリ容量が前回起動時から変更された	メモリ容量が前回起動時から変更されました。

7.3 それでも解決できないときは

7.3.1　お問い合わせ先

■ 弊社へのお問い合わせ

故障かなと思われたときや、技術的なご質問・ご相談などについては、『取扱説明書』をご覧になり、弊社までお問い合わせください。

■ ソフトウェアに関するお問い合わせ

本パソコンに添付されている、次のソフトウェアの内容については、各連絡先にお問い合わせください。
電話番号などが変更されている場合は、『取扱説明書』をご覧になり、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」へお問い合わせください。

- マカフィー リブセーフ
  マカフィー株式会社
  URL：http://www.mcafee.com/japan/home/support/
  （1）テクニカルサポートセンター
  インストール方法、製品削除など技術に関するお問い合わせ窓口
  電話：0570-060-033（携帯電話からの場合：03-5428-2279）
  受付時間：9:00 ～ 21:00（年中無休）
  お問い合わせフォーム：http://www.mcafee.com/japan/home/support/tsquery/
  （2）カスタマーサービスセンター
  ご契約の更新、ご契約期間の確認など、ご契約に関するお問い合わせ窓口
  電話：0570-030-088（携帯電話からの場合：03-5428-1792）
  受付時間：9:00 ～ 17:00（土・日・祝祭日を除く）
  お問い合わせフォーム：http://www.mcafee.com/japan/home/support/csquery/
  60 日間の試用期間中、サポートいたします。
- i-フィルター
  デジタルアーツ株式会社
  サポートセンター
  電話：0570-00-1334
  受付時間：10:00～18:00（指定休業日を除く）
  URL：http://www.daj.jp/faq/
  お問い合わせフォーム：http://www.daj.jp/ask/
  30日間の試用期間中、サポートいたします。

8

第8章

仕様

本製品の仕様を記載しています。

8.1 本体仕様 160
8.2 CPU 168
8.3 ディスプレイ 170
8.4 光学ドライブ 173
8.5 無線LAN 174

8.1 本体仕様

8.1.1 LIFEBOOK S937/P

無線WANモデルの仕様については「■ 無線WANモデル」（→P.163）をご覧ください。

■ 標準モデル

製品名称			LIFEBOOK S937/P 標準モデル	
CPU[注1]	名称		インテル® Core™ i5-7300Uプロセッサー	インテル® Celeron® プロセッサー 3965U
	動作周波数		2.60GHz（最大3.50GHz[注2]）	2.20GHz
	コア数／スレッド数		2／4	2／2
	キャッシュメモリ		2次：256KB×2 3次：3MB	2次：256KB×2 3次：2MB
メインメモリ			標準4GB（オンボード）[注3]／最大12GB（4GB（オンボード）＋8GB）[注4] （PC4-17000 DDR4 SDRAM ECCなし）	
メモリスロット			×1（空きメモリスロット×1）[注5]	
表示機能	グラフィックスアクセラレータ		Intel® HD Graphics 620（CPUに内蔵）	Intel® HD Graphics 610（CPUに内蔵）
	ビデオメモリ		メインメモリと共用	
	液晶ディスプレイ[注6]		LEDバックライト付13.3型ワイドTFTカラー	
	解像度／発色数[注7]			
		液晶ディスプレイ表示	WQHD（2560×1440ドット／1677万色）（グレア処理）	フルHD（1920×1080ドット／1677万色）（アンチグレア処理）[注8]
		外部ディスプレイ表示 本体	アナログ　：最大1920×1200ドット／最大1677万色 HDMI　：最大4096×2160ドット／最大1677万色	
		外部ディスプレイ表示 ポートリプリケータ	アナログ　：最大1920×1200ドット／最大1677万色 DVI-D　：最大1920×1200ドット／最大1677万色 DisplayPort：最大3840×2160ドット／最大1677万色	
	DirectX		12.0	
	OpenGL		4.4	
フラッシュメモリディスクドライブ[注9]			暗号化機能付フラッシュメモリディスク128GB（シリアルATA）[注10]	
光学ドライブ[注11]			CD/DVDドライブ[注12]	
オーディオ機能	オーディオコントローラー		チップセット内蔵＋High Definition Audioコーデック	
	PCM録音再生機能		サンプリング周波数：最大192kHz、24ビットステレオ（再生時）[注13] サンプリング周波数：最大96kHz、16ビットステレオ（録音時）[注13] 同時録音再生機能	
	MIDI再生機能		OS標準機能にてサポート	
	スピーカー		ステレオスピーカー	
	マイク		デジタルステレオマイク	デジタルステレオマイク[注11]
Webカメラ			有効画素数 約92万画素	有効画素数 約92万画素[注11]
キーボード			アイソレーションキーボード （キーピッチ約19mm、キーストローク約1.2mm、86キー、JIS配列準拠）	
ポインティングデバイス[注14]			タッチパネル、フラットポイント	フラットポイント

製品名称			LIFEBOOK S937/P 標準モデル	
通信機能	LAN		1000BASE-T／100BASE-TX／10BASE-T準拠[注15]、Wakeup on LAN対応[注16]	
	無線WAN		—	
	無線LAN[注11]	規格	IEEE 802.11a準拠、IEEE 802.11b準拠、IEEE 802.11g準拠、 IEEE 802.11n準拠、IEEE 802.11ac準拠 （5GHz帯チャンネル：W52/W53/W56）（Wi-Fi® 準拠）[注19]	
		内蔵アンテナ	ダイバーシティ方式[注20]	
	Bluetooth ワイヤレステクノロジー[注11][注21]		Bluetooth v4.1準拠	
インテル® vPro™テクノロジー／AMT			○／V11.6[注22]	—
セキュリティ機能	指紋センサー[注23]		スライド方式	
	NFCポート[注11]		あり	
	手のひら静脈センサー[注23]		あり	
	スマートカード[注11]		×1（専用スロット）[注24]	
	セキュリティチップ（TPM）		TCG Ver 2.0準拠	
	盗難防止用ロック取り付け穴		あり	
インターフェース	本体			
	SDメモリーカード[注25]		×1スロット	
	外部ディスプレイ	アナログ	アナログRGB ミニD-SUB15ピン×1	
		HDMI[注26]	HDMI出力×1	
	USB[注27]		USB3.0準拠[注28]×3 （右側面×2、左側面×1（電源オフUSB充電機能対応））	
	UIMカード		—	
	LAN		RJ-45×1	
	オーディオ	マイク・ライン イン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用[注29]	φ3.5mmステレオ・ミニジャック×1	
	ポートリプリケータ		×1（専用コネクタ）	
	状態表示		LED	
	モバイルマルチベイ		×1（専用コネクタ）	
	ポートリプリケータ[注30]			
	外部ディスプレイ	アナログ	アナログRGB ミニD-SUB15ピン×1	
		DisplayPort	20ピン×1	
		DVI-D	24ピン×1	
	USB[注27]		USB3.0準拠×4[注28]	
	LAN		RJ-45×1	
電源供給方式		ACアダプタ[注31]	本体添付[注32]：入力AC100V～240V、出力DC19V（3.42A） ポートリプリケータ添付：入力AC100V～240V、出力DC19V（4.74A）	
		バッテリ[注33]	内蔵バッテリパック（標準）：リチウムイオン 24Wh 内蔵バッテリパック（大容量）：リチウムイオン 77Wh 増設用内蔵バッテリユニット（別売）：リチウムイオン 28Wh	
バッテリ駆動時間[注34][注35] （JEITA測定法2.0[注36]）		標準	約7.4時間	
		大容量	約21.3時間	
		標準＋増設	約16.3時間	
		大容量＋増設	約30.3時間	
バッテリ充電時間[注37]			約2.4時間（標準）／約4.8時間（標準＋増設）／ 約3.4時間（大容量）／約5.8時間（大容量＋増設）	

製品名称	LIFEBOOK S937/P 標準モデル	
消費電力[注38]（最大時）	約3.1W（約65W）	
外形寸法（突起部含まず）	W 315.8×D 214×H 11.0～19.8mm	
質量[注39]	約1.25kg（標準）／ 約1.40kg（大容量）	約1.13kg（標準）／約1.28kg（大容量）
電波障害対策	VCCIクラスB	
省エネ法に基づくエネルギー消費効率	富士通製品情報ページ（http://www.fmworld.net/biz/）にある、 製品情報の仕様をご覧ください。	
国際エネルギースタープログラム[注40]	対応[注41]	
温湿度条件	温度5～35℃／湿度20～80%RH（動作時） 温度－10～60℃／湿度20～80%RH（非動作時） （ただし、動作時、非動作時とも結露しないこと）	
プレインストールOS[注42]	Windows 10 Pro（64ビット版）	
サポートOS[注42][注43]	Windows 10 Enterprise LTSB Upgrade 2016、 Windows 10 Enterprise（64ビット版）、 Windows 10 Pro（64ビット版）	

本パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

■ 無線WANモデル

製品名称			LIFEBOOK S937/P 無線WANモデル	
CPU[注1]	名称		インテル® Core™ i5-7300Uプロセッサー	インテル® Celeron® プロセッサー 3965U
	動作周波数		2.60GHz（最大3.50GHz[注2]）	2.20GHz
	コア数／スレッド数		2／4	2／2
	キャッシュメモリ		2次：256KB×2 3次：3MB	2次：256KB×2 3次：2MB
メインメモリ			標準4GB（オンボード）[注3]／最大12GB（4GB（オンボード）＋8GB）[注4] （PC4-17000 DDR4 SDRAM ECCなし）	
メモリスロット			×1（空きメモリスロット×1）[注5]	
表示機能	グラフィックスアクセラレータ		Intel® HD Graphics 620（CPUに内蔵）	Intel® HD Graphics 610 （CPUに内蔵）
	ビデオメモリ		メインメモリと共用	
	液晶ディスプレイ[注6]		LEDバックライト付13.3型ワイドTFTカラー	
	解像度／発色数[注7]			
		液晶ディスプレイ表示	WQHD（2560×1440ドット／1677万色） （グレア処理）	フルHD（1920×1080ドット／1677万色） （アンチグレア処理）[注8]
		外部ディスプレイ表示 本体	アナログ　：最大1920×1200ドット／最大1677万色 HDMI　：最大4096×2160ドット／最大1677万色	
		外部ディスプレイ表示 ポートリプリケータ	アナログ　：最大1920×1200ドット／最大1677万色 DVI-D　：最大1920×1200ドット／最大1677万色 DisplayPort：最大3840×2160ドット／最大1677万色	
	DirectX		12.0	
	OpenGL		4.4	
フラッシュメモリディスクドライブ[注9]			暗号化機能付フラッシュメモリディスク128GB（シリアルATA）[注10]	
光学ドライブ[注11]			CD/DVDドライブ[注12]	
オーディオ機能	オーディオコントローラー		チップセット内蔵＋High Definition Audioコーデック	
	PCM録音再生機能		サンプリング周波数：最大192kHz、24ビットステレオ（再生時）[注13] サンプリング周波数：最大96kHz、16ビットステレオ（録音時）[注13] 同時録音再生機能	
	MIDI再生機能		OS標準機能にてサポート	
	スピーカー		ステレオスピーカー	
	マイク		デジタルステレオマイク	デジタルステレオマイク[注11]
Webカメラ			有効画素数 約92万画素	有効画素数 約92万画素[注11]
キーボード			アイソレーションキーボード （キーピッチ約19mm、キーストローク約1.2mm、86キー、JIS配列準拠）	
ポインティングデバイス[注14]			タッチパネル、 フラットポイント	フラットポイント
通信機能	LAN		1000BASE-T／100BASE-TX／10BASE-T準拠[注15]、Wakeup on LAN対応[注16]	
	無線WAN[注17]		Xi対応（LTE） 受信時最大100Mbps、送信時最大50Mbps[注18]	
	無線LAN	規格	IEEE 802.11a準拠、IEEE 802.11b準拠、IEEE 802.11g準拠、 IEEE 802.11n準拠、IEEE 802.11ac準拠 （5GHz帯チャンネル：W52/W53/W56）（Wi-Fi® 準拠）[注19]	
		内蔵アンテナ	ダイバーシティ方式[注20]	
	Bluetooth ワイヤレステクノロジー[注21]		Bluetooth v4.1準拠	
インテル® vPro™テクノロジー／AMT			○／V11.6[注22]	—

製品名称				LIFEBOOK S937/P 無線WANモデル
セキュリティ機能	指紋センサー[注23]			スライド方式
	NFCポート[注11]			あり
	手のひら静脈センサー[注23]			あり
	スマートカード[注11]			×1（専用スロット）[注24]
	セキュリティチップ（TPM）			TCG Ver 2.0準拠
	盗難防止用ロック取り付け穴			あり
インターフェース	本体			
		SDメモリーカード[注25]		×1スロット
		外部ディスプレイ	アナログ	アナログRGB ミニD-SUB15ピン×1
			HDMI[注26]	HDMI出力×1
		USB[注27]		USB3.0準拠[注28]×3 （右側面×2、左側面×1（電源オフUSB充電機能対応））
		UIMカード		×1スロット
		LAN		RJ-45×1
		オーディオ	マイク・ライン イン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用[注29]	φ3.5mmステレオ・ミニジャック×1
		ポートリプリケータ		×1（専用コネクタ）
		状態表示		LED
		モバイルマルチベイ		×1（専用コネクタ）
	ポートリプリケータ[注30]			
		外部ディスプレイ	アナログ	アナログRGB ミニD-SUB15ピン×1
			DisplayPort	20ピン×1
			DVI-D	24ピン×1
		USB[注27]		USB3.0準拠×4[注28]
		LAN		RJ-45×1
電源供給方式			ACアダプタ[注31]	本体添付[注32]：入力AC100V～240V、出力DC19V（3.42A） ポートリプリケータ添付：入力AC100V～240V、出力DC19V（4.74A）
			バッテリ[注33]	内蔵バッテリパック（標準）：リチウムイオン 24Wh 内蔵バッテリパック（大容量）：リチウムイオン 77Wh 増設用内蔵バッテリユニット（別売）：リチウムイオン 28Wh
バッテリ駆動時間[注34][注35]（JEITA測定法2.0[注36]）			標準	約7.4時間
			大容量	約21.3時間
			標準＋増設	約16.3時間
			大容量＋増設	約30.3時間
バッテリ充電時間[注37]				約2.4時間（標準）／約4.8時間（標準＋増設）／ 約3.4時間（大容量）／約5.8時間（大容量＋増設）
消費電力[注38]（最大時）				約3.1W（約65W）
外形寸法（突起部含まず）				W 315.8×D 214×H 11.0～19.8mm
質量[注39]				約1.28kg（標準）／約1.43kg（大容量） / 約1.16kg（標準）／約1.31kg（大容量）
電波障害対策				VCCIクラスB
省エネ法に基づくエネルギー消費効率				富士通製品情報ページ（http://www.fmworld.net/biz/）にある、 製品情報の仕様をご覧ください。
国際エネルギースタープログラム[注40]				対応[注41]

製品名称	LIFEBOOK S937/P 無線WANモデル
温湿度条件	温度5～35℃／湿度20～80%RH（動作時） 温度－10～60℃／湿度20～80%RH（非動作時） （ただし、動作時、非動作時とも結露しないこと）
プレインストールOS[注42]	Windows 10 Pro（64ビット版）
サポートOS[注42][注43]	Windows 10 Enterprise LTSB Upgrade 2016、 Windows 10 Enterprise（64ビット版）、 Windows 10 Pro（64ビット版）

本パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

注1 ：・ソフトウェアによっては、CPU名表記が異なる場合があります。
・本パソコンに搭載されているCPUで使用できる主な機能については、「8.2 CPU」（→P.168）をご覧ください。
注2 ：インテル® ターボ・ブースト・テクノロジー 2.0（→P.168）動作時。
注3 ：カスタムメイドの選択によっては、次の容量のメモリが搭載されています。
・8GB（4GB（オンボード）＋4GB）
・12GB（4GB（オンボード）＋8GB）
注4 ：メモリの増設時は、場合によりすでに搭載されているメモリを取り外す必要があります。
注5 ：カスタムメイドの選択によっては、空きメモリスロットがない場合もあります。
注6 ：以下は液晶ディスプレイの特性です。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。
・液晶ディスプレイは非常に精度の高い技術で作られておりますが、画面の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります（有効ドット数の割合は99.99%以上です。有効ドット数の割合とは「対応するディスプレイの表示しうる全ドット数のうち、表示可能なドット数の割合」を示しています）。
・本パソコンで使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。また、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。
・長時間同じ表示を続けると残像となることがあります。残像は、しばらくすると消えます。この現象を防ぐためには、省電力機能を使用してディスプレイの電源を切るか、スクリーンセーバーの使用をお勧めします。省電力機能などを利用して、自動的にディスプレイの電源を切る設定は、「電源オプション」ウィンドウ左の「ディスプレイの電源を切る時間の指定」から行えます。
・表示する条件によってはムラおよび微少なはん点が目立つことがあります。
注7 ：・グラフィックスアクセラレータが出力する最大発色数は1677万色ですが、液晶ディスプレイではディザリング機能によって、擬似的に表示されます。
・外部ディスプレイに出力する場合は、お使いの外部ディスプレイがこの解像度をサポートしている必要があります。
注8 ：カスタムメイドで「13.3型WQHD」を選択した場合は、WQHD（2560×1440ドット／1677万色）（アンチグレア処理）となります。
注9 ：容量は、1GB=1000^3バイト換算値です。
注10：カスタムメイドの選択によっては、次のドライブが搭載されています。
・暗号化機能付フラッシュメモリディスク256GB（シリアルATA）
・暗号化機能付フラッシュメモリディスク512GB（シリアルATA）
注11：カスタムメイドの選択によって搭載されています。
注12：光学ドライブの仕様は、「8.4 光学ドライブ」（→P.173）をご覧ください。
注13：使用できるサンプリングレートは、ソフトウェアによって異なります。
注14：カスタムメイドの選択によっては、USBマウス（光学式またはレーザー式）が添付されています。
注15：・1000Mbpsは1000BASE-Tの理論上の最高速度であり、実際の通信速度はお使いの機器やネットワーク環境により変化します。
・1000Mbpsの通信を行うためには、1000BASE-Tに対応したハブが必要となります。また、LANケーブルには、1000BASE-Tに対応したエンハンスドカテゴリー 5（カテゴリー 5E）以上のLANケーブルを使用してください。
注16：・1000Mbpsのネットワーク速度しかサポートしていないハブでは、Wakeup on LAN機能は使用できません。
・Wakeup on LAN機能を使用する場合は、次の両方でリンク速度とデュプレックス共に自動検出可能な設定（オートネゴシエーション）にしてください。
・本パソコンの有線LANインターフェース
・本パソコンの有線LANインターフェースと接続するハブのポート
この両方が自動検出可能な設定になっていない場合、本パソコンが省電力状態や電源オフ状態のときにハブやポートをつなぎ変えたり、ポートの設定を変えたりするとWakeup on LAN機能が動作しない場合があります。
・Wakeup on LAN機能を有効に設定している場合、消費電力が増加するためバッテリの駆動時間が短くなります。
Wakeup on LAN機能を使用する場合は、ACアダプタを接続することをお勧めします。
・省電力状態からのWakeup on LAN機能を使用するには、「■ WoL機能によるレジュームの設定を変更する」（→P.47）をご覧ください。
・電源オフ状態からのWakeup on LAN機能を使用するには、「5.3.6 Wakeup on LANを有効にする」（→P.121）をご覧ください。
注17：無線 WAN をご利用になるには、当社が提供する企業向けネットワークサービス「 FENICS II ユニバーサルコネクト」の契約、または NTT ドコモとの回線契約およびプロバイダーとの契約が必要です。
注18：Xi エリア外であっても FOMA のエリア内であれば受信時最大 14Mbps 、送信時最大 5.7Mbps となります。
また、ベストエフォート方式による提供となります。これら通信速度とは、技術規格上の最大値であり、実際の通信速度を示すものではありません。実際の通信速度は、通信環境やネットワークの混雑状況に応じて変化します。エリアの詳細については、NTT ドコモのホームページ（http://www.nttdocomo.co.jp/support/area/index.html）をご覧ください。
注19：Wi-Fi® 準拠とは、無線LANの相互接続性を保証する団体「Wi-Fi Alliance®」の相互接続性テストに合格していることを示しています。
注20：IEEE 802.11n準拠またはIEEE 802.11ac準拠を使用したときは、MIMO方式にもなります。
注21：すべてのBluetoothワイヤレステクノロジー対応周辺機器の動作を保証するものではありません。
注22：カスタムメイドで「802.11ac無線LAN（インテル® vPro™ テクノロジー対応）」を選択すると、本パソコンはインテル® vPro™テクノロジー／AMT11.6対応となります。
注23：カスタムメイドにより、手のひら静脈センサーか指紋センサーのいずれかを選択できます。
注24：BIOSパスワードをスマートカード認証に置き換えることはできません。

注25：・すべてのSDメモリーカードの動作を保証するものではありません。
・著作権保護機能には対応していません。
・マルチメディアカード（MMC）、およびセキュアマルチメディアカードには対応していません。
・ご使用可能なSDメモリーカードは最大2GB、SDHCメモリーカードは最大32GB、microSDXCカードは最大128GB、SDXCメモリカードは最大512GBまでとなります。
・miniSDカードやmicroSDカード／microSDHCカードをお使いの場合は、アダプターが必要になります。
・SDIOカードには対応していません。

注26：・HDMI端子のあるすべてのディスプレイへの表示を保証するものではありません。
・市販のテレビとの連動機能はありません。

注27：すべてのUSB対応周辺機器の動作を保証するものではありません。

注28：USB3.0準拠のポートについて、外部から電源が供給されないUSB対応周辺機器を接続するときの消費電流の最大容量は、1ポートにつき900mAです。詳しくは、USB対応周辺機器のマニュアルをご覧ください。

注29：ご購入時はヘッドホン出力に設定されています。マイク・ラインイン端子、ラインアウト・ヘッドセット端子として使用するには「2.6.4 オーディオ端子の機能を切り替える」（→P.43）をご覧ください。

注30：カスタムメイドの選択によって添付されています。

注31：標準添付されている電源ケーブルはAC100V（国内専用品）用です。また、矩形波が出力される機器（UPS（無停電電源装置）や車載用AC電源など）に接続されると、故障する場合があります。

注32：カスタムメイドの選択により、ECO Sleep対応ACアダプタ（入力AC100V～240V、出力DC19V（4.22A））が添付されます。

注33：カスタムメイドの選択により、内蔵バッテリパック（標準）か内蔵バッテリパック（大容量）のいずれかが搭載されています。

注34：バッテリ駆動時間は、ご利用状況やカスタムメイド構成によっては記載時間と異なる場合があります。

注35：BIOSセットアップの「詳細」メニュー→「各種設定」→「ハードウェア省電力機能」を「使用する」に設定した場合のバッテリ駆動時間です。

注36：一般社団法人電子情報技術産業協会の「JEITAバッテリ動作時間測定法（Ver.2.0）」（http://home.jeita.or.jp/cgi-bin/page/detail.cgi?n=84&ca=14）に基づいて測定。

注37：・電源オフ時および省電力状態時。装置の動作状況により充電時間が長くなることがあります。
・バッテリーユーティリティで「80%充電モード」に設定した場合の充電時間は異なります。

注38：・当社測定基準によります（標準搭載メモリ、標準フラッシュメモリディスク容量、DVD-ROMドライブ／スーパーマルチドライブ搭載（搭載可能機種のみ）、無線LANなし、LCD輝度最小）。
・電源オフ時の消費電力は、約0.2W（満充電時）です。
電源オフ時の消費電力を0にするには、電源ケーブルをコンセントから抜いてください。

注39：カスタムメイドで選択した場合、別売オプションを取り付けた場合の質量の増加は、次のとおりです。
・内蔵スーパーマルチドライブユニット　：約100g
・内蔵DVD-ROMドライブユニット　　：約100g
・増設用内蔵バッテリユニット（別売）　：約200g

注40：「国際エネルギースタープログラム」は、長時間電源を入れた状態になりがちなオフィス機器の消費電力を削減するための制度です。

注41：当社は、国際エネルギースタープログラムの参加事業者として本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。

注42：日本語版。

注43：・富士通は、本製品で「サポートOS」を動作させるために必要なBIOSおよびドライバーを提供しますが、すべての機能を保証するものではありません。
・Windowsを新規にインストールする場合は、「付録2 Windowsの新規インストールについて」（→P.180）をご覧ください。

8.2 CPU

本パソコンに搭載されているCPUで使用できる主な機能は、次のとおりです。

お使いのパソコン本体に搭載されているCPUの欄をご覧ください。

機能	インテル® Core™ i5-7300Uプロセッサー	インテル® Celeron® プロセッサー 3965U
インテル® ターボ・ブースト・テクノロジー 2.0	○	×
インテル®ハイパースレッディング・テクノロジー	○	×
インテル® バーチャライゼーション・テクノロジー	○	○
拡張版Intel SpeedStep® テクノロジー（EIST）	○	○
エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能	○	○

■ インテル®ターボ ・ ブースト ・ テクノロジー 2.0

インテル®ターボ・ブースト・テクノロジー 2.0は、従来のマルチコアの使用状況にあわせてCPUが処理能力を自動的に向上させる機能に加え、高負荷時にパフォーマンスを引き上げるように最適化された機能です。

POINT

- OSおよびソフトウェアの動作状況や設置環境などにより処理能力量は変わります。性能向上量は保証できません。

■ インテル® ハイパースレッディング ・ テクノロジー

インテル® ハイパースレッディング・テクノロジーは、OS上で物理的な1つのCPUコアを仮想的に2つのCPUのように見せることにより、1つのCPUコア内でプログラムの処理を同時に実行し、CPUの処理性能を向上させる機能です。複数のソフトウェアを同時に使っている場合でも、処理をスムーズに行うことが可能です。
この機能はご購入時には有効に設定されています。設定はBIOSセットアップで変更できます。『BIOSセットアップメニュー 一覧』の「詳細」メニューをご覧ください。

POINT

- OSおよびソフトウェアの動作状況や設置環境などにより処理能力量は変わります。性能向上量は保証できません。

■ インテル® バーチャライゼーション ・ テクノロジー

インテル® バーチャライゼーション・テクノロジーは、本機能をサポートするVMM（仮想マシンモニター）をインストールすることによって、仮想マシンの性能と安全性を向上させるための機能です。
この機能はご購入時には有効に設定されています。設定はBIOSセットアップで変更できます。『BIOSセットアップメニュー 一覧』の「詳細」メニューをご覧ください。

■ 拡張版Intel SpeedStep® テクノロジー （EIST）

拡張版Intel SpeedStep® テクノロジーは、実行中のソフトウェアのCPU負荷に合わせて、WindowsがCPUの動作周波数および動作電圧を自動的に低下させる機能です。
この機能はご購入時には有効に設定されています。設定はBIOSセットアップで変更できます。『BIOSセットアップメニュー 一覧』の「詳細」メニューをご覧ください。

POINT

- この機能により本パソコンの性能が低下することがあります。お使いの環境で性能の低下が気になる場合は、電源プランを「高パフォーマンス」に切り替えてください。電源プランを切り替えるには、「■ 電源プランを切り替える」（→P.50）をご覧ください。

■ エグゼキュート ・ ディスエーブル ・ ビット機能

エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能は、Windowsのデータ実行防止（DEP）機能と連動し、悪意のあるプログラムが不正なメモリ領域を使用すること（バッファー・オーバーフロー脆弱性）を防ぎます。
データ実行防止（DEP）機能がウイルスやその他の脅威を検出した場合、「［ソフトウェア名称］は動作を停止しました」という画面が表示されます。「プログラムの終了」をクリックし、表示される対処方法に従ってください。

8.3 ディスプレイ

8.3.1　シングル表示／拡張デスクトップ表示の解像度

パソコン本体の液晶ディスプレイまたは外部ディスプレイのシングル表示の場合、拡張デスクトップ表示の場合に、本パソコンが出力可能な解像度です。
外部ディスプレイの場合、お使いのディスプレイが対応している解像度のみ表示できます。
お使いのディスプレイのマニュアルをご覧になり、表示可能な解像度を確認してください。
発色数は「32ビット」（約1677万色）です。

POINT

- お使いのOS、ディスプレイにより、表に記載のない解像度も選択可能な場合があります。

■ パソコン本体の液晶ディスプレイ

お使いのパソコン本体の液晶ディスプレイ欄をご覧ください。

解像度	WQHD（2560×1440）	フルHD（1920×1080）
1024×768	○	○
1280×720	○	○
1280×800	○	○
1280×1024	○	○
1360×768	○	○
1366×768	○	○
1440×900	○	○
1600×900	○	○
1600×1200	○	−
1680×1050	○	○
1920×1080	○	○
1920×1200	○	−
1920×1440	○	−
2560×1440	○	−

■ 外部ディスプレイ（アナログ接続／DVI接続／DisplayPort接続／HDMI接続）

解像度	リフレッシュレート（Hz）	対応
1024×768	60	○
	70[注1]	
	75[注1]	
	85[注1]	
1280×720	60	○
1280×800	60	○
1280×1024	60	○
	75[注1]	
	85[注1]	
1360×768	60	○
1366×768	60	○
1440×900	60	○
1600×900	60	○
1600×1200	60	○
1680×1050	60	○
1920×1080	60	○
1920×1200[注2]	60	○
1920×1440[注3][注4]	60	○
2560×1440[注3][注4]	60	○
2560×1600[注3][注4]	60	○
3840×2160[注3][注4]	30	○
4096×2160[注4]	24	○

注1 ：次の場合は設定できません。最大リフレッシュレートは60Hzになります。
- DVI接続
- DisplayPort接続
- HDMI接続

注2 ：DVI接続の場合、最大サポート解像度は1920×1200ドット、60Hz（CVT RB：Coordinated Video Timings Reduced Blanking）です。
お使いのディスプレイが1920×1200ドット表示をCVT RBで対応していれば選択できますが、CVT RBではなく、Standard Timingsで対応している場合には選択できず、1920×1080、1680×1050などの解像度が選択可能な解像度になります。お使いのディスプレイの仕様については、ディスプレイメーカーに確認してください。

注3 ：DisplayPortコネクタを使用する場合に表示可能。

注4 ：HDMI出力端子を使用する場合に表示可能。

8.3.2　クローン表示の解像度

クローン表示する場合に設定可能な解像度は、お使いの外部ディスプレイの仕様により異なります。同時に表示する2つのディスプレイの、最大解像度より小さい解像度またはそれ未満の解像度で表示できます。
お使いのディスプレイのマニュアルをご覧になり、表示可能な解像度を確認してください。
発色数は「32ビット」（約1677万色）です。

POINT

- お使いのOS、ディスプレイにより、表に記載のない解像度も選択可能な場合があります。

■ パソコン本体の液晶ディスプレイ＋外部ディスプレイ （アナログ接続／DVI接続／DisplayPort接続／HDMI接続）

お使いのパソコン本体の液晶ディスプレイ欄をご覧ください。

解像度	WQHD（2560×1440）	フルHD（1920×1080）
1024×768	○	○
1280×720	○	○
1280×800	○	○
1280×1024	○	○
1360×768	○	○
1366×768	○	○
1440×900	○	○
1600×900	○	○
1600×1200	○	－
1680×1050	○	○
1920×1080	○	○
1920×1200	○	－
1920×1440	○	－
2560×1440	○	－

8.4 光学ドライブ

対 象　光学ドライブ搭載機種

各数値は仕様上の最大値です。使用するディスクや状況によって異なる場合があります。
お使いの光学ドライブの欄をご覧ください。

ディスク	スーパーマルチドライブ注		DVD-ROMドライブ	
	読込速度	書込速度	読込速度	書込速度
CD-ROM	24x	−	24x	−
CD-R	24x	24x	24x	−
CD-RW	24x	10x	24x	−
DVD-ROM	8x	−	8x	−
DVD-R（4.7GB）	8x	8x	8x	−
DVD-R DL（8.5GB）	8x	6x	8x	−
DVD-RW	8x	6x	8x	−
DVD+R（4.7GB）	8x	8x	8x	−
DVD+R DL（8.5GB）	8x	6x	8x	−
DVD+RW（4.7GB）	8x	8x	8x	−
DVD-RAM（4.7GB/9.4GB）	5x	5x	5x	−

注 ： バッファーアンダーランエラー防止機能付

8.5 無線LAN

本パソコンに搭載されている無線LANの仕様は次のとおりです。

■ Intel(R) Dual Band Wireless-AC 8265

項目	仕様	
無線LAN規格	IEEE 802.11a準拠、IEEE 802.11b準拠、IEEE 802.11g準拠、IEEE 802.11n準拠、 IEEE 802.11ac準拠（5GHz帯チャンネル：W52/W53/W56）（Wi-Fi®準拠）注1	
転送レート	IEEE 802.11b準拠	11～1Mbps（自動切り替え）
	IEEE 802.11a準拠 IEEE 802.11g準拠	54～6Mbps（自動切り替え）
	IEEE 802.11n準拠	300～6Mbps（自動切り替え、HT20/40対応）注2
	IEEE 802.11ac準拠	867～6Mbps（自動切り替え、VHT20/40/80対応）注3
セキュリティ注4	SSID（ネットワーク名） WEP（セキュリティキー（WEPキー）：64/128ビット）注5 WPA-パーソナル（WPA-PSK）（TKIP/AES） WPA2-パーソナル（WPA2-PSK）（TKIP/AES） WPA-エンタープライズ（WPA）（TLS/PEAP）（TKIP/AES） WPA2-エンタープライズ（WPA2）（TLS/PEAP）（TKIP/AES） IEEE 802.1X（TLS/PEAP）	
使用周波数範囲	2,400MHz～2,483.5MHz 5,150MHz～5,340MHz 5,460MHz～5,740MHz	
チャンネル数注6	IEEE 802.11b準拠 IEEE 802.11g準拠	1～13ch
	IEEE 802.11a準拠	W52（36/40/44/48ch）/W53（52/56/60/64ch）/ W56（100/104/108/112/116/120/124/128/132/136/140ch）
	IEEE 802.11n準拠	・2.4GHzモード 1～13ch ・5GHzモード W52（36/40/44/48ch）/W53（52/56/60/64ch）/ W56（100/104/108/112/116/120/124/128/132/136/140ch）
	IEEE 802.11ac準拠	W52（36/40/44/48ch）/W53（52/56/60/64ch）/ W56（100/104/108/112/116/120/124/128/132/136/140ch）

注1 ：Wi-Fi®準拠とは、無線LANの相互接続性を保証する団体「Wi-Fi Alliance®」の相互接続性テストに合格していることを示します。

注2 ：・IEEE 802.11nではHT20/40に対応しています。HT40を利用するには、無線LANアクセスポイントもHT40に対応している必要があります。
・IEEE 802.11nを使用する際の無線LANアクセスポイントの設定で、HT40の機能を有効にする場合には、周囲の電波状況を確認して他の無線局に電波干渉を与えないことを事前に確認してください。万一、他の無線局において電波干渉が発生した場合には、ただちにHT40の機能を無効にしてください。

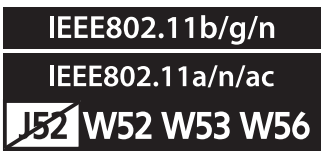
注3 ：・IEEE 802.11acではVHT20/40/80に対応しています。VHT80を利用するには、無線LANアクセスポイントもVHT80に対応している必要があります。
・IEEE 802.11acを使用する際の無線LANアクセスポイントの設定で、VHT40/80の機能を有効にする場合には、周囲の電波状況を確認して他の無線局に電波干渉を与えないことを事前に確認してください。万一、他の無線局において電波干渉が発生した場合には、ただちにVHT40/80の機能を無効にしてください。

注4 ：IEEE 802.11n、IEEE 802.11acで接続するためには、パスフレーズ（PSK）をAESに設定する必要があります。

注5 ：WEPによる暗号化は上記ビット数で行いますが、ユーザーが設定可能なビット数は固定長24ビットを引いた40ビット/104ビットです。

注6 ：このパソコンに搭載されている無線LANのIEEE 802.11bでは、無線チャンネルとしてチャンネル1～13を使用しています。無線LANアクセスポイントのチャンネルを、1～13の間で設定してください。設定方法については、無線LANアクセスポイントのマニュアルをご覧ください。

□5GHz帯のチャンネルについて



IEEE 802.11a/b/g/n/ac準拠の無線LANを搭載した機種では、5GHzの周波数帯において、次のチャンネルを使用できます。

- W52：36（5,180MHz）/40（5,200MHz）/44（5,220MHz）/48（5,240MHz）
- W53：52（5,260MHz）/56（5,280MHz）/60（5,300MHz）/64（5,320MHz）
- W56：100（5,500MHz）/104（5,520MHz）/108（5,540MHz）/112（5,560MHz）/116（5,580MHz）/120（5,600MHz）/124（5,620MHz）/128（5,640MHz）/132（5,660MHz）/136（5,680MHz）/140（5,700MHz）

5GHz帯を使用する場合は、上記チャンネルを利用できる無線LAN製品とのみ通信が可能です。

廃棄・リサイクル

■ 本製品の廃棄について

- **フラッシュメモリディスクのデータを消去していますか？**
  パソコン本体に搭載されているフラッシュメモリディスクには、お客様の重要なデータ（作成したファイルや送受信したメールなど）が記録されています。パソコンを廃棄するときは、フラッシュメモリディスク内のデータを完全に消去することをお勧めします。
  フラッシュメモリディスク内のデータ消去については、「付録1 パソコン本体の廃棄・譲渡時の注意」（→P.177）をご覧ください。
- **本製品（付属品を含む）を廃棄する場合は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の規制を受けます。**
  ・法人、企業のお客様へ
  本製品の廃棄については、弊社ホームページ「ICT製品の処分・リサイクル方法」（http://www.fujitsu.com/jp/about/environment/society/products/recycleinfo/）をご覧ください。
  ・個人のお客様へ
  本製品を廃棄する場合は、弊社ホームページ「富士通パソコンリサイクル」（http://azby.fmworld.net/recycle/）をご覧ください。

■ 使用済みバッテリについて

- **使用済みバッテリは、次のように取り扱いください。**
  ・リチウムイオン電池のバッテリパック、バッテリユニットは、貴重な資源です。リサイクルにご協力ください。
  ・使用済みバッテリは、ショート防止のためビニールテープなどで絶縁処理をしてください。
  ・バッテリを火中に投じると破裂のおそれがありますので、絶対にしないでください。
  バッテリの仕様については、「仕様一覧」－「本体仕様」またはバッテリのマニュアルをご覧ください。
- **使用済みバッテリを廃棄する場合は、次のように行ってください。**
  ・法人・企業のお客様へ
  弊社ホームページ「ICT製品の処分・リサイクル方法」（http://www.fujitsu.com/jp/about/environment/society/products/recycleinfo/）をご覧ください。
  ・個人のお客様へ
  使用済みバッテリは廃棄せずに、充電式電池リサイクル協力店に設定してあるリサイクルBOXに入れてください。
  詳しくは、一般社団法人JBRCのホームページ（http://www.jbrc.com/）をご覧ください。
  弊社は一般社団法人JBRCに加盟し、リサイクルを実施しています。

このマークは、リチウムイオン電池のリサイクルマークです。

Li-ion

付録1　パソコン本体の廃棄 ・ 譲渡時の注意

ここでは、パソコンを廃棄・譲渡するときにデータが流出するのを防ぐための対策について説明しています。

パソコンの廃棄・譲渡時のフラッシュメモリディスク上のデータ消去に関する注意

パソコンは、オフィスや家庭などで、いろいろな用途に使われるようになってきています。これらのパソコンの中のフラッシュメモリディスクという記憶装置に、お客様の重要なデータが記録されています。
したがって、そのパソコンを譲渡あるいは廃棄するときには、これらの重要なデータを消去するということが必要です。
ところが、このフラッシュメモリディスク内に書き込まれたデータを消去するというのは、それほど簡単ではありません。
「データを消去する」という場合、一般に
① データを「ごみ箱」に捨てる
②「削除」操作を行う
③「ごみ箱を空にする」コマンドを使って消す
④ ソフトで初期化（フォーマット）する
⑤ リカバリし、ご購入時の状態に戻す
などの作業を行うと思います。
まず、「ごみ箱」にデータを捨てても、OSのもとでファイルを復元することができてしまいます。さらに②～⑤の操作をしても、フラッシュメモリディスク内に記録されたデータのファイル管理情報が変更されるだけで、実際はデータが見えなくなっているだけの場合があります。
つまり、一見消去されたように見えますが、WindowsなどのOSのもとで、それらのデータを呼び出す処理ができなくなっただけで、本来のデータは残っているという状態にあるのです。したがいまして、特殊なデータ回復のためのソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読みとることが可能な場合があります。このため、悪意のある人により、このパソコンのフラッシュメモリディスク内の重要なデータが読み取られ、予期しない用途に利用されるおそれがあります。
パソコンユーザーが、廃棄・譲渡等を行う際に、フラッシュメモリディスク上の重要なデータが流出するというトラブルを回避するためには、フラッシュメモリディスクに記録された全データを、ユーザーの責任において消去することが非常に重要です。消去するためには、専用ソフトウェアあるいはサービス（共に有償）を利用するか、フラッシュメモリディスク上のデータを物理的・磁気的に破壊して、読めなくすることを推奨します。
なお、フラッシュメモリディスク上のソフトウェア（OS、アプリケーションソフトなど）を削除することなくパソコンを譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合があるため、充分な確認を行う必要があります。

フラッシュメモリディスクデータ消去

本パソコンには、専用ソフトウェア「ハードディスクデータ消去」が添付されています。
「ハードディスクデータ消去」は、WindowsなどのOSによるファイル削除やフォーマットと違い、フラッシュメモリディスクの全領域に固定パターンを上書きするため、データが復元されにくくなります。
ただし、特殊な設備や特殊なソフトウェアの使用によりデータを復元される可能性はあります。あらかじめご了承ください。

■ 注意事項

- パソコン本体にUSBメモリ、メモリーカード、外付けハードディスクなど周辺機器を接続している場合は、「ハードディスクデータ消去」を実行する前に必ず取り外してください。
- データ消去を実行するとフラッシュメモリディスクに格納されているデータ（リカバリデータなど）も消去されます。
  必要があれば「ハードディスクデータ消去」の前にリカバリデータディスクを作成してください。作成方法は『リカバリガイド』をご覧ください。
- 必要なデータはバックアップしてください。
- データ消去終了まで、数時間かかります。本パソコンで「ハードディスクデータ消去」を実行する場合は、ACアダプタを接続してください。
- データ消去中に電源を切らないでください。フラッシュメモリディスクが故障する可能性があります。

■ データ消去方法

1 【F12】キーを押したまま、本パソコンの電源を入れます。

2 ビープ音が鳴ったら、【F12】キーを離します。

POINT

- BIOSセットアップの「セキュリティ」メニューの「起動メニュー」が「使用しない」の場合は、起動メニューを使用できません。その場合は、「使用する」に設定し直してください。
  BIOSセットアップについては、「5.2.1 BIOSセットアップを起動する」（→P.111）をご覧ください。
- 起動時のパスワードを設定している場合は、パスワードを入力してください。
  指紋または手のひら静脈を登録した場合は、認証を行ってください。
- Windowsが起動してしまった場合は、本パソコンの電源を完全に切ってからもう一度操作してください。電源の切り方は、「2.7.2 電源を切る」（→P.48）をご覧ください。
- 高速起動が有効になっているためUSBキーボードが使えない場合があります。内蔵キーボードを使って操作してください。

3 【Tab】キーを押します。
アプリケーションメニューが表示されます。

4 カーソルキーで「診断プログラム」を選択し、【Enter】キーを押します。
「診断プログラムを実行しますか？」と表示されます。

5 【Y】キーを押します。
ハードウェア診断が始まります。
ハードウェア診断が終了したら、診断結果が表示されます。診断結果が表示される前に、自動的にパソコンが再起動する場合があります。

6 次の操作を行います。
●トラブルが検出されなかった場合
【Enter】キーを押してください。続けて「富士通ハードウェア診断ツール」が起動します。
「富士通ハードウェア診断ツール」ウィンドウと「注意事項」ウィンドウが表示されます。手順7へ進んでください。
●トラブルが検出された場合
手順7以降の「富士通ハードウェア診断ツール」での診断は不要です。画面に表示された内容を控え、お問い合わせのときにお伝えください。その後、【Y】キーを押してパソコンの電源を切ってください。
電源が自動で切れない場合は、電源ボタンを押して電源を切ってください。

7 「注意事項」ウィンドウの内容を確認し、「OK」をクリックします。

8 「ツール」タブをクリックます。

9 「データ消去」にチェックを付け「実行」をクリックします。
表示された画面に従って操作してください。
データの消去には数時間かかります。完了すると「消去が完了しました。」と表示されます。

重 要

- フラッシュメモリディスク搭載機種の場合、ハードディスクデータを消去する方式は、必ず「SSD対応（フラッシュメモリディスク用）」を選択してください。それ以外の方式を選択すると、完全にデータを消去することができませんのでご注意ください。

10 「終了」をクリックします。
パソコン本体の電源が切れます。

重 要

- 電源が自動で切れない場合は、電源ボタンを4秒以上押して、電源を切ってください。

付録2　Windowsの新規インストールについて

Windowsを新規にインストールするときに気を付けていただきたいことについて説明します。

注意事項

- Windowsを新規にインストールすると、フラッシュメモリディスクのすべてのデータが削除されます。必要に応じて事前にバックアップしてください。
- Windowsをインストールすることにより、今までお使いになっていた機能が使えなくなることがあります。
- ご購入後に増設・接続された周辺機器は、必ず取り外してください（カスタムメイドオプションを除く）。OSの新規インストールが完了してから、1つずつ取り付けてください。
- 「ドライバーズディスク」の「種別」－「必須」に表示されるドライバーはすべてインストールしてください。また、ご購入時に選択したカスタムメイドに合わせたドライバーも必ずインストールしてください。インストールしなかった場合、パソコンが正常に動作しません。
- 最新版のドライバーやユーティリティは、富士通製品情報ページ（http://www.fmworld.net/biz/fmv/index_support.html）にて提供されている場合があります。システムの安定稼働のため、常に最新版のドライバーやユーティリティを適用することをお勧めします。
- 光学ドライブが搭載されていない場合は、別売の外付け光学ドライブを接続してください。

■ Windows 10を新規インストールする場合の注意

- Windows 10を新規にインストールする場合には、初期セットアップ後にスタートメニューやWindows ユニバーサル アプリが開けなくなる問題に対処する次の修正プログラムをインストールする必要があります。
  なお、問題が発生してWindowsの操作ができなくなった場合は、再度Windows 10を新規インストールしてから、修正プログラムをインストールしてください。

  修正プログラム：KB3194798、または以降の累積的な修正プログラム

  ・Windows 10 更新履歴
  https://support.microsoft.com/ja-jp/help/12387/windows-10-update-history
  ・ダウンロードURL
  http://catalog.update.microsoft.com/v7/site/Search.aspx?q=KB3194798
  （なお、このURLは変更されることがあります）
  ・インストール方法
  1. 管理者アカウントでサインインします。
  2. ダウンロードしたファイルを格納したフォルダーを開きます。
  3. ダウンロードしたファイルをダブルクリックします。
     修正プログラムが実行されます。
     この後は、表示された画面に従って操作してください。

新規インストールの準備

■ BIOSの設定をご購入時の状態に戻す （→P.122）

■ セキュリティチップをクリアする （→P.118）

■ フラッシュメモリディスクデータを消去する （→P.178）

■ Windowsをインストールする前にBIOSセットアップの設定を変更する

次の表をご覧になり、新規にインストールするOSの欄のとおりに設定を変更します。
BIOSセットアップについては、「5.2.1 BIOSセットアップを起動する」（→P.111）をご覧ください。

メニュー	設定項目		設定値
詳細	起動設定		
		高速起動	使用する
		互換性サポートモジュール[注]	使用しない
セキュリティ	セキュアブート設定		
		セキュアブート機能	使用する

注 ：「セキュアブート機能」の設定が「使用する」の場合、「互換性サポートモジュール」の設定は自動的に「使用しない」になり、変更できなくなります。

■ ディスクを用意する

- 正規のWindows 10のインストールディスク
- ドライバーズディスク

新規インストール手順

1 Windowsのインストールディスクを起動します。

1. 【F12】キーを押しながら、本パソコンの電源を入れます。
2. ビープ音が鳴ったら、【F12】キーを離します。
3. インストールディスクをセットします。
4. CD/DVDを選択して【Enter】キーを押します。

・「選択したデバイスから起動できませんでした。」と表示された場合
BIOSの設定が誤っている可能性があります。「■ Windowsをインストールする前にBIOSセットアップの設定を変更する」（→P.181）に戻り、設定を確認してください。

・「CD/DVDの起動モードを選択してください」と表示された場合
BIOSの設定が誤っている可能性があります。「■ Windowsをインストールする前にBIOSセットアップの設定を変更する」（→P.181）に戻り、設定を確認してください。

「Press any key to boot from CD or DVD…」と表示された場合は、何かキーを押してください。

2 画面の指示に従って、Windowsのインストールとセットアップを行います。
途中、「Windowsのインストール場所を選択してください。」と表示された場合は、「プライマリ」と書かれたパーティションを選択してください。

3 ドライバーおよびユーティリティをインストールします。

1. 「ドライバーズディスク」をセットします。
   「ドライバーズディスク検索（DRVCDSRC.exe）」が起動します。
   自動的に起動しない場合は、「DRVCDSRC.exe」を実行してください。
2. 「種別」から「必須」を選択します。
3. 表示されたドライバーを、上から順にすべてインストールします。
4. 「種別」から「任意」または「すべて」を選択し、ご購入時に選択したカスタムメイドにあわせて必要なドライバーをインストールします。

POINT

- インターネットに接続すると、自動的にインストールされるドライバーおよびユーティリティがあります。

4 すべてのドライバーおよびユーティリティをインストールした後は、Windows Updateを実行しWindowsを最新の状態に更新してください。
詳しくはWindowsのヘルプをご覧ください。

付録3　認定および準拠について

本パソコンに固有の認定および準拠マークに関する詳細（認証・認定番号を含む）は、次の手順で表示される画面で確認できます。

1. BIOSセットアップを起動します。
   「5.2.1 BIOSセットアップを起動する」（→P.111）
2. 「情報」メニューを選択します。
3. 「認証表示」を選択し、【Enter】キーを押します。
   「認証表示（Display Regulatory Compliance）」が表示されます。

LIFEBOOK
S937/P

製品ガイド
B5FK-8951-01 Z0-00

発 行 日　2017年4月
発行責任　富士通株式会社

〒105-7123　東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター

●このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
●このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権および
その他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
●無断転載を禁じます。